独立行政法人福祉医療機構・2019 年度社会福祉振興助成事業

「子どもを地域で包括的に支援する　アウトリーチ型多機能拠点づくり事業」報告書

令和２年（2020 年）３月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
http://www.chibasha.com/

はじめに

私たちは、「本人の思いや願いを受け止め、生きる力を地域で支える」を基本理念とし、子どもやお年寄り、障がい者など、地域に住む誰もが住み慣れた家や地域で、これまでの人間関係や生活を維持･継続しながら、自分らしく暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、活動を行ってまいりました。

活動を通じて実感することは、公的なサービスや社会保障制度からこぼれ落ちてしまう人たち、貧困等の連鎖を断ち切れず、「生きづらさ」抱えながら暮らし続ける人たちがいることです。こうした状況が常に私たちの暮らしと隣りあわせにあり、さらにその影響が子ども達にも及んでいることです。

そこで私たちは、2017 年度に、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮の状態にある世帯の子どものための拠点「学び舎・ゆーすぽーと」を開設し支援するとともに、アンケート調査を行い生活実態の把握と啓発を行い、子ども達への支援の糸口を見出すことができました。

２年目（2018 年度）も、本助成事業の支援（助成）をいただき、地域に密着した支援をより進めるために、小規模多機能型居宅介護事業所を拠点に、共生型サービスの仕組みを活用した子どもと保護者への支援及び関係機関等との連携・協働にも取り組みました。

そして、３年目（2019 年度）の今年度は、移動弱者である子どもに対しての「アウトリーチ」や「送迎支援」を行うとともに、一時保護が必要と思われる子どもについては、子どもの関係性や環境を維持継続できるよう支援を行い、自宅・地域での保護の可能性に取り組んできました。

私たちが取り組んできた支援は、この地域だけに必要な特有な支援ではなく、どの地域でも普通に必要な支援であると考え、今後もこの取り組みをさらに深め、他の地域でも取り組んでいけるよう啓発してまいりたいと思っております。

最後に、今年度も助成いただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめとし、東金市（社会福祉課・子ども課を主とした関係各課）、東金市教育委員会、東金市内の学校関係者、東金市社会福祉協議会、山武ボランティア協会、地域のボランティア等多くの地域の皆さまの多大な協力により本事業を実施・運営することができましたことに深く感謝申し上げます。

ここに事業の成果をご報告するとともに、今後も「学び舎・ゆーすぽーと」の活動にご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和２年３月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
代表理事　　宮　下　裕　一

「子どもを地域で包括的に支援する
アウトリーチ型多機能拠点づくり事業」報告書
目　次

序　章　事業背景・概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第１章　事業内容・実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

１　「学び舎・ゆーすぽーと」の運営

２　「サテライト」の運営

３　報告会の開催

４　報告書の作成

５　運営委員会の開催

第２章　事業評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　71

１　子ども・保護者の評価

２　報告会等の評価

３　今後に向けた課題

第３章　新たなニーズ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　103

終　章　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　107

参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　111

序章　事業背景・概要

１．事業の背景・目的

当法人は、平成 29 年度、平成 30 年度の２か年にわたり、社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮状態にある子どもや子育てが困難な家庭の子どもを中心に「学習支援、社会体験、居場所づくり、食事提供、相談支援」など多機能な支援を、ニーズに基づいて段階的に拡張し実施してきた。また、開所も本体（学び舎・ゆーすぽーと）とサテライト合わせて、週６日以上となった。

子どもへの学習支援では、元教員を中心に進めながらも、時に現役の教員もボランティアで協力いただいた。また、相談支援や居場所、体験学習、食事提供では、元教員や保育士が中心になりながらも、地域の多様なボランティア等に協力を頂き実施している。

支援を通じて、過酷な状況に置かれている子どもや家庭の理解、支援の輪の広がりを感じている。

サテライトでは、要介護の祖母と精神障害の母親と不登校の３人の子どもの支援に取り組んでいる。学校や教育委員会との連携のもと、不登校の改善に取りくむと共に、子どもの生活の安定を図るため、祖母とその支援に関わる地域包括支援センターと調整したり、母親とその支援に関わる障害の相談支援事業所の相談員と調整したり、市役所の子ども課や児童相談所も含めた会議等も行い３姉妹の自宅や地域での暮らしのサポートをしてきた。約半年の関わりで、３人の子どもの不登校が徐々に改善され、家庭内の不安定さ（食事、生活スタイル、祖母・母・子どもの関係性等）も若干改善されてきている状況である。

また、こうした支援を通じて教育委員会や学校、関係機関との連携や支援の方向性の調和が図れたことは大きな成果であると感じている。

過去２年間の取り組みを通じて、感じることは当法人が実施しているような多機能な支援や開設日数を民間レベルで実施しているところがないということ、また、今般求められている「包括的支援」を進めようと考えた時に、当法人が実施しているような常設の多機能拠点が必要であるということである。

一方で、距離や家庭内の事情・メンタル的なことから、拠点に通って来れない子ども達の状況もみえてきているため、現状の機能では、子どもが自力で通ってこれる子どもが、暗黙の前提になっており、必要な子どもに必要な支援が届けられない状況になる。

そのため当法人としては、３年目となる今年度（2019 年度）も、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の支援（助成）を頂き、アウトリーチや送迎など出向く支援の強化と児童相談所の一時保護手前の地域での保護機能の可能性に取り組んだ。

２．事業概要

１．「学び舎・ゆーすぽーと」の運営

１）学習支援・居場所・食事支援について

(1)拠点の場所・名称

場所は、東金市街中心部（東金市東新宿）にある普通の一軒家を賃貸し拠点とする。

拠点名称：「学び舎・ゆーすぽーと」（千葉県東金市東新宿 12-25）

(2)活動計画

①活動日　　月・水・木・土に活動　月に原則 16 日活動
※祝日も活動

②活動時間　　平日・・・・・・A：15:30～19:30 と B：15:00～19:00
土曜日・祝日・・A：14:00～18:00 と B： 9:00～13:00
平日の A は夏場の部活動時間に対応した時間
平日の B は冬場の日没が早い時期に対応した時間
土曜日の A･B は、社会体験活動や受験講座に対応する。
夏休み、冬休み、春休みの長期休業中は常に 9:00～13:00

③登録者の状況

登録者数…41 人　登録世帯数…29 世帯

④教科指導を主としたコーディネーターの配置

月曜日	英　語	上江　美保	平成 30 年 8 月より
水曜日	数　学	四之宮　学	平成 30 年 9 月より
		田中　将浩	令和元年 6 月より
		増田　信夫	令和元年 7 月より
木曜日	理　科	澤本　良昭	平成 30 年 9 月より
土曜日	理　科		

⑤受験生を主とした特別の講座を開設

2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」受験対策講座

	月	日	曜日	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～16:00)
1	12	25	水	数学（四之宮）	社会（藤田）
2	12	26	木	社会（藤田）	国語（藤田）英語（上江）
3	12	28	土	理科（澤本）	国語（藤田）、社会（藤田）
4	1	6	月	英語（上江）	国語（上江）、社会（藤田）

5	1	11	土	理科（澤本）	社会（藤田）
6	1	18	土	社会（藤田）	理科（澤本）
7	1	25	土	理科（澤本）	英語（上江）
8	2	1	土	数学（四之宮）	国語（小久保）
9	2	8	土	社会（藤田）	国語（小久保）
10	2	22	土	理科（澤本）	
11	2	24	月	社会（藤田）	
12	2	26	水		数学（四之宮）
13	2	27	木		理科（細川）
14	2	29	土	理科（澤本）	数学（細川）、社会（藤田）

⑥食事提供の状況

A　通常の食事提供

利用者のほぼ全員が食事を摂るので、ゆーすぽーとの延べ利用者数とほぼ同数と考えられる。その他に、朝食を食べて来なかった子や帰宅後食事がないことが予想される子には朝食、夕食をそれぞれ提供してきた。受験対策講座実施時には講座参加者に昼食、夕食の２食提供することもあった。

B　弁当の提供

２家庭（利用者５人、母親２人）　食数……34回　103食

２）体験活動一覧

NO	体　　験　　名	実施日	曜日	参加数
1	交換留学生との交流会	4/22	水	26人
2	サンドイッチづくり体験	5/1	水	12人
3	農業体験教室Ⅰ	5/6	月	6人
4	梅干し・ジュースづくり体験	6/19	水	16人
5	ポスター教室	7/22	月	８人
6	ポスター教室	7/24	水	９人
7	ブルーベリー狩り体験	7/25	木	12人
8	読書感想文・作文教室	8//5	土	８人
9	北海道の動物の生態を知る	8/7	水	10人
10	木工教室	8/8	木	13人
11	山の魅力を知る	8/12	月	11人
12	読書感想文・作文教室	8/17	土	10人
13	餃子づくり体験	8/31	土	８人

14	ワッフルづくり体験	9/16	月	10 人
15	農業体験教室Ⅱ	9/28	土	4 人
16	茶道教室・高校見学	10/27	日	13 人
17	パソコン教室	11/2	土	8 人
18	フルート演奏会	11/22	金	17 人
19	筑波山登山	11/30	土	15 人
20	クリスマス会	12/23	月	18 人
21	餅つき体験	12/25	水	13 人
22	雑煮会	1/6	月	8 人
23	房総かるた大会・焼きそばづくり体験	1/13	月	8 人
24	講演会体験	1/11	土	5 人
25	リコーダーコンサート	1/18	土	6 人
26	恵方巻きづくり体験	2/1	土	13 人
27	東京フィル演奏会体験	2/1	土	9 人
28	お好み焼き体験	2/8	土	4 人
29	味噌づくり体験	2/15	土	8 人
30	障子貼り体験	3/23	月	予定
31	手巻き寿司づくり体験	3/26	木	予定

3）体験活動内容

No.	体　　験　　名
1	交換留学生との交流
2	サンドイッチづくり体験
3	農業体験教室Ⅰ
4	梅干し・ジュースづくり体験
5・6	ポスター教室
7	ブルーベリー狩り体験&ジャムづくり体験
8・12	読書感想文・作文教室
9	北海道の動物の生態を知る
10	木工教室
11	山の魅力を知る
13	餃子づくり体験
14	ワッフルづくり体験
15	農業体験教室Ⅱ
16	茶道教室・高校見学
17	パソコン教室

18	フルート演奏会
19	筑波山登山
20	クリスマス会
21	餅つき体験
22	雑煮会
23	房総かるた大会　焼きそばづくり体験
24	講演会体験
25	リコーダーコンサート
26	恵方巻きづくり体験
27	東京フィルハーモニー　演奏会体験
28	お好み焼き体験
29	味噌づくり体験
30	障子貼り体験
31	手巻き寿司づくり体験

４）その他の日常活動の体験

社会体験活動のような特別仕組んだ活動以外にも「ゆーすぽーと」には下記のようなたくさんの活動があり、子どもたちは積極的・意欲的に取り組んでいる。そして、子どもたちがこの日常の活動からたくさんのことを学び、成長できるように考え、大切なものとして位置付けている。「ゆーすぽーと」にはたくさんの来訪者があるが、買い物などちょっとした用足しでスタッフが不在の際にも丁寧に対応する姿が幾度となく報告されている。

・調理の手伝い
・配膳の手伝い
・毎日の食後の片付けや食器洗い
・活動後の学習室やトイレの清掃
・買い物の手伝い
・布巾やタオルの洗濯
・洗濯物の取り込みとたたみ
・雨戸の戸締り
・節目の大掃除
・庭の草取り
・草花や農業体験で植えつけたプランターの水やりや収穫
・調理の手伝い
・来訪者への対応

５）相談支援の状況

(1) 相談内容

- 高校進学等進路に関すること
- 経済的困窮に関すること
- 学校生活のこと
- 不登校のこと
- 家族間の虐待に関すること
- その他

(2) 相談方法

- 対面での面談
- 電話での相談
- 送迎時のチャンス相談　3 世帯は意識して必ず会話を心掛けている
- 相談などを意識していない低学年の子どもたちの会話の傾聴ときめ細かな行動観察を心掛けている。

(3) 相談数

保護者・・・・10 人　　延べ 20 回以上
利用者・・・・面談では 12 人　延べ 30 回以上

６）アウトリーチの状況

登録者で「ゆーすぽーと」の利用が長期に途絶えている子が複数いる。その上に学校も全欠状態の長期欠席になっている子もいる。また、利用者の兄弟で引きこもり状態になっていて保護者が不安を抱き相談が寄せられている子もいる。

すでに、登録をして利用経験ある子には、電話やメールで連絡を取ったり、活動日や開始時間が記載されている「出欠表」や体験活動のお知らせと一緒に手紙を送ったりして参加を呼び掛けてきていた。また、不登校対策教員と連携して参加の呼びかけをしてもらったりもしてきた。

相談を受けている引きこもり状態の子には、不登校対策教員が働きかけている最中であることに配慮したり、人手不足の事情があったりでアプローチできずに終わった。

今年度はアウトリーチの試みとして、利用が途絶えがちの子を訪問して話してくることを行ってみた。また、送迎の際にはできるだけ保護者と話すように心がけて愚痴を聴いたり、相談を受けたり、子どもへの対応方法を伝えることを行って来た。利用者の家族と話す機会が多くなって新たな情報が収集できたり、利用者の会話に出てくるお会いしたことのない家族と出会うことができたり、利用者理解に役立った。

7）送迎支援

	人数・回数	備　　考
送迎者数	12 人	全員小学生
迎え延べ人数	35 回	
送り延べ人数	31 回	
最大利用数	25 回	迎えと送りそれぞれにカウント

8）広報活動

(1) 関係機関への広報

①年２回市内 13 校と関係機関を訪問して、「ゆーすぽーと」の活動についての報告を行い、協力を依頼した。

②年２回の報告会の度に郡市内６教育委員会を訪問し、「ゆーすぽーと」の活動と報告会を広報した。

(2) 研修会等での広報

①５月 16 日　長生郡市社会教育連絡協議会定期総会(茂原市役所)で講演　50 名ほど参加
「教育に福祉マインドを」
～「学び舎・ゆーすぽーと」の活動～

②10 月６日　千葉ふげん塾学習会（スタジオＫＫｄｕｏ）で講演　20 名ほど参加
「学び舎・ゆーすぽーと」の活動

③２月 12 日　大網白里市社会を明るくする運動ミニ集会で講演 60 名ほど参加(大網白里市中部コミュニティ)
「ほっとけなくて始めました」
～「学び舎・ゆーすぽーと」の活動～

(3) 関係機関や商店などにチラシ掲示

9）情報交換会

関係機関とは情報を共有して連携強化を図るために、また、横のつながりのないボランティアさんたちがつながりを持ち情報を共有できるようにと、情報交換会を実施した。

(1) 調理ボランティアさんを中心にした情報交換会

期　日：7 月 24 日（水）

参加者：常勤スタッフ 2 人とボランティア 12 名

(2) 関係機関との情報交換会

期　日：8 月 29 日（木）

参加者：機関からの 10 名とスタッフ 4 名

(3) 体験活動支援員との情報交換
期　日：11 月 30 日（土）
参加者：体験活動支援ボランティア 6 名・スッタフ 2 名・
法人スタッフ 2 名

(4)「ゆーすぽーと」に関わってくれた人全員による情報関係会
期　日：３月５日（木）
参加者：「活動報告会」の後、参加者に呼びかけて募る予定だったが、
新型コロナウイルスへの対応で中止になった。

２.「サテライト」の運営

１）サテライト拠点について
(1) 拠点の場所・名称
①通　　称　「キッズふくおか」（東金市東中島 297）
②開設時間　平日…15:00～18:30（時々土曜や祝日に活動あり）
長期休業中…8:30～18:30
③開設日数　週 5～6 日（4/20 までは週 3～4 日開所）

(2) 支援体制
①子ども支援コーディネーター
保育士と児童養護施設職員経験者など非常勤職員３人がシフトして、一日１人以上の体制で支援。
②ボランティア
（社会体験や話し相手のボランティアなど）
現職・元職の教員、福祉関係者、主婦、芸術関係

２）支援内容

「キッズふくおか」の支援内容について、子ども及び家族の個人情報保護の観点からこの報告書においては、概略のみとする。

＜支援対象者概要＞
３人の子どもと障がいのある親、要介護の祖母が同居する家庭で、生活保護世帯。３人の子どもが不登校。親戚はいるものの疎遠。
2019 年度助成事業期間中に、親が亡くなり、３人の子どもと祖母の４人暮らしとなる。

(1) 相談支援

①相談内容

・子どもの不登校解消及び学校生活に関する支援について
・子どもの自宅を中心とした生活の支援について
・親・祖父母の支援について
・金銭管理や支払いに関すること
・障がいのある親の支援について
・祖父母の生活支援及び介護に関すること
・その他、暮らし全般のこと

②連携機関

・東金市（子ども支援課、社会福祉課）
・東金市教育委員会
・小学校
・上総児童相談所
・弁護士
・病院
・市内福祉施設及び介護事業所
・社会福祉協議会

③相談頻度

・平均して週に 2～3 回、主に保護者からの相談（ちょっとした日常生活の助言から、重要な相談への対処まで)。
・子ども達に対しては、相談してきたら丁寧に聴き取り、一緒に考え、生きる力を育てるよう心掛けている。その他普段の生活で、何気ない日常の発言や態度等の観察を心掛け、必要に応じて声掛けや支援を行っている。一緒に何かを取り決めたり、家庭内の大事なことを伝える際は、場を設けて真面目に話し合っている。

(2) 居場所

①基本コンセプト

◆安心して過ごせる安全な居場所づくり

・ここが安心、安全な場所だと感じてもらえるように、そばに居て関わり続け、信頼関係を築いてきた。
・こども達が色々な大人から大事にされる経験を沢山して、自己肯定感を高めていけるような関わりを心掛けている。生きる力を育む場となるよう支援している。

◆地域の中の居場所づくり

・自分達が住む地域の住民（大人もこどもも）との交流を重視して活動している。通って来ているこども達を地域で浮いた特別な存在にせず、孤立させないことが大事だとの思いから、交流の場を設けている。

・上記を踏まえ、他法人が放課後クラブを立ち上げ、キッズふくおかと連携して、支援活動している。

③居場所利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
日数	18日	26日	22日	22日	19日	20日	22日
延べ人	52	78	64	65	50	58	64

11月	12月	1月	2月	3月	合計
22日	23日	21日	20日	21日	
56	65	63	58	45	718人

④地域交流プログラム

No	体験名	日程	曜日	講師名	参加数	場所
1	ヨガ教室	4/20	土	平田佳織	0人 (地域8人)	ふくおかの家
2	書道教室	4/27	土	関沢晶子	3人 (地域4人)	おひさま文庫
3	ヨガ教室	5/11	土	平田佳織	2人 (地域7人)	おひさま文庫
4	ヒップホップ教室	5/18	土	浅野歩美	0人 (地域8人)	おひさま文庫
5	書道教室 (大人も一緒に)	5/25	土	関沢晶子	1人 (地域4人)	ふくおかの家
6	ヨガ教室	6/8	土	平田佳織	1人 (地域6人)	おひさま文庫
7	ヒップホップ教室	6/29	土	浅野歩美	0人 (地域4人)	ふくおかの家
8	書道教室	6/29	土	関沢晶子	1人 (地域2人)	おひさま文庫

9	工作教室	7/19	金	繁田幸恵	3 人 (地域 12 人)	おひさま 文庫
10	ケーキ作り 教室	7/24	火	平田佳織	3 人 (地域 10 人)	おひさま 文庫
11	手芸教室	8/23	金	繁田幸恵	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
12	書道教室	9/19	木	関沢晶子	3 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫
13	手芸教室	10/9	水	髙山絵美	3 人 (地域 8 人)	おひさま 文庫
14	書道教室	10/17	木	関沢晶子	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
15	ものづくり ワークショップ	11/14	木	花田彩子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
16	書道教室	11/28	木	関沢晶子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
17	コラージュ 体験	1/6	月	繁田幸恵	3 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫
18	書道教室	1/16	木	関沢晶子	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
19	綿から糸へ 体験	1/29	水	繁田幸恵	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
20	おやつ作り 教室	2/6	木	平田佳織	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
21	書道教室	2/13	木	関沢晶子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
22	手芸教室	2/20	木	髙山絵美	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
23	書道教室	3/12	木	関沢晶子	2 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫

(3) 食事提供

こども達の健全な成長の為、決まった時間帯に栄養バランスのとれた食事を摂ることや、登校前に朝食を摂れる環境を整えている。生活リズムを整え、活気が生まれ、登校・遊び・学習への意欲を高めることに繋がると考えている。

①提供食事数

・利用者は必ず食事を摂るので、利用数と同程度だが、学校給食が無い時や長期休業中は昼夜２食提供している。年度途中から家庭環境が変わり、支払い能力ができた為、９月分から自費（低額で提供）で支払いをしてもらっている。

・登校を促すため朝食支援も行っている。学校の日は利用数と同程度だが、長期休業中は起床のリズムが崩れた、自宅で簡単に済ませて来ることがあり、キッズふくおかで朝食を摂らないこともある。

②食事調理者

昼夕食は、小規模多機能ホームふくおかの家のスタッフが調理。朝食については、材料は自費購入してもらい、朝食作りはキッズふくおかスタッフが行っている。

(4) アウトリーチ

①子どもに対して

◆不登校支援

・段階的に登校を進めてきて、新学期４月から３人共、教室へ登校できた。

・子どもの内１人は、早朝の起床が難しく、行き渋りがあり、起床から登校までの登校支援を行っている。遅刻はあるが、ほぼ登校できている。

◆自宅ひきこもりの訪問支援

・感染症対策で学校が臨時休業になった際、子どもの１人が家から外出したがらなくなった。無理にキッズふくおかへ来所させず、行ける時にコーディネーターが家庭訪問を行って、会話や散歩を一緒にする中で、食事や睡眠等の体調に関わる情報を得るよう心掛けた。

②家庭に対して

◆親に対して

・家族の諍いや、子どものこと等、様々な相談にのる。

・学校や保護者との関わりに、付き添いサポートを行う。

・買い物内容や食事作りや子育て等、日常生活の助言や支援。

◆祖母に対して

・家族や日常生活の困りごと等、様々な相談にのる。

・話し相手、様々なトラブル対応、探し物を見つける等、電話で対応したり、必要があったら家庭訪問をして支援。

(5) 送迎支援

①送迎実施状況

・年度途中から保護者が一緒に帰れなくなった為、朝晩の暗い時間帯は送迎を行っている（冬の間は毎日）。

・「ゆーすぽーと」での、学習支援や社会体験活動に参加する時は、距離的に自力では行けない為、送迎を行っている。

(6) 一時保護

児童養護施設のような自宅（生活の場）や関係性から完全に切り離す保護ではなく、良い関係性は維持継続しつつ、自宅での生活サイクルも維持した形での保護に心がけてきた。

しかし、支援を行う中では、危うさを感じる場面も多々あり、今後、家庭内の環境が危うくなった場合、自治体と相談し、安全が確保できる身近な拠点で一時的な保護を実施したいと考えている。

３．報告会の開催

(1) 中間報告会

開催日時：令和元年 12 月 14 日（土）　13：30～16：30

場　　所：東金商工会議所会館　4 階　中ホール

参加人数：34 名

内　　容：■基調講演

「子ども食堂・学習支援・居場所・フードバンク等、
地域で子どもを支えるとは
～フードバンク活動から見える子どもの貧困～」

講師：米山　けい子　氏
認定 NPO 法人フードバンク山梨　理事長
全国フードバンク推進協議会　代表

■学び舎・ゆーすぽーと　中間報告

■質疑応答

(2) 活動報告会　※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。

開催日時：令和２年３月５日（木）　13：30～16：20

場　　所：東金文化会館　会議室２

参加人数：60 名（予定）

内　　容：■基調講演

「子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて
～キッズドアの取り組みから～」

講師：渡辺　由美子　氏

特定非営利活動法人キッズドア　理事長
内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議構成員、厚生労働省社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員、全国子どもの貧困学習支援団体協議会副代表幹部

■学び舎・ゆーすぽーと　活動報告

■質疑応答

４．報告書の作成

本事業の報告書を 200 部作成し、東金市・東金市教育委員会等行政機関及び東金市内の小中学校、登録ボランティア、寄付・寄贈者、市内・山武郡内のボランティア・市民活動関係者、介護・障がい福祉サービス事業所へ配布した。

５．運営委員会の開催

この事業をより効果的に実施するため、平成 29 年度より協力いただいている機関・団体を中心に運営委員会を組織し取り組んだ。

(メンバー)

No.	所属・団体名	氏名
1	学び舎・ゆーすぽーと	藤田　実
2	学び舎・ゆーすぽーと	福島　邦英
3	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト　キッズふくおか	安井　瑞江
4	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト　キッズふくおか	鈴木　孝雄
5	小規模多機能ホームふくおかの家	村上　勝年
6	山武ボランティア協会	土肥　豊

7	東金市市民福祉部社会福祉課	吉井　理
8	東金市市民福祉部社会福祉課	土屋　良隆
9	東金市市民福祉部子育て支援課	林　喜美子
10	東金市市民福祉部子育て支援課	四宮　幸太
11	東金市教育委員会	花澤　公威
12	東金市社会福祉協議会	北田　兼久
13	アグリライフ東金	伊藤　睦子
14	アグリライフ東金	土肥　恵子

［事務局（３名)］

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎　事務局長　太齋　寛
総合施設長　齊藤　操
総務企画課　川島悠季

＜第１回運営会議＞

開催日時：令和元年６月 27 日　13:00～14:00
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：７名
議　　題：a. 今年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動計画
b. ゆーすぽーと活動状況報告　※４月～６月
c. 調査票（平成 29 年度実施）ついて

＜第 2 回運営会議＞

開催日時：令和元年９月 25 日　13：30～14：30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：10 名
議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について　※７月～８月
b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※７月～８月
c. 2019 年度社会福祉振興助成事業進行状況報告について

＜第 3 回運営会議＞

開催日時：令和元年 11 月 27 日　13：30～14：30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：9 名
議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について　※９月～10 月
b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※９月～10 月
c. 2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」中間報告会について

＜第 4 回運営会議＞

開催日時：令和２年２月 19 日　13：30～14：30

場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：11 名

議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について※11 月～１月

b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※11 月～１月

c. 2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動報告会について

d. 令和２年度社会福祉振興助成事業について

第１章　事業内容・実績

１.「学び舎・ゆーすぽーと」の運営

１．学習支援・居場所・食事支援について

１）拠点の場所・名称

場所は、東金市街中心部（東金市東新宿）にある普通の一軒家を賃貸し拠点とする。

拠点名称：「学び舎・ゆーすぽーと」

（千葉県東金市東新宿 12-25）

２）対象者及び利用方法

（１）対象者

①生活困窮家庭の子ども

②虐待など家庭で困難な状況を抱える子ども

上記要件のいずれかを満たす小学生・中学生・高校生。

※高校生は、中学生の時ゆーすぽーとに登録していた子を原則とするが、相談にも応じる

（２）利用方法

行政機関・教育機関・各種相談機関などからのつなぎを基本とする。

（３）料金等

利用に伴う料金及び食事・体験などの実費負担はなし。

３）開設時期

平成 29 年（2017 年） ６月

４）支援体制及び活動計画

（１）支援体制

①子ども支援コーディネーター

教職・相談職や福祉職など非常勤職員８人がシフトして、一日３人以上の体制で支援。人数不足でシフトが組めない場合は、法人職員の応援を得ている。

非常勤職員８人のうち２人が週４日支援、他の６人で週１日～２日で支援している。

②ボランティア

（学習支援や話し相手のボランティア、調理ボランティア）

現職・元職の教員、福祉関係者、主婦、大学生、高校生、社会人

（２）活動計画

①活動日　　月・水・木・土に活動　月に原則 16 日活動
※祝日も活動

②活動時間　　平日・・・・・・A：15:30～19:30 と B：15:00～19:00
土曜日・祝日・・A：14:00～18:00 と B： 9:00～13:00
平日の A は夏場の部活動時間に対応した時間
平日の B は冬場の日没が早い時期に対応した時間
土曜日の A・B は、社会体験活動や受験講座に対応する。
夏休み、冬休み、春休みの長期休業中は常に 9:00～13:00

（３）活動日のパターン（平日例）

15:00　　オープン。学校から直接又は家庭にいったん帰宅してから、それぞれ時間差で通所。出席簿に名前と来た時間を記入

15:00～18:00　宿題、持ち込みの問題集、備え付けの問題集、読書などそれぞれ自主的に取り組む。おしゃべり、トランプゲームなど多様。社会体験活動もこの時間帯

18:00～18:30　全員そろって夕食

18:30～19:00　夕食の片付けや学習室の清掃、戸締りなどの活動

19:00　　出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入して解散

５）実施状況

（１）登録者の状況

①登録者数……41 人

②登録世帯数……29 世帯

（２）校種・性別登録者数

校　　種	人　　数	男　　子	女　　子
小　学　生	13 人	３人	10 人
中　学　生	14 人	４人	10 人
高　校　生	14 人	６人	８人
計	41 人	13 人	28 人

※高校生の中に、中退して在家庭の子一人を含んでいる。

（３）学校別登録者数

No.	学　校　名	人　数	No.	学　校　名	人　数
1	東小学校	６人	1	東金中学校	６人
2	鴇嶺小学校	２人	2	東中学校	１人
3	城西小学校	１人	3	西中学校	３人
4	丘山小学校	０	4	北中学校	２人
5	正気小学校	０	5	市外中学校	２人
6	豊成小学校	１人	1	大網高校	１人
7	福岡小学校	（３）人	2	九十九里高校	２人
8	源小学校	０	3	東金商業高校	１人
9	日吉台小学校	０	4	東金高校	１人
10	九十九里小学校	２人	5	東金高校・定時制	２人
11	市外小学校	１人	6	千葉学芸高校	３人
			7	千葉明徳高校	１人
			8	八日市場敬愛高校	１人
			9	千葉黎明高校	１人
			10	在家庭	１人

※（　）の数字はサテライトでカウントしている。

（４）登録者の紹介・連携機関と紹介者数

No.	紹介・連携機関	人数	備　　考
1	小・中・高等学校	10 人	SSW のつなぎも含む
2	東金市　子育て支援課	12 人	母子・父子自立支援員等
3	サポートセンター「こころん」	２人	自立相談支援事業
4	東金市家庭教育相談室	８人	東金市教育委員会
5	ハートフルさんぶ・東金教室	３人	広域行政組合運営適応指導教室
6	学び舎・ゆーすぽーと	６人	兄弟関係で直接相談等
7	その他	３人	利用者の友人、匿名

※紹介・連携機関は重複があり、登録者数と一致しない。

（５）登録者の通学状況

学校種	年間 30 日以上の欠席者数	割合	内全欠状況の人数	備　　考
小学校	２人	15%	１人	全欠状況の子は改善傾向
中学校	３人	21%	１人	
高　校	３人	23%	１人	１名フリースクール ２名は出席日数カバーの為休日登校
計	８人	20%	３人	

（６）登録者家庭の世帯構成状況

世帯構成種類		世帯数	人　　数	割　　合
一人親世帯	母親世帯	21 世帯	28 人	68.3%
	父親世帯	２世帯	４人	9.7%
夫婦世帯		６世帯	９人	22.0%
計		29 世帯	41 人	100.0%

※割合は人数の割合を表している。

（７）登録者世帯の経済状況

経　済　状　況	世帯数	人　数	割　合
生活保護	６世帯	10 人	24.4%
準要保護	16 世帯	22 人	53.7%
公的扶助を受けていない	７世帯	９人	21.9%
計	29 世帯	41 人	100.0%

公的扶助を受けていない世帯の中には、ある程度の世帯収入がありながら高額の負債を抱え家計管理ができない場合もあり、扶助を受けている世帯より経済的に厳しい状況の世帯がある。また、ダブルワーク、トリプルワークをして懸命に子育てをしている世帯もある。

準要保護世帯の中には、通勤や子どもの送り迎えをするため自家用車を手放すことができない状況の世帯もあり、生活保護の申請ができず、食糧支援を受けて耐えている。

（８）登録者の被虐待状況

41 人の登録者中 21 人が、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待のいずれか、または複合的な虐待を受けていると推察される。51%にあたる。子どもとの会話や行動観察の中での把握なので、実態はまだ多いのではないかと思われる。

（９）年間利用者数

①年間総利用者数と活動日数

総利用者数	小学生利用数	中学生利用数	高校生利用数	活動日数
1,349 人	411 人	833 人	105 人	188 日

②月別利用者数・利用延べ人数・活動日数・平均利用者数

月	登録者中の当月利用者	利用延べ人数	活動日数	1日平均利用数
4	14 人	126 人	16 日	8 人
5	16 人	95 人	16 日	6 人
6	9 人	81 人	16 日	5 人
7	18 人	119 人	16 日	7 人
8	20 人	146 人	16 日	9 人
9	17 人	84 人	16 日	5 人
10	20 人	115 人	16 日	7 人
11	21 人	128 人	16 日	8 人
12	26 人	129 人	15 日	9 人
1	16 人	103 人	15 日	7 人
2	25 人	133 人	17 日	8 人
3	16 人	90 人	13 日	7 人
計	平均 18 人	1349 人	188 日	

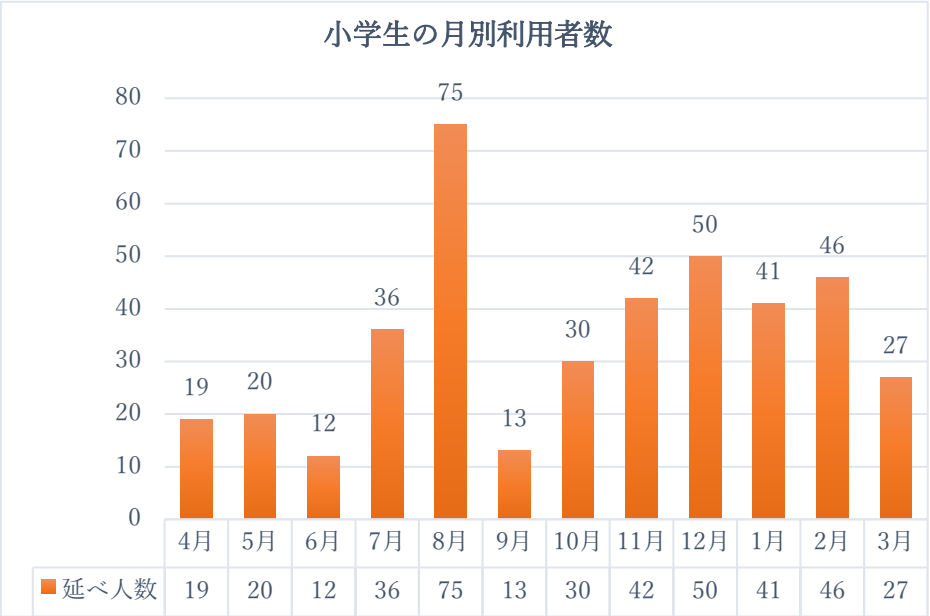
※当月利用者数とは 41 名の登録者中､該当月に何人参加したかを表す。

※利用延べ人数は小・中・高全校種を合算した数を表す。

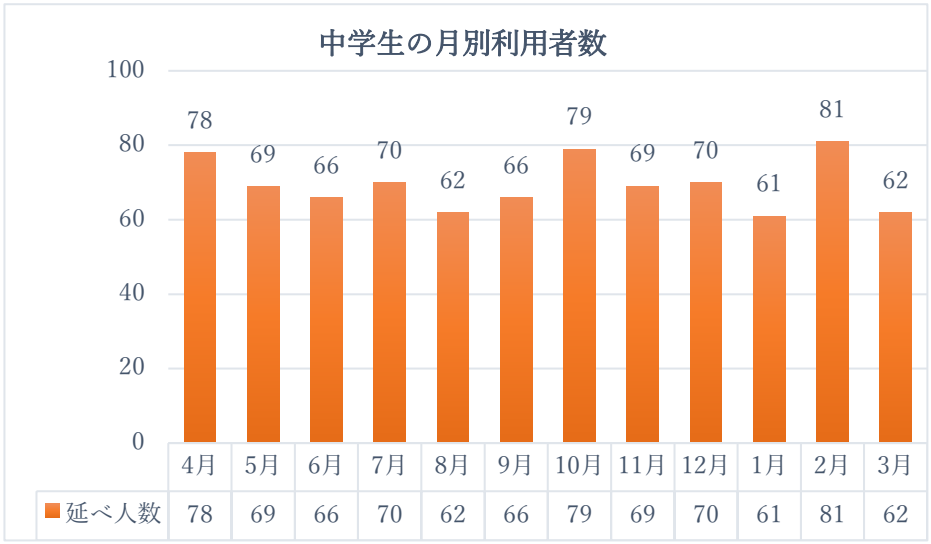
※年間開設日の予定は 191 日だったが、新型コロナウイルスの対応で３日減った。

※一日平均利用数は、小数点以下を四捨五入している。

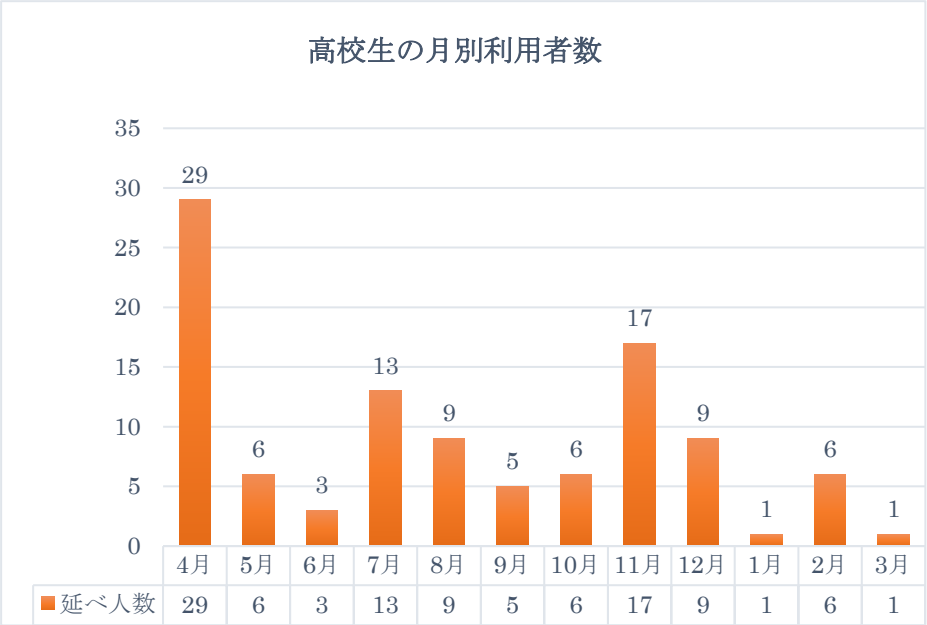
③学校種毎の月別利用推移表



小学生の利用は長期休業中に集中している。夏休み・冬休みの課題対策、中でもポスターや作文・読書感想文など家庭では指導しづらい課題への支援に期待を寄せているように思われる。長期休業中に体験活動が多く組まれていることも利用を促した要因になっている。11 月、2 月は子どもたちにとって魅力的な社会体験活動が実施され、12 月、1 月は年末年始も重なり利用者数が伸びたと推察される。３月は新型コロナウイルス感染予防の為利用を控えた子がいた。



中学生の利用は年間を通してほぼ平均しているが、小学生と違い夏休み中の利用がやや減っている。部活動に加入している子たちの練習時間と開設時間が重なったことが要因である。２月は受験の追い込みで増えた。



４月は新しい環境に慣れない寂しさを紛らわすために、また新たに始まった様々な体験を仲間やコーディネーターに伝えたくて多くの利用があった。11 月は体験活動参加で利用が増えた。

（10）利用回数上位者

	利用回数	利用回数が多い理由
A 子	168 日	利用２年目。親子関係、特に母親との関係が悪く、家に居場所を感じられなく頻回利用している。学校行事などでやむを得ず利用できない日以外は、悪天候でも通って来た。
B 子	161 日	利用３年目。学習習慣が定着し、学校の学習成績が顕著に伸びてきている。中学生になり学習成績が５段階で示されたり、学年の順位が出されたりして、意欲を募らせて積極的に利用している。
C 男	141 日	利用２年目。A 子の弟で同様な理由で利用が多い。中学生になって始めた部活動との兼ね合いでやや利用回数が減っているが、悪天候でも積極的に利用している。

D 子	129 日	学習習慣が定着し、成績が伸びてきていることを実感して意欲的に利用している。父親が心配症で雨が降ると利用を見合わせるように促すので、少し利用回数が減っている。コロナウイルスの件でも利用を控えた。電話や手紙で誘い続けている。
E 子	117 日	居場所を見つけて意欲的に利用し続けてきたが、３学期以降利用が減ってきて心配している。同年齢の子同士のコミュニケーションがうまくできなかったり学習面の遅れがあったりで通所しづらくなってきている様子。
F 子	110 日	小学生の中では最も利用が多い。家庭環境の変化で利用形態が何度か変わってきているが、定期的に利用している。学力が高く、読書に集中したり、自学ができたり、学習の場として活用している。喜んで食事を食べてくれるが、食べすぎ傾向にあり、注視している。

(11) 一開設日の最大・最小利用者数

①最大利用者数…… 18 人　　体験活動（クリスマス会）

②最小利用者数…… ２人　　悪天候

(12) 高校生が利用している理由

４月は高校進学という新しい環境へのソフトランディング効果で多くの利用があったが、それぞれ部活動が始まったり、アルバイトを始めたりと忙しくなってきて、利用者が減ってきた。それでも、年間を通して月平均７～８人の利用者がいた。利用理由は下記のようなものである。

・高校生活上の悩み相談
・高校卒業後の進路相談
・体験活動への参加
・所属する部活動のイベント協賛依頼
・定期テストの成績を見せに来る
・近況報告
・ふらっと夕食を食べに立ち寄ったなど
・アンケート調査への協力

(13) 登録後１年以上利用を中断している登録者数とその理由

理　　由	人　数
①高校入学の目的を果たして現在は利用の必要性を感じていない	４人
②児相一時保護後養護施設入所	１人
③兄弟で利用していたが、兄が高校生になって居場所を失った	１人
計	６人

理由①の中には１名の中途退学者を含む。いつでも相談に来られるように高校卒業年次まで在籍させている。理由②も環境が改善されて自宅復帰がかなった場合に備えて在籍させいる。理由③は次年度中学３年生になり、進学を迎えるので再び利用を促していきたいと考えている。

(14) 子ども達の通所方法

利用条件として、中学生以上は１人での通所を認めてきているが、小学生は親の送迎を原則としている。雨や雪が降っても自力で通所している中学生姉弟がいるが、他の中学生は晴天時に自転車で、悪天候の時は車で送迎される子が多い。高校生は相談等の利用ニーズがある場合に利用し、基本は自転車で通所のため悪天候時は利用がない。

小学生は、近所の子は歩いて、遠方の子は保護者の車や保護者の付き添いで自転車を利用して通所してきている。自転車利用の通所者は悪天候や夜間暗いときには参加を見合わせることが多かったので、今年度より依頼に応じて送迎している。

６）支援体制

（１）子ども支援コーディネーター

８人のコーディネーター（非常勤）で可能な限り３人体制を維持して運営するよう心掛けている。

	藤田	福島	篠崎	上江	四之宮	澤本	田中	増田	体制
月曜日	○	○		○					３人
水曜日	○	○			○		○	○	３～４
木曜日	○	○	○			○			４人
土曜日	○	○				○			３人
教　科	社会	小学	社会	英語	数学	理科	数学	数学	

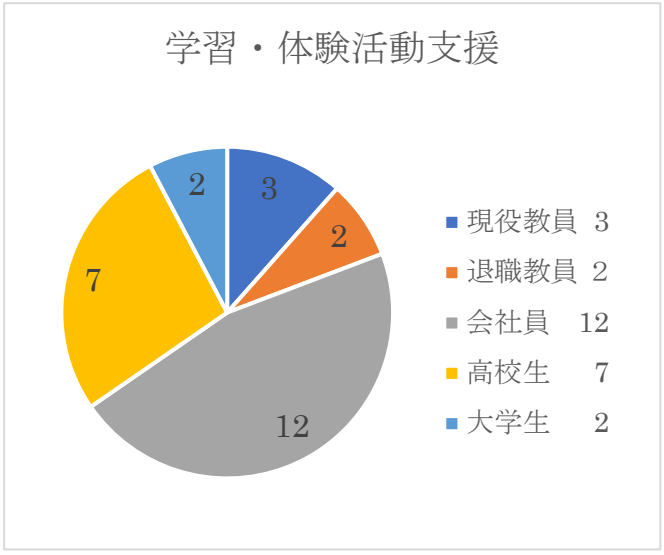
四之宮・田中・増田コーディネーターは３人で季節・時間で交代している。重複する場合もある。

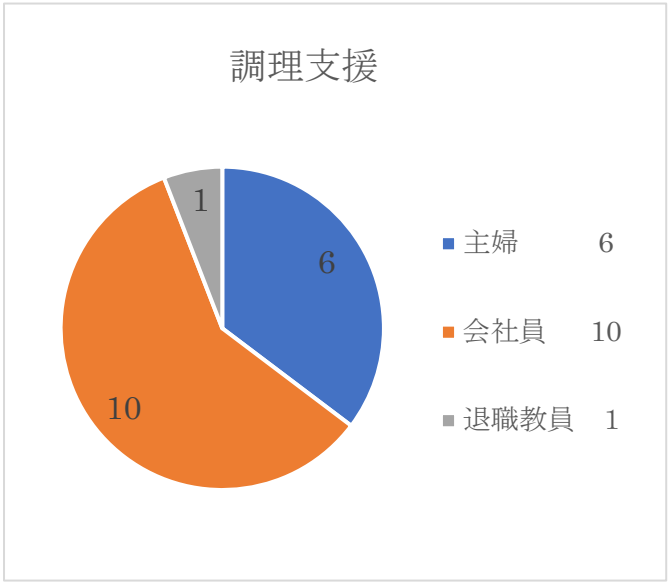
（２）ボランティア

①ボランティアの参加者数

ボランティアの種類	参加者数	延べ数
学習・体験活動支援ボランティア	26 人	195 人
調理支援ボランティア	17 人	158 人
物品提供ボランティア	74 人	206 人
合　　計	117 人	559 人

②ボランティア参加者の職種等





③参加の頻度が高いボランティア

学習・体験活動支援ボランティア　　敬称略

氏　　名	回数	参　加　状　況
細川　　隆	33 回	令和元年 10 月より参加。元高校（生物）教諭。不定期の参加だが積極的に参加し、全ての教科で支援してくれている。時々自宅近くで採集した専門分野の珍しい生物教材を持ち込んで、子どもたちの興味・関心を喚起してくれている。
原田　珠希	24 回	２年目。高校２年生。部活動と両立させて積極的に参加。たくさんの友人をボランティアに引き込んでくれている。現在高校生を中心に５人を繋げた。参加態度も意欲的で、持ち込み企画で体験活動を展開してくれている。ワッフルづくり体験、クリスマス会、東京フィルハーモニー演奏会などである。
花澤　昌利	21 回	３年目。元小学校校長。ほぼ毎週土曜日定期的に参加し、積極的に利用者の学習支援をしてくれている。利用者とコーディネーターやボランティアの人数を把握して、手が余る時は自ら環境整備をしてくれている。

調理支援ボランティア

氏　　名	回　数	参　加　状　況
天野　晶子	40 回	参加３年目。木曜日を中心に、月 3～４回の頻度で参加。多くのボランティア仲間を募り、連れ立って参加してくれている。仲間たちと自主的にローテーションを組み、ほぼ木曜日の支援を埋めてくれている。利用者とも交流し、交わって食事を取ってくれている。

久保田恵子	25 回	参加３年目。木曜日を中心に、月２回の頻度で参加。上記の天野さんと組んで積極的にローテーションを組んでくれている。 また、学習支援や調理のボランティアさんを多数引き込んできてくれている。 リサイクル活動にも熱心に取り組んでいて、ゆーすぽーとの廃棄物の多くを資源ごみとして整理してくれている。

7）学習支援の状況

（1）学習の習慣づくり

通所してきた子どもたちには、最初に今日やることの確認をして、それぞれに課題を設定させる。学習支援の場がない環境でも自分で学習に取り組めるように、課題を与えず自ら選択させることを意識している。部活動などで遅い時間に参加してくる子もいるが、必ず机に向かわせてから夕食にしている。

（2）宿題の支援

ゆーすぽーとに通所する子の約 20%は長期欠席者である。家庭環境や学力が低いことなどが要因になっているが、学校で出された宿題ができずに気後れして、それがきっかけになって登校を渋る子もいる。特に長期休業中の宿題が負担となって、休業あけに長期欠席に陥る大きな要因となっている現状がある。各地でその支援活動が行われているが、ゆーすぽーと利用の子どもたちも同様であり、特に困難と感じている宿題が、ポスターなどの絵画作品と作文・読書感想文である。

そこで、長年それらの教科を専門にしていた教職 OB や現役教師にお願いして指導していただいている。時期は子どもたちの気持ちを解放するために長期休業日の初期に設定するようにしている。

（3）調べ学習の支援

教えられることに依存しないように、子どもたちの質問には即答せず、辞書や参考書を与えている。初期段階ではコーディネーター側で適切な辞書・参考書を与えその利用方法を教えているが、徐々に自分で必要な辞書や参考書を探させるようにしている。時には備え付けのパソコンやタブレットも使用させている。また、生物の観察、空港の見学など実物・実体験も重視している。

（4）個の学力に応じた支援

学校の長期欠席者は、学年や単元の学習内容がすっぽり抜けている。「私、休んでいたからわからない」と誰の前でもあっけらかんとして学習

に取り組む子もいるが、ほとんどの子は下の学年の学習をしていることを隠したがる。そうした子どもたちへの個別の支援体制に配慮している。また、学習を体系的に教える手立ても必要なため、教科の専門性も重視して対応している。

（５）高校進学に対応した支援

ここは、生涯を通して学習していくために必要な資質である自学自習の習慣を養うことを眼目に活動していて、高校進学を希望する受験生のみを対象にした学習支援の場ではない。しかし、今年度も受験対策を目的の駆け込み需要があった。全員が経済的事情で塾通いがままならない子たちであり、子どもたちにとっては塾代わりを期待している。目の前のニーズにもしっかり応えて、受験に対応する支援にも力を注いだ。

①教科指導を主としたコーディネーターの配置

月曜日	英　語	上江　美保	平成 30 年 8 月より
水曜日	数　学	四之宮　学	平成 30 年 9 月より
		田中　将浩	令和元年 6 月より
		増田　信夫	令和元年 7 月より
木曜日	理　科	澤本　良昭	平成 30 年 9 月より
土曜日	理　科		

②受験生を主とした特別の講座を開設

2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」受験対策講座

	月	日	曜日	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～16:00)
①	12	25	水	数学（四之宮）	社会（藤田）
②	12	26	木	社会（藤田）	国語（藤田）英語（上江）
③	12	28	土	理科（澤本）	国語（藤田）、社会（藤田）
④	1	6	月	英語（上江）	国語（上江）、社会（藤田）
⑤	1	11	土	理科（澤本）	社会（藤田）
⑥	1	18	土	社会（藤田）	理科（澤本）
⑦	1	25	土	理科（澤本）	英語（上江）
⑧	2	1	土	数学（四之宮）	国語（小久保）
⑨	2	8	土	社会（藤田）	国語（小久保）
⑩	2	22	土	理科（澤本）	
⑪	2	24	月	社会（藤田）	
⑫	2	26	水		数学（四之宮）
⑬	2	27	木		理科（細川）
⑭	2	29	土	理科（澤本）	数学（細川）、社会（藤田）

※一部既習の内容がある講座は１・２年生も受講した。
※当初は⑧までの予定だったが、前期受験で不合格になり後期受験を目指す中学 3 年生が利用の申し込みをしてきたため、急遽追加講座を設けた。本人の希望で、社会、数学、理科を展開した。

③教科指導以外の支援
・進路選択の面談
・面接の練習
・作文練習
・制服・持ち物などの支援
4 人の高校合格者中 3 人からの制服等の調達の依頼があり、関係機関等と連携して 2 人の制服等を支援することができた。一人の分は様々なルートから当たってもらったが、新型コロナウイルスによる休校措置などで卒業生とうまく接触できず、かなえてあげることができなかった。

④支援の結果

	進　学　校	受　　験　　校			
		公立高校		私立高校	
		前期入試	後期入試	前期入試	後期入試
A 女	千葉県立 O 高校	○	―	併願　○	―
B 女	千葉県立 M 高校	×	○	―	―
C 男	私立 G 高校	―	―	―	専願　○
D 女	私立 G 高校	―	―	専願　○	―

B 女は前期試験で不合格になり、母親が市役所の相談窓口で不安を訴えて、ゆーすぽーとを紹介され入所した。面談を通して、合格ラインの学力はあると判断したが、精神的な不安を払拭してあげるために、受験講座を延長して支援を行った。

＜受験講座＞

８）食事提供の状況

活動日の週４回は、夕食・昼食のいずれかを提供している。午後３時半からの通常活動日は夕食、長期休業中の９時からの活動日は昼食を提供している。週４回の食事提供については、家庭での食事の機能を損ねてしまわないかと懸念したこともあったが、多くの利用者が置かれている家庭の食事状況や親子関係などから推察すると、提供回数が多いことのほうに益があると判断して今年度も週４回提供で実施した。学習習慣づくりの第一歩の効果もある。ほぼ学習習慣がなく食事時間ギリギリに通所して来ている子がいたが、食事の回数を重ねてくると、早目に通所して机に向かうようになった子もある。そうした効果もあり週４回の食事提供を実施している。

今年度は、特殊事情があって弁当の提供も一部で行った。母子家庭で、母親が深夜勤務という生活サイクルのため、親子で食事の場面が夕食しかないので食事を摂らせないで帰して欲しいという要望があったので、果物やおやつを持たせて帰宅させていたが、その子どもとの会話中に食事メニューの多くがカップ麺あることが浮かんできたため弁当を持たせて帰したことがあった。それに対して母親からすぐに感謝の言葉が寄せられたので、以後３人分の弁当提供を続けている。初期は週１回の提供だったが、コロナウイルス感染予防の措置で休校になってからは週４回提供してきた。もう１世帯にも時々提供している。

（１）提供食事数

①通常の食事提供

利用者のほぼ全員が食事を摂るので、ゆーすぽーとの延べ利用者数とほぼ同数と考えられる。その他に、朝食を食べて来なかった子や帰宅後食事がないことが予想される子には朝食、夕食をそれぞれ提供してきた。受験対策講座実施時には講座参加者に昼食、夕食の２食提供することもあった。

②弁当の提供

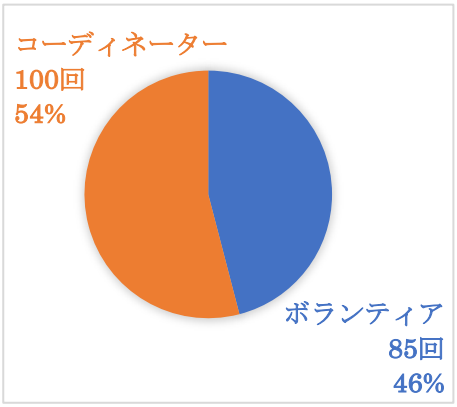
２家庭（利用者５人、母親２人）

食数……34 回　103 食

（２）食事の調理者

今年度の活動日は 188 日。そのうち、体験活動で作ったものがそのまま食事になることがあったので、その３回を除いて年間を通して 185 回の調理が必要だった。

固定した調理ボランティアのメンバーがいて、月に平均すると７回程度応援いただけた。残りの調理はコーディネーターで対応した。



（３）提供食事メニュー

８月のメニュー（昼食）

日	曜日	メ　ニ　ュ　ー	食数	担当
1	木	手羽先の甘辛煮、オニオンスープ、アイス	8	C
3	土	オムライス、サラダ、みそ汁	10	V
5	月	チャーハン、サラダ、スープ	8	C
7	水	炊き込みおこわ、目玉焼きサラダ、みそ汁、くずもち	10	V
8	木	カレーライス、スープ、西瓜	12	V
10	土	牛肉カルビ丼、みそ汁、西瓜	8	C
12	月	おにぎり、みそ汁、西瓜	11	V
15	木	カレーライス、西瓜	3	C
17	土	麻婆茄子丼、みそ汁、梨	11	C
19	月	焼きそば、煮込み卵、スープ、ヨーグルト	7	V
21	水	ミックスフライ、スープ、瓜の漬物	9	V
22	木	サバのカレー揚げ、ポテトサラダ、ナス炒め	8	V
26	月	牛肉ごぼう寿司、ゴーヤチャンプルー、みそ汁	9	V
28	水	三色丼、サラダ、みそ汁	6	V
29	木	フレンチトースト、ロールキャベツ	10	V
31	土	手づくり餃子、中華スープ	8	C

※季節ものの西瓜が多方面から届けられ、連日頂くことができた。

※15 日は台風予報だったために参加者が少なかった。

１月のメニュー（夕食、一部昼食）

日	曜日	メ　ニ　ュ　ー	食数	担当
6	月	雑煮、苺プリン、みかん	8	C
8	水	三色丼、ｷﾝﾋﾟﾗごぼう、焼き芋、みそ汁、焼き芋	6	C
9	木	白菜と豚肉の中華あん、ホーレンソウ炒め、味噌ピー	10	V
11	土	切り身焼き、ｷﾝﾋﾟﾗごぼう、お浸し、豚汁、りんご	7	V
13	月	焼きそば、油餅、オニオンスープ	8	C
15	水	豚まきおにぎり、ほうれん草胡麻和え、ｷﾝﾋﾟﾗ、みそ汁	7	V
16	木	チキンピカタ、里芋の煮物、お浸し、みそ汁、苺	8	V
18	土	グーラーメン、ホーレンソウソテー、油餅、苺	6	V
20	月	三色丼、みそ汁、みかん	6	C
22	水	麻婆豆腐丼、みそ汁、みかん	4	C
23	木	里芋のミートグラタン、ほうれん草胡麻和え、スープ	6	V
25	土	雑煮、お汁粉、たくあん、みかん	6	V
27	月	親子丼、おでん、人参ｸﾞﾗｯｾ、お浸し、ポンカン	5	V
29	水	カレーライス、大根と水菜のｻﾗﾀﾞ、野菜スープ	8	V
30	木	鯵と白身魚のフライ、人参スープ、白菜漬け	9	V

※農家より大量のホーレンソウを頂き、連日メニューの一つとして卓上に。この季節珍しい苺は道の駅よりの差し入れ。グーラーメンは地元の名物ラーメン、ふるさと納税返礼品でいただいた。

弁当のメニュー

月	日	曜日	メ　ニ　ュ　ー	食数	備考
3	2	月	ちらし寿司、ひなあられ	3	
3	5	木	チャーハン、ポテトサラダ	3	
3	9	月	唐揚げ、さつま芋ケンピ、みそ汁	3	
3	19	土	焼き魚、卵焼き、肉じゃが	3	

※弁当は、主にコーディネーターが作った

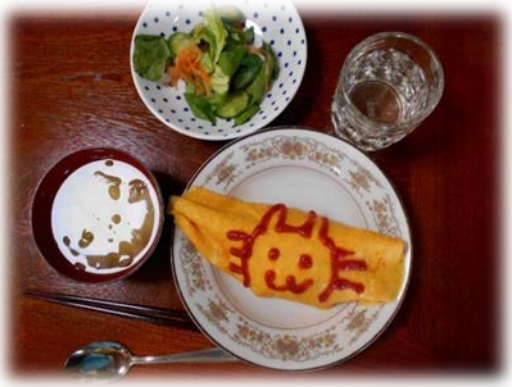
（4）食材について

・「ゆーすぽーと」の拠点は水田や畑に囲まれている土地柄、主食のコメは全て寄贈品で賄った。余剰の米の一部を寄贈者に了解を得て生活困窮している利用者の家庭に支援した。主食の変化に焼きそばやパスタは購入したが、うどん、そうめんなどは多く寄贈していただいた。また、東金市名産のグーラーメンも寄贈（※ふるさと納税返礼品）していただいた。

・野菜もたくさんの寄贈品が寄せられる地域である。しかし、今年度は夏が高温、秋はたびたびの台風のため生育が悪く寄せられるものが少なく購入せざるを得なかった。冬は暖冬だったため、大量の野菜が届けられ、十分に賄えた。野菜も支援に回すことができた。

・肉は全て購入した。
・魚は贅沢な切り身魚（サーモン、キンメダイ、銀鱈、鰆、鰈など）をたくさん寄贈（※ふるさと納税返礼品）していただいたので、鯵やサンマ、鰯、塩鮭などを購入した。
・卵は年間を通して、月に 100 個を寄贈（※ふるさと納税返礼品）していただいた。少し価格が高めの安心安全にこだわった「酵母卵」だった。活動の趣旨を理解してくださった養鶏農家さんの林さんは毎回 30 個以上のおまけを付けてくださったので、子どもたちは存分に食すことができた。
・調味料はほぼ購入しているが、味噌は利用者が「体験活動」で作ったものを利用した。手前味噌と言うが自分たちの味噌は格別のように感じているようだ。また、地域柄味噌を自家製のお宅が多く、時々寄贈してくださる。
・果物も地域柄多くの寄贈品がある。特に西瓜、ぶどう、梨などが多い。みかん、りんごは購入している。
・嗜好品も多くを寄贈（※ふるさと納税返礼品）していただいた。チーズケーキ、ジェラート、ブッフェ、マシュマロなど。
・新型コロナウイルス感染予防の為に急遽中止になったイベントで使われる予定だった駄菓子が大量に届けられた。

※ふるさと納税返礼品とは、東金市に高額のふるさと納税をされた方で返礼品を受け取らずに寄付を申し出た人がおり、その一部を財政課が「ゆーすぽーと」に振り分けてくれたものである。示された金額内で、いただいた返礼品リストの中から「ゆーすぽーと」で選択した。市はそれぞれの返礼品の出品者に発注し、支払いを済ませて、納期は「ゆーすぽーと」とそれぞれの出品業者と相談して納品していただいた。出品業者の方々が活動の趣旨を理解してくれて、月毎、年に数回、必要に応じてなど弾力的な納品に協力してくれた。



２．社会体験活動について

「ゆーすぽーと」を居場所として機能させるためには、利用対象者が「行きたい」、「行ってもよい」と感じる魅力的な要素がなければならない。そのため「話しを聞いてくれる人がいる」、「塾のように勉強を教えてくれる」、「おいしい食事がある」などの魅力的要素を備えるべく活動・努力しているが、一層利用者に魅力的な場だと思ってもらえるように、イベントとして様々な「社会体験活動」を提供している。利用者の高校生が、「ゆーすぽーと」には登山などの行事がたくさんあり、通うのが楽しみです」と作文に綴ってくれているように、大きな魅力となり通ってくる原動力になっているようだ。

しかし、「社会体験活動」を居場所の一要素とするだけではなく別建てで重要視している。それは、学力と共に将来生きていく力となる「非認知的能力」を育むのに有効だと注目しているからである。非認知的能力は、「自己に関わる心の力」（自尊心、忍耐力、動機付け、自己効力感、達成目標など）と「社会性に関わる心の力」（共感性、向社会性、感情知性）があり、最後までやり抜く力やコミュニケーション力も非認知的能力だと言われおり、利用者に身に着けてほしいと強く願うからである。

「ゆーすぽーと」を利用している子を対象に調査はしていないが、利用者同士やコーディネーターたちとの会話から様々な体験が欠けている様子が分かる。そのため、できるだけ多方面の体験を多く企画している。中でも、「食育」を重要視した体験活動を多く取り入れるようにした。

今年度は 16 回の体験活動を予定していたが、「ゆーすぽーと」に関わってくださっている人たちが、提案してくれた「持ち込み企画」がたくさんあり、31 回まで膨らんだ。また、新型コロナウイルスの為、予定変更もいくつかあった。

以下に掲載したような特別に計画した体験活動だけでなく、日常的にもたくさんの体験を意図的に経験させている。また、日常的な生活の中での事柄の一つひとつが、利用者にとっての「特別な体験」である場合も多く、生活を送ること自体が貴重な体験の場となっていると推察できる。

１）体験活動一覧

NO	体　　験　　名	実施日	曜日	講　師　名	参加数	備考
1 ▲	交換留学生との交流会	4/22	水	Ruby Christie	26 人	4/24、4/25
2 ○	サンドイッチづくり体験	5/1	水	井上理加子	12 人	
3 ○	農業体験教室Ⅰ	5/6	月	戸田　敦夫	6 人	
4 ○	梅干し・ジュースづくり体験	6/19	水	森下　吉子	16 人	
5	ポスター教室	7/22	月	山田　和良	８人	
6	ポスター教室	7/24	水	山田　和良	９人	
7 ○	ブルーベリー狩り体験	7/25	木	原　　秀子	12 人	市内・松之郷
8	読書感想文・作文教室	8//5	土	三橋　礼子	８人	
9 ○	北海道の動物の生態を知る	8/7	水	松本　潤慶	10 人	
10 ○	木工教室	8/8	木	川越　三郎	13 人	
11 ○▲	山の魅力を知る	8/12	月	本間奈生美	11 人	
12	読書感想文・作文教室	8/17	土	三橋　礼子	10 人	
13	餃子づくり体験	8/31	土	花澤　昌利	８人	
14 ▲	ワッフルづくり体験	9/16	月	原田珠希 他３人	10 人	
15	農業体験教室Ⅱ	9/28	土	澤本　良昭	４人	
16 ○	茶道教室・高校見学	10/27	日	田畑　美乃	13 人	千葉学芸高校
17 ○	パソコン教室	11/2	土	川島　郷司	８人	千葉学芸高校

18 ○▲	フルート演奏会	11/22	金	長谷部仁美	17 人	保護者も参加
19 ○▲	筑波山登山	11/30	土	本間奈生美	15 人	筑波山
20 ▲	クリスマス会	12/23	月	原田珠希他 2 人	18 人	
21 ○	餅つき体験	12/25	水	伊藤しづの	13 人	
22	雑煮会	1/6	月	コーディネーター	8 人	
23	房総かるた大会・焼きそばづくり体験	1/13	月	原田珠希他 2	8 人	
24 ▲	講演会体験	1/11	土	柳澤　幸雄	5 人	大里総合管理
25 ▲	リコーダーコンサート	1/18	土	栗田　智雄	6 人	東金文化会館
26 ○	恵方巻きづくり体験	2/1	土	天野　晶子	13 人	
27 ▲	東京フィル演奏会体験	2/1	土	原田　珠希	9 人	東金文化会館
28	お好み焼き体験	2/8	土	コーディネーター	4 人	
29 ○	味噌づくり体験	2/15	土	積田　隆夫	8 人	
30 ○	障子貼り体験	3/23	月	斉藤せい子	予定	
31	手巻き寿司づくり体験	3/26	木	久保田恵子	予定	

※▲は、ボランティアさん達の持ち込み企画。

※○は、講師謝金を支払った活動。

※備考に活動場所が未記入の活動は全て「ゆーすぽーと」で実施している。

2）体験活動内容

No.	体　　験　　名	体　験　内　容　等
1	交換留学生との交流	高校生ボランティア宅にホームステイしていたオーストラリアの交換留学生が毎回同行してきて、利用者と交流してくれた。留学生本人がシャイな性格でなかなかスムーズな交流ができなかったが、3回来てくれたので最後には打ち解けていた。ブロンドの髪とブルーの眼の女学生との体験は利用者には貴重な体験だったと思う。一緒に囲んだ食卓では食文化の違いに目を見張っていた。
2	サンドイッチづくり体験	以前から調理ボランティアや物品提供などで積極的に活動支援をしてきてくれていた地元のパン屋さん「粉桜」のご夫妻が手ほどきしてくれて体験した。国産材料にこだわった酵母パンで、これもこだわった食材をサンドし贅沢な一品を作って、食することができた。 どの子も作ったものの食べきれず、家族にお土産にして帰って行った。
3	農業体験教室Ⅰ	講師の先生が自宅の畑の土をトラックいっぱいに運んできてくれて、本格的に土づくりから始まった。ピーマン２本、ナス２本、キューリ２本、ブロッコリー３本、ニガウリ１本をプランターに植えつけた。その後水やりの管理をしっかりして、成長過程を毎日観察した。夏野菜は遅いほうが良いといわれるが植えつけ時期が良かったのか。順調に生育してたくさんの実をつけ、夏場、ほぼ毎日収穫体験をして食卓に上った。
4	梅干し・ジュースづくり体験	「ゆーすぽーと」の隣のお宅からのおすそ分けで大量の梅をいただいた。利用者と講師の先生で協力して収穫して、梅ジュースと梅干しに加工した。どの子も初体験で、梅の木に棘があることを知り、砂糖の浸透圧で染み出す梅エキスに感動していた。梅干しは土用干しも体験した。梅ジュースは夏場の水分補給に活用した。

5 ・ 6	ポスター教室	夏休みの課題の中で子どもたちを一番悩ませているのがポスター作成である。そこでさわやかな気分で夏休みを過ごせるように夏休みの頭に「ポスター指導」を計画した。現役の美術教師に講師に依頼して、ツボを教えていただいてどの子もお気に入りの作品に仕上げ、開放感に浸っていた。
7	ブルーベリー狩り 体験＆ジャムづくり 体験	１昨年から続いている活動である。市内のブルーベリー畑で食べ放題をしながら、バケツいっぱいの収穫をした。その実を使って併設されている加工場で、プロ講師に手ほどきを受けてジャムに加工した。ジャムを瓶詰にして、家族へのお土産にした。一部は小瓶に詰め、お世話になっているボランティアさんにプレゼントした。手渡すときの顔が得意げだった。講師の方が焼いてくださったパンにジャムを付けて食べた昼食は最高だった。
8 ・ 12	読書感想文・ 作文教室	ポスター同様、子ども達を悩ませるのが読書感想文や作文だ。この指導にたけた現役教員に指導してもらった。子どもたちが一人ひとり選んだ課題図書を読み込んできてくれて指導して頂いたので、全員がその場で完成することができ、胸のつかえをなくして、笑顔で帰宅した。指導を受けた一人がコンクールで見事佳作に入賞した。自信をつけたに違いない。
9	北海道の動物の 生態を知る	北海道根室で日本野鳥の会職員として野鳥保護の仕事に従事している方が近くにお出でになることを知り、依頼したところ快諾を得て実現した。スライドや門外不出の貴重な具体資料を特別に持って来て下さって興味をそそる話をしてくれた。リアルな話に吸い込まれて傾聴していた。
10	木工教室	子どもたちにとって人気で、恒例となっている体験活動の一つである。作品を持ち帰れて、実用的なところが人気の要因であるようだ。本箱５人、うちわ６人、写真立て２人、オリジナル作品を作製してどの子も満足して笑顔で帰った

11	山の魅力を知る	ゆーすぽーと連携している SSW の方からの紹介で実現した企画だった。南米アコンカグア登頂や日本百名山を踏破している東京在住の登山愛好者の方にアコンカグア登頂時の体験を中心に山の魅力を語っていただいた。壮大な風景のスライドとその時の登山装具を示しながらのリアルな体験談に心奪われ真剣に傾聴していた。
13	餃子づくり体験	この企画も恒例となっている。餃子づくり名人を講師に、参加者全員でキャベツの刻みなど下準備から包みまで取り組んだ。2 回目・3 回目の子は手早く美しい形に仕上げていたが、初体験の子たちはいろいろな形に出来上がった。それでも自分で作った餃子の味は格別だったようで平均 20 個以上食べた。
14	ワッフルづくり体験	高校生ボランティア 4 人の持ち込み企画の体験だった。材料も機材も全て持ち込みで、自分たちがリードして行ってくれた。台風 15 号の被害で停電・断水を経験して少し気分が落ち込んだ時期のタイムリーな企画で、参加者に笑顔が絶えなかった。味もさることながら、協同作業が心地よかったに違いない。
15	農業体験教室Ⅱ	家庭菜園を趣味にしているコーディネーターの指導の下に秋・冬野菜の植え付けの体験をした。夏野菜の収穫に味を占め、意欲的に参加した。ブロッコリー、小松菜、ほうれん草、レタス、サンチェ、ネギなどの植え付けをした。
16	茶道教室・高校見学	市内の私立高校を会場に行った。学校の茶室を借りて、同校の教師と茶道部の生徒たちから、茶道の話を伺った後、本格的なお点前を受け、緊張した面持ちで抹茶をいただいた。その後、校内を見学させていただいて、子どもたちは高等学校のイメージを抱くことができた。

17	パソコン教室	上記と同じ高校を会場に、県内でも有数の設備を有する同校の PC 教室を借りて実施した。講師はその学校の教師と生徒が引き受けてくれて、名前シールと、クリスマスカードを作成した。ローマ字を学習していない子もいてハードルが高いのではないかと懸念していたが、優しく指導して下さり、全員が力作を仕上げることができた。どの子も PC への興味を募らせていた。学生たちがプログラミングしたドローンの飛行を披露していただいたり、ｅゲームの体験をさせてもらったりで大満足だった。
18	フルート演奏会	「11」の体験を持ち込んでくださった方から若手のプロフルート奏者を紹介していただいて実現した。自宅でプロの演奏家の演奏を聴く贅沢な時間だった。子どもたちが知っている今はやりの曲も選曲してくださったのでノリノリで視聴した。アンコールやサインを求め、さながらアイドルコンサートの雰囲気だった。この体験は家族の参加も呼びかけ、2 家族 4 人が参加してくださった。親子関係を観察することができ貴重な機会となった。
19	筑波山登山	「11」の「山の魅力を知る」体験の活動中に、ある子が「僕も山に登りたいな」とつぶやいたのを講師の先生が拾い上げて今度一緒に登ろうねと約束したことに始まった企画だった。しっかり約束を覚えていてくださって、提案していただいた活動である。利用者 15 人、サポート 15 人参加の大型の体験活動となった。長期間引きこもっていた高校生も参加してくれて、ターニングポイントになったように感じられる場面もあった。

20	クリスマス会	高校生ボランティアが主導してくれた体験活動であった。3 人の高校生がプログラムを作り、リードしてくれた。クリスマスケーキの代わりにホットケーキを焼いて豪華にデコレートした。それぞれ自分流のクリスマスケーキを作り大喜びだった。お腹を満たした後はビンゴ大会やゲームに興じた。ケンカが始まるハプニングもあったが、「２」の体験活動中の講師「粉桜」さんよりのプレゼントの「パネトーネ」を土産に大満足で帰路についた。
21	餅つき体験	機械でつく餅だったが、つきたての餅を講師の方にちぎってもらい、納豆餅、きな粉餅、あんこ餅、辛味餅、甘辛醤油餅など様々な味付けで堪能していた。食べた後は、正月用のお供え餅と、雑煮用の餅を作った。
22	雑煮会	餅つき体験で作ってあった餅で、雑煮を食べて新年のスタートを祝った。お正月にお餅を食べていない子もいたし、餅を食べる経験が少なく呑み込みに苦労している子がいて、喉のつかえを心配した。
23	房総かるた大会 焼きそばづくり体験	正月気分を味合わせるために、千葉県内全市町村の名所や行事が歌われている「房総かるた」を使ってかるた大会を実施した。何度も登場している高校生たちが手伝いに来てくれて読み手を引き受けてくれた。その後 3 チームに分かれて、ホットプレートを使用して焼きそばづくりを行った。
24	講演会体験	開設時より「ゆーすぽーと」を支えてくださっている隣の市にある大里総合管理（株）の社長野老真理子さんに誘われて参加した。私立開成高校の校長柳澤幸雄氏の講演で演題は「人を育てる」～教育と環境の観点からこれからの日本に必要なこと～であった。少し難しい話かと心配していたが、しっかり聞いていた。後日どの子も心に残った話をしてくれた。

25	リコーダー コンサート	コーディネーターの一人が、かつて勤務していた市内の源小学校から招待されたことが始まりだった。300 人収容の立派なホールで 30 数人の全校児童と保護者など 100 人に満たない観客ではもったいないと思い、お願いして参加させていただいた。小中学生用に選曲されていて、わかりやすく、しかも沢山の種類のリコーダーが登場して興味深く視聴した。
26	恵方巻きづくり体験	太巻きづくり名人に講師になってもらい実施した。どの子も欲張って全ての具材を包みこんだため海苔からはみ出す太目の恵方巻だった。全員でその恵方巻を今年の方角の南南西を向いて、其々の願い事を胸にほおばった。
27	東京フィル ハーモニー 演奏会体験	また、高校生ボランティアの登場である。高校生ボランティアから演奏会前10日くらいに突然、東京フィルハーモニーの演奏会チケットがたくさんあるのですが、ゆーすぽーとでいかがですかとの連絡をいただき、即答で利用させていただくことにした。昨年、大里総合管理さんから招待を受けて、アンサンブルコンサート体験があったので迷いはなかった。 願っていた本物体験が実現でき感謝であった。心地よい演奏に誘われて入眠する子もいたが、どの子も雰囲気を楽しみ堪能したようだった。演奏会マナーもしっかり身に付けることができた。終了後判明したのだが、ＮＨＫＦＭの公開収録で、高校生が通う学校にたくさんの招待状が届いたが、吹奏楽部が他の行事の為参加できないために、幸運がこちらに回ってきたようだった。
28	お好み焼き体験	沢山頂いた山芋の活用から思い立った企画。残念ながらそれぞれ予定があって利用者の参加が少なかったが、普段体験の中心になれていないメンバーたちだけでの体験だったので、活躍の場面を得たメンバーたちは大張り切りだった。お腹いっぱいに食べて、それぞれ家族分をお土産にして帰った。

29	味噌づくり体験	前回は味噌づくり専用の施設を使ってたくさん作ったが、家庭でも作れることを体験させたくて、ゆーすぽーとの中で味噌づくりを行った。煮あがった大豆をつぶすのに道具を使わず、すりこ木棒やお玉などあるものを使って叩いてつぶした。子どもたちは、意外と簡単に作れることに驚いていた。数か月後の試食を楽しみに味噌樽を封印し、製作者の名前を記していた。
30	障子貼り体験	開設後 3 年を経過したり、9 月の台風 15 号の際の雨漏りによって学習室の障子に黄ばみがでたり、活動中に破った箇所も目立ってきたりしたので張替えを検討していた。障子貼りの経験がなく、そもそも障子のない暮らしをしている子どもたちにとっては、貴重なチャンスとなるので職人さんに指導していただいて体験することにした。
31	手巻き寿司づくり体験	卒業を祝う会として、支援してくださっている千葉市のレストランまで列車に乗って出かけ、食事をする予定だったが、新型コロナウイルス対応のため為中止した。代替えとしてこの体験を計画している。十分感染予防に配慮して実施したつもりである。

１.交換留学生との交流

２.サンドイッチづくり体験

３.農業体験教室Ⅰ

４.梅ジュースづくり体験

４.梅干しづくり体験

５・６.ポスター教室

7．ブルーベリー狩り体験

7．ブルーベリージャムづくり体験

8．12. 読書感想文・作文教室

9．北海道の動物の生態を知る

10. 木工教室

11. 山の魅力を知る

14. ワッフルづくり体験

15. 農業体験教室Ⅱ

16. 茶道教室

17. パソコン教室

17. パソコン教室

18. フルート演奏会

19. 筑波山登

19. 筑波山登山

20. クリスマス会

20. クリスマス会

21. 餅つき体験

23. 房総かるた大会

23. 焼きそばづくり体験

26. 恵方巻づくり体験

28. お好み焼き体験

29. 味噌づくり体験

3）その他の日常活動の体験

社会体験活動のような特別に計画した活動以外にも「ゆーすぽーと」には下記のようなたくさんの活動があり、子どもたちは積極的・意欲的に取り組んでいる。そして、子どもたちがこの日常の活動からたくさんのことを学び、成長できるように考え、大切なものとして位置付けている。「ゆーすぽーと」にはたくさんの来訪者があるが、買い物などちょっとした用足しでスタッフが不在の際にも丁寧に対応する姿が幾度となく報告されている。

・調理の手伝い
・配膳の手伝い
・毎日の食後の片付けや食器洗い
・活動後の学習室やトイレの清掃
・買い物の手伝い
・布巾やタオルの洗濯
・洗濯物の取り込みとたたみ
・雨戸の戸締り
・節目の大掃除
・庭の草取り
・草花や農業体験で植えつけたプランターの水やりや収穫
・調理の手伝い
・来訪者への対応

夏野菜の収穫

夏野菜の収穫

高校生ボランティアの
お兄ちゃんと皿洗い

配膳前のテーブル拭き

中学生に小学生が混じって皿洗い

学習室の掃除機掛け

洗濯物取り込み

玄関掃除

庭掃除

大掃除のガラス磨き

3　相談支援の状況

（1）相談内容

- 高校進学等進路に関すること
- 経済的困窮に関すること
- 学校生活のこと
- 不登校のこと
- 家族間の虐待に関すること
- その他

（2）相談方法

- 対面での面談
- 電話での相談
- 送迎時のチャンス相談　3 世帯は意識して必ず会話を心掛けている
- 相談などを意識していない低学年の子どもたちの会話の傾聴ときめ細かな行動観察を心掛けている。

（3）相談数

保護者・・・・10 人　　延べ 20 回以上
利用者・・・・面談では 12 人　延べ 30 回以上

4　アウトリーチの状況

登録者で「ゆーすぽーと」の利用が長期に途絶えている子が複数いる。その上に学校も全欠状態の長期欠席になっている子もいる。また、利用者の兄弟で引きこもり状態になっていて保護者が不安を抱き相談が寄せられている子もいる。

すでに、登録をして利用経験ある子には、電話やメールで連絡を取ったり、活動日や開始時間が記載されている「出欠表」や体験活動のお知らせと一緒に手紙を送ったりして参加を呼び掛けてきていた。また、不登校対策教員と連携して参加の呼びかけをしてもらったりもしてきた。

相談を受けている引きこもり状態の子には、不登校対策教員が働きかけている最中であることに配慮したり、人手不足の事情があったりでアプローチできずに終わった。

今年度はアウトリーチの試みとして、利用が途絶えがちの子を訪問して話してくることを行ってみた。また、送迎の際にはできるだけ保護者と話すように心がけて愚痴を聴いたり、相談を受けたり、子どもへの対応方法を伝えることを行って来た。利用者の家族と話す機会が多くなって新たな情報が収集できたり、利用者の会話に出てくるお会いしたことのない家族と出会うことができたり、利用者理解に役立った。

5　送迎支援

	人数・回数	備　　考
送迎者数	12 人	全員小学生
迎え延べ人数	35 回	
送り延べ人数	31 回	
最大利用数	25 回	迎えと送りそれぞれにカウント

「ゆーすぽーと」の利用対象者の地域は限定していないが、家庭での自力通所をお願いしてきていた。そのため利用範囲は限られていた。ニーズは幅広くあると思われ、現在通所している子の中にも家族の都合でわずかな回数しか通所できていない子がいた。家庭の状況や登校を渋るなどの学校への通学状況などを考慮すると、「ゆーすぽーと」での活動が大変有効だと思慮し今年度より送迎支援を活動内容に加えた。

送迎対応はコーディネーターからの呼びかけ、利用保護者からの依頼で行った。迎えは自宅に迎えに行く事が基本だったが、仕事中の母親に配慮して学校への迎えも数回あった。学校と連携して全面協力してもらった。送りは全て自宅への送り届けで保護者と面会して引き渡した。

6　広報活動

（1）関係機関への広報

①年２回市内 13 校と関係機関を訪問して、「ゆーすぽーと」の活動についての報告を行い、協力を依頼した。

②年２回の報告会の度に郡市内６教育委員会を訪問し、「ゆーすぽーと」の活動と報告会を広報した。

（2）研修会等での広報

①５月 16 日　長生郡市社会教育連絡協議会定期総会(茂原市役所)で講演　50 名ほど参加
「教育に福祉マインドを」
～「学び舎・ゆーすぽーと」の活動～

②10 月６日　千葉ふげん塾学習会（スタジオＫＫｄｕｏ）で講演　20 名ほど参加
「学び舎・ゆーすぽーと」の活動

③２月 12 日　大網白里市社会を明るくする運動ミニ集会で講演 60 名ほど参加(大網白里市中部コミュニティ)
「ほっとけなくて始めました」
～「学び舎・ゆーすぽーと」の活動～

（3）関係機関や商店などにチラシ掲示

7　情報交換会

関係機関とは情報を共有して連携強化を図るために、また、横のつながりのないボランティアさんたちがつながりを持ち情報を共有できるようにと、情報交換会を実施した。

（1）調理ボランティアさんを中心にした情報交換会

期　日：7 月 24 日（水）

参加者：常勤スタッフ 2 人とボランティア 12 名

効　果：「ゆーすぽーと」の活動趣旨の理解を深めて頂けた。
顔見知りになり、新たな組み合わせでボランティアに参加してくれた。

（2）関係機関との情報交換会

期　日：8 月 29 日（木）

参加者：機関からの 10 名とスタッフ 4 名
・スクールソーシャルワーカー
・スクールカウンセラー
・不登校対策教員
・家庭教育相談員
・中学校長
・小学校長
・小学校教頭
・千葉県子どもと親のサポートセンター職員　など

効　果：利用者の家庭の状況などの理解が進んだ。
：関係機関・専門職の横の連携ができた。

（3）体験活動支援員との情報交換

期　日：11 月 30 日（土）

参加者：体験活動支援ボランティア 6 名・スッタフ 2 名・法人スタッフ 2 名

効　果：「ゆーすぽーと」の活動趣旨の理解を深めて頂けた。
：市外からの参加者が多く、活動の広域化の一歩を感じた。

（4）「ゆーすぽーと」に関わってくれた人全員による情報交換会

期　日：３月５日（木）

参加者：「活動報告会」の後、参加者に呼びかけて募る予定だったが、新型コロナウイルスへの対応で中止になった。

２.「サテライト」の運営

１．サテライト拠点について

１）拠点の場所・名称

①通　　称　「キッズふくおか」（東金市東中島 297）

②開設時間　平日…15:00～18:30（時々土曜や祝日に活動あり）

長期休業中…8:30～18:30

③開設日数　週 5～6 日（4/20 までは週 3～4 日開所）

２）支援体制

①子ども支援コーディネーター

保育士と児童養護施設職員経験者など非常勤職員３人がシフトして、一日１人以上の体制で支援。

②ボランティア

（社会体験や話し相手のボランティアなど）

現職・元職の教員、福祉関係者、主婦、芸術関係

２．支援内容

「キッズふくおか」の支援内容について、子ども及び家族の個人情報保護の観点からこの報告書においては、概略のみとする。

＜支援対象者概要＞

３人の子どもと障がいのある親、要介護の祖母が同居する家庭で、生活保護世帯。３人の子どもが不登校。親戚はいるものの疎遠。

2019 年度助成事業期間中に、親が亡くなり、３人の子どもと祖母の４人暮らしとなる。

１）相談支援

①相談内容

・子どもの不登校解消及び学校生活に関する支援について

・子どもの自宅を中心とした生活の支援について

・親・祖父母の支援について

・金銭管理や支払いに関すること
・障がいのある親の支援について
・祖父母の生活支援及び介護に関すること
・その他、暮らし全般のこと

②連携機関
・東金市（子ども支援課、社会福祉課）
・東金市教育委員会
・小学校
・上総児童相談所
・弁護士
・病院
・市内福祉施設及び介護事業所
・社会福祉協議会

③相談頻度
・平均して週に 2～3 回、主に保護者からの相談（ちょっとした日常生活の助言から、重要な相談への対処まで)。
・子ども達に対しては、相談してきたら丁寧に聴き取り、一緒に考え、生きる力を育てるよう心掛けている。その他普段の生活で、何気ない日常の発言や態度等の観察を心掛け、必要に応じて声掛けや支援を行っている。一緒に何かを取り決めたり、家庭内の大事なことを伝える際は、場を設けて真面目に話し合っている。

2）居場所
①基本コンセプト
◆安心して過ごせる安全な居場所づくり
・ここが安心、安全な場所だと感じてもらえるように、そばに居て関わり続け、信頼関係を築いてきた。
・こども達が色々な大人から大事にされる経験を沢山して、自己肯定感を高めていけるような関わりを心掛けている。生きる力を育む場となるよう支援している。

◆地域の中の居場所づくり
・自分達が住む地域の住民（大人も子どもも）との交流を重視して活動している。通って来ている子ども達を地域で浮いた特別な存在にせず、孤立させないことが大事だとの思いから、交流の場を設けている。

・上記を踏まえ、他法人が放課後クラブを立ち上げ、キッズふくおかと連携して、支援活動している。

③居場所利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
日数	18日	26日	22日	22日	19日	20日	22日	22日
延べ人	52	78	64	65	50	58	64	56

12月	1月	2月	3月	合計
23日	21日	20日	21日	
65	63	58	45	718人

④地域交流プログラム

No	体験名	日程	曜日	講師名	参加数	場所
1	ヨガ教室	4/20	土	平田　佳織	0人 (地域8人)	ふくおかの家
2	書道教室	4/27	土	関沢　晶子	3人 (地域4人)	おひさま文庫
3	ヨガ教室	5/11	土	平田　佳織	2人 (地域7人)	おひさま文庫
4	ヒップホップ教室	5/18	土	浅野　歩美	0人 (地域8人)	おひさま文庫
5	書道教室 (大人も一緒に)	5/25	土	関沢　晶子	1人 (地域4人)	ふくおかの家
6	ヨガ教室	6/8	土	平田　佳織	1人 (地域6人)	おひさま文庫
7	ヒップホップ教室	6/29	土	浅野　歩美	0人 (地域4人)	ふくおかの家
8	書道教室	6/29	土	関沢　晶子	1人 (地域2人)	おひさま文庫
9	工作教室	7/19	金	繁田　幸恵	3人 (地域12人)	おひさま文庫
10	ケーキ作り教室	7/24	火	平田　佳織	3人 (地域10人)	おひさま文庫
11	手芸教室	8/23	金	繁田　幸恵	3人 (地域4人)	おひさま文庫

12	書道教室	9/19	木	関沢　晶子	3 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫
13	手芸教室	10/9	水	髙山　絵美	3 人 (地域 8 人)	おひさま 文庫
14	書道教室	10/17	木	関沢　晶子	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
15	ものづくり ワークショップ	11/14	木	花田　彩子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
16	書道教室	11/28	木	関沢　晶子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
17	コラージュ 体験	1/6	月	繁田　幸恵	3 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫
18	書道教室	1/16	木	関沢　晶子	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
19	綿から糸へ 体験	1/29	水	繁田　幸恵	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
20	おやつ作り 教室	2/6	木	平田　佳織	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
21	書道教室	2/13	木	関沢　晶子	3 人 (地域 4 人)	おひさま 文庫
22	手芸教室	2/20	木	髙山　絵美	3 人 (地域 6 人)	おひさま 文庫
23	書道教室	3/12	木	関沢　晶子	2 人 (地域 5 人)	おひさま 文庫

3）食事提供

子ども達の健全な成長の為、決まった時間帯に栄養バランスのとれた食事を摂ることや、登校前に朝食を摂れる環境を整えている。生活リズムを整え、活気が生まれ、登校・遊び・学習への意欲を高めることに繋がると考えている。

①提供食事数

・利用者は必ず食事を摂るので、利用数と同程度だが、学校給食が無い時や長期休業中は昼夜２食提供している。

・登校を促すため朝食支援も行っている。学校の日は利用数と同程度だが、長期休業中は起床のリズムが崩れ、自宅で簡単に済ませて来ることがあり、キッズふくおかで朝食を摂らないこともある。

②食事調理者

昼・夕食は、小規模多機能ホームふくおかの家のスタッフが調理。朝食については、材料は自費購入してもらい、朝食作りはキッズふくおかスタッフが行っている。

4）アウトリーチ

①子どもに対して

◆不登校支援

・段階的に登校を進めてきて、新学期４月から３人共、教室へ登校できた。

・子どもの内１人は、早朝の起床が難しく、行き渋りがあり、起床から登校までの登校支援を行っている。遅刻はあるが、ほぼ登校できている。

◆自宅ひきこもりの訪問支援

・感染症対策で学校が臨時休業になった際、子どもの１人が家から外出したがらなくなった。無理にキッズふくおかへ来所させず、行ける時にコーディネーターが家庭訪問を行って、会話や散歩を一緒にする中で、食事や睡眠等の体調に関わる情報を得るよう心掛けた。

②家庭に対して

◆親に対して

・家族の諍いや、子どものこと等、様々な相談にのる。

・学校や保護者との関わりに、付き添いサポートを行う。

・買い物内容や食事作りや子育て等、日常生活の助言や支援。

◆祖母に対して

・家族や日常生活の困りごと等、様々な相談にのる。

・話し相手、様々なトラブル対応、探し物を見つける等、電話で対応したり、必要があったら家庭訪問をして支援。

5）送迎支援

①送迎実施状況

・年度途中から保護者が一緒に帰れなくなった為、朝晩の暗い時間帯は送迎を行っている（冬の間は毎日）。

・「ゆーすぽーと」での、学習支援や社会体験活動に参加する時は、距離的に自力では行けない為、送迎を行っている。

6）一時保護

児童養護施設のような自宅（生活の場）や関係性から完全に切り離す保護ではなく、良い関係性は維持継続しつつ、自宅での生活サイクルも維持した形での保護に心がけてきた。

しかし、支援を行う中では、危うさを感じる場面も多々あり、今後、家庭内の環境が危うくなった場合、自治体と相談し、安全が確保できる身近な拠点で一時的な保護を実施したいと考えている。

３．報告会の開催

１）中間報告会

開催日時：令和元年 12 月 14 日（土）　13：30～16：30

場　　所：東金商工会議所会館　4 階　中ホール

参加人数：34 名

内　　容：①基調講演

「子ども食堂・学習支援・居場所・フードバンク等、
地域で子どもを支えるとは
～フードバンク活動から見える子どもの貧困～」

講師：米山　けい子　氏

認定 NPO 法人フードバンク山梨　理事長

全国フードバンク推進協議会　代表

②学び舎・ゆーすぽーと　中間報告

③質疑応答

２）活動報告会　※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。

開催日時：令和２年３月５日（木）　13：30～16：20

場　　所：東金文化会館　会議室２

参加人数：60 名（予定）

内　　容：①基調講演

「子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて
～キッズドアの取り組みから～」

講師：渡辺　由美子　氏

特定非営利活動法人キッズドア　理事長

内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議　構成員、
厚生労働省社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び
生活保護部会委員、全国子どもの貧困学習支援団体協
議会副代表幹部

②学び舎・ゆーすぽーと　活動報告

③質疑応答

４．報告書の作成

本事業の報告書を 200 部作成し、東金市・東金市教育委員会等行政機関及び東金市内の小中学校、登録ボランティア、寄付・寄贈者、市内・山武郡内のボランティア・市民活動関係者、介護・障がい福祉サービス事業所へ配布した。

５．運営委員会の開催

この事業をより効果的に実施するため、平成 29 年度より協力いただいている機関・団体を中心に運営委員会を組織し取り組んだ。

（メンバー）

No.	所属・団体名	氏名
1	学び舎・ゆーすぽーと	藤田　実
2	学び舎・ゆーすぽーと	福島　邦英
3	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト　キッズふくおか	安井　瑞江
4	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト　キッズふくおか	鈴木　孝雄
5	小規模多機能ホームふくおかの家	村上　勝年
6	山武ボランティア協会	土肥　豊
7	東金市市民福祉部社会福祉課	吉井　理
8	東金市市民福祉部社会福祉課	土屋　良隆
9	東金市市民福祉部子育て支援課	林　喜美子
10	東金市市民福祉部子育て支援課	四宮　幸太
11	東金市教育委員会	花澤　公威
12	東金市社会福祉協議会	北田　兼久
13	アグリライフ東金	伊藤　睦子
14	アグリライフ東金	土肥　恵子

［事務局（３名）］

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎　事務局長　　太齋　寛
総合施設長　齊藤　操
総務企画課　川島悠季

＜第１回運営会議＞

開催日時：令和元年６月 27 日　13:00～14:00
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：７名
議　　題：a. 今年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動計画
b. ゆーすぽーと活動状況報告　※４月～６月
c. 調査票（平成 29 年度実施）ついて

＜第 2 回運営会議＞

開催日時：令和元年９月 25 日　13：30～14：30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：10 名
議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について　※７月～８月
b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※７月～８月
c. 2019 年度社会福祉振興助成事業進行状況報告について

＜第 3 回運営会議＞

開催日時：令和元年 11 月 27 日　13：30～14：30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：9 名
議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について　※９月～10 月
b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※９月～10 月
c. 2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」中間報告会について

＜第 4 回運営会議＞

開催日時：令和２年２月 19 日　13：30～14：30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと内
出席人数：11 名
議　　題：a.「学び舎・ゆーすぽーと」の活動について※11 月～１月
b.「キッズ・ふくおか」の活動について　※11 月～１月
c. 2019 年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動報告会について
d. 令和２年度社会福祉振興助成事業について

第２章　事業評価

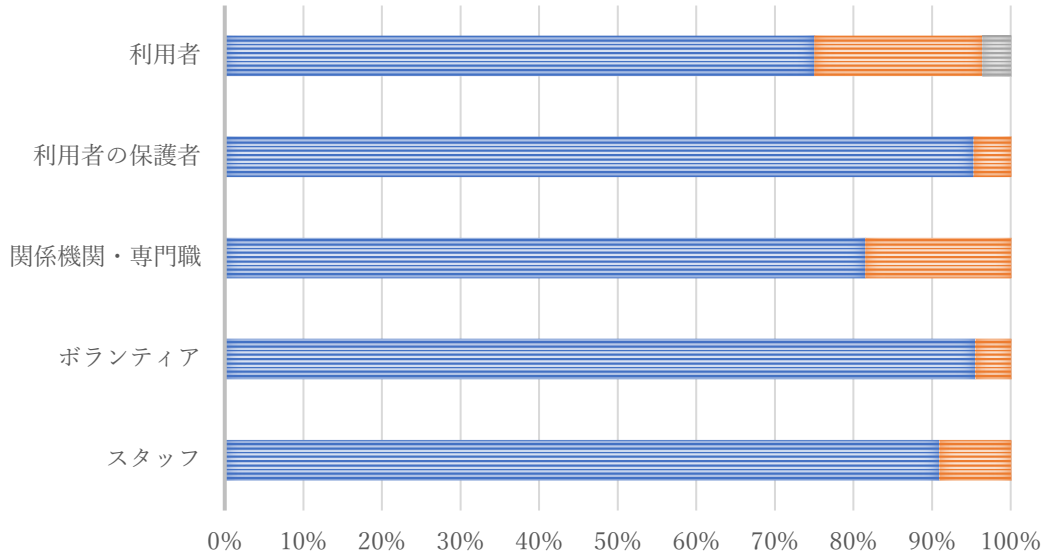
１．子ども・保護者等の評価

１）ますます存在感を高めている「ゆーすぽーと」

「ゆーすぽーと」の存在意義について、今年度は、「ゆーすぽーと」に関わる全ての方々を対象に範囲を広げてアンケートを実施した。利用者、その保護者に加えて、関係する機関および普段繋がりのある専門職の方々、ボランティアの皆さん及びスタッフである。総勢 122 名の個人・団体にアンケートを実施して、89%の回答を得た。

利用者とその保護者には、「ゆーすぽーとがあってよかったか」の問で、その他は「存在の必要性」を問うた。言葉には多少の差があるが「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の意味の４択から選んでもらった。

アンケートは全て「ゆーすぽーと」のサテライトである「キッズふくおか」の利用者、その保護者、３名のスタッフを含んでいる。



	スタッフ	ボランティア	関係機関・専門職	利用者の保護者	利用者
とてもそう思う	10	21	22	20	21
ややそう思う	1	1	5	1	6
あまり思わない	0	0	0	0	1
ほとんど思わない	0	0	0	0	0

全ての対象者から存在の必要性を感じる回答が得られた。そして、多くの方々がその必要性を強く感じられていることが受け取れた。中でも、その存在の必要性を強く認めているのが保護者の方々で、95%の方々が「とてもそう思う」を選択している。

利用者の小学校低学年の子の中に、「あまり思わない」と気になる選択した子が一人いた。普通に通って来て、他の子どもとの交わりもあり、食事も楽しそうに食べてくれていたが、同年齢の子が少なく寂しかったのかもしれない。

【利用者の保護者の声】

小４　学校であったことなどあまり話さない子なので、ゆーすぽーとで先生に教えていただいたり、体験活動の好みを見て親が知らなかった子どもの興味などを知ることができてありがたいです。　～　ゆーすぽーとへ行くのが楽しみで、親が休みの日も出かけないならゆーすぽーとに行くと言うほどです。特に先生には、お友達より家族に見せる顔をしているので、よほど信頼を寄せていて好きなんだと感じています。安心して心を開ける場所、先生を、子どもに与えて頂き本当にありがとうございます。これからの人生において「宝」だと思います。

中２　学び舎に出会ったことが本人にとってとてもよかったと感じています。部活がありヘトヘトになって帰ってきて短い時間でも、レベルにあった教え方をしていただきとても有難いです。勉強して楽しいなんて思ったことは多分ないと思います。色々なことをもっと学んでくれて本人が喜んでくれることがうれしいです。本当に感謝の一言です。有難うございます。

中１　ゆーすぽーとには、感謝の気持ちでいっぱいです。通わせてもらったおかげで、勉強も良くできて、健康で、社会性も身につきました。　～　私にお手伝いできることがあれば何かしたいと思います。

中２　ゆーすぽーとに入る前は、心配しましたが、とても楽しく行くので安心です。　～東金に来て子どもの大事な時期にゆーすぽーとに通うことができてありがたいです。

小５　すごく楽しそうにしています。勉強での相談も親身になっていただいて助かっています。

中１　娘は、学校でいじめを受けているという理由で、学校に行けていません。ゆーすぽーとが今の娘のよりどころになっています。ゆーすぽーとのおかげで、勉強もできているし、ひきこもることもなく、出かけられていて、大変助かっています。

中３　経済的に不安でしたが、ゆーすぽーとがある事で心強かったです。ゆーすぽーとのような事業により、進学を諦める子どもが少しでも減るとよいと思います。この度は大変お世話になりました。下の子の受験の際もまたお願いしたいです。

高２　息子がゆーすぽーとに本当にお世話になりました。今もちょくちょく顔を出させてもらっているようで、ありがとうございます。第二の家のような所だと思います。

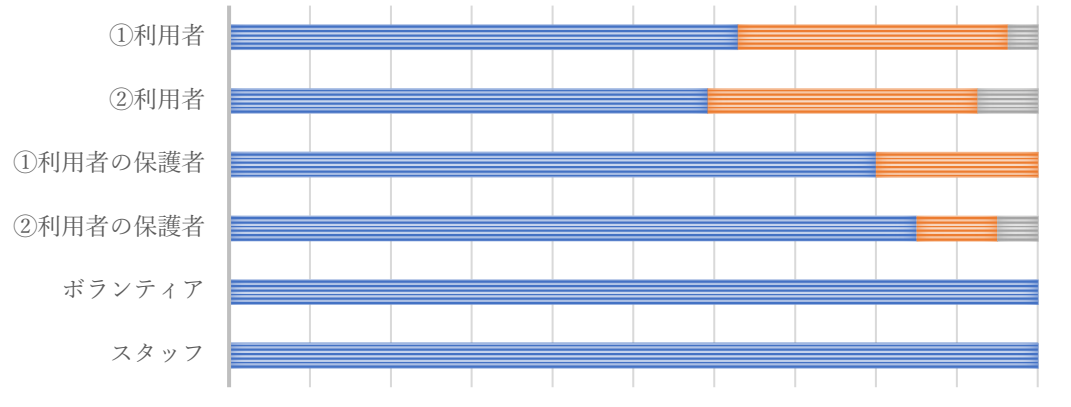
２）「ゆーすぽーと」という居場所の定着

利用者とその保護者を対象に、「ゆーすぽーと」が居場所の機能を果たせているか次の二つの質問をした。①「安心して楽しく過ごせる場だったか」、②「信頼できる人との出会いがあったか」の二つの設問で、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の４択から回答してもらった。

ボランティアとスタッフには、「利用者の居場所になっていると思われますか」と設問し、利用者やその保護者と同様４択から選択してもらった。

① 安心して楽しく過ごせる場だったか

② 信頼できる人との出会いがあったか



	スタッフ	ボランティア	②利用者の保護者	①利用者の保護者	②利用者	①利用者
とてもそう思う	11	21	17	16	16	17
ややそう思う	0	0	2	4	9	9
あまり思わない	0	0	1	0	2	1
ほとんど思わない	0	0	0	0	0	0

「ゆーすぽーと」は楽しく安心して過ごせる場所になっているかの問いに、利用者の 95%の子たちが「そう思う」を選択している。「信頼できる人との出会いがあったか」の問いにも 90%以上の子が「そう思う」の選択だった。

中学生や長期継続利用の子は「とてもそう思う」の高いプラスの評価が多いが、小学生、特に低学年の子は「ややそう思う」を選択する子が多かったし、マイナス評価の子もいた。学校の長期休業中以外は小学校低学年の子の利用が少なく、中学生や高校生の中にポツンと利用する場面があり寂しさを感じて、マイナス要因になったのではないかと推察される。

ボランティアとスタッフは、全員が居場所になっていると評価している。利用者の思いと少しギャップがあるが、利用者の笑顔と飛び交う笑い声の要素が評価を押し上げていると思われる。ボランティア参加者や訪問者のどなたもが口をそろえて「子どもたちが明るいですね」言ってくれている。

境遇からは想像できないほど、「ゆーすぽーと」で過ごす利用者たちの表情や言動が明るい。学校や家庭で生きづらさを感じている子どもたちが、ここにいる間中笑顔を絶やさない。同じような境遇にあると理解し合っている子どもたちは、飾らず、開けっ広げに会話を楽しんでいる。食事の時間を 30 分確保しているが、声を掛けずにいると延々と話が止まらない。

保護者の方々にも子どもの思いが伝わり、安心されて肯定的に評価されているものと思われる。

【利用者の声】

高１　ゆーすぽーとは勉強を学ぶところでもあれば、気の許せる友人と会話を楽しむ場所で、私からしたら、気が楽で楽しい居場所です。

中３　勉強を学べる塾のような場所であり、あたたかい作り立てのご飯をいただけるお家のような場所でもありました。

中１　ゆーすぽーとにいる子たちは、個性豊かで優しくて面白い人たちでいっぱいです。そのため、すぐになじむことができました。

中２　皆と関わることが増えたりしてとてもうれしかったです。

小４　ゆーすぽーとは「楽しい場所」です。ゆーすぽーとにいると、他の人に気軽に話しかけられます。

小５　他の学校の人と交流できる場所で、すごく楽しい場所です。

中３　みんなと楽しくすごすことができるゆーすぽーとは私にとって希望を与えてくれた場所であるし、大事な場所です。これからも、ゆーすぽーとという場所に出会えたことに感謝し、通い続けたいです。

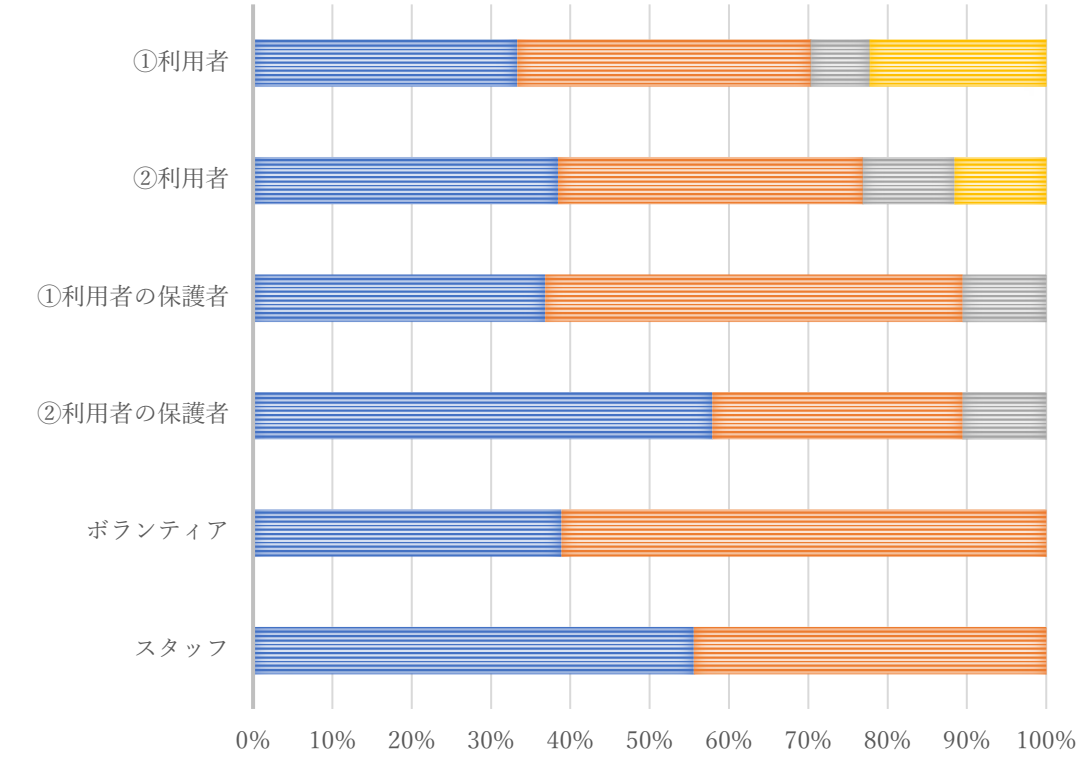
３）学習習慣の定着と学力の向上

利用者とその保護者を対象に、「ゆーすぽーと」の学習支援の成果が出てい

るか、二つの質問をした。①「学習習慣が身についたか」と②「学習成績が向上したか」の二つの設問で、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の４択から回答してもらった。

ボランティアとスタッフには「学習習慣が身についていると思われるか」の設問をした。回答は利用者と同じ、4 択から選んでもらった。

① 学習習慣が身についたか
② 学習成績が向上したか



	スタッフ	ボランティア	②利用者の保護者	①利用者の保護者	②利用者	①利用者
とてもそう思う	5	7	11	7	10	9
ややそう思う	4	11	6	10	10	10
あまりそう思わない	0	0	2	2	3	2
ほとんど思わない	0	0	0	0	3	6

グラフから読み取れるように、利用者は自身に厳しく「学習習慣が身についたか」
と「成績が上がったか」の設問についていずれも、「そう思う」と回答したのは 70%前後だった。保護者も期待値が高いだけに 90%に達しなかった。

しかし、客観的に見ているボランティアやスタッフは、歩みは小さいが確実

に利用者が学習習慣を身に着けてきていることを実感している。しっかりとほめて、自信をつけさせていくような配慮をしていく必要性を感じる。

中には、学習習慣がしっかり定着し、学校で高い評価を得て自信を募らせ、強い動機付けを得ている子がいる。自身でもそのことを認識していて、「私にとってのゆーすぽーと」の作文にも触れている。学校で受け取った「通知表」や「実力テストの結果」などをいち早く「ゆーすぽーと」に持ってきて、堂々と笑顔で見せてくれている。

この子の「ゆーすぽーと」での過ごし方が、他の利用者に良い影響をもたらしてくれている。

【利用者の声】

中２　私は、ゆーすぽーとに来てから学校のテストの点数が上がりました。～　これからもゆーすぽーとで勉強を頑張って志望校に合格できるようにがんばります。

中２　勉強が少しずつ分かってきた感じがしてきました。いろんな先生に勉強を教えてもらってどの教科もわかってきたので、私はゆーすぽーとに入って、とてもよかった思います。

小５　ゆーすぽーとに通うようになってから、勉強することが楽しくなったと感じます。

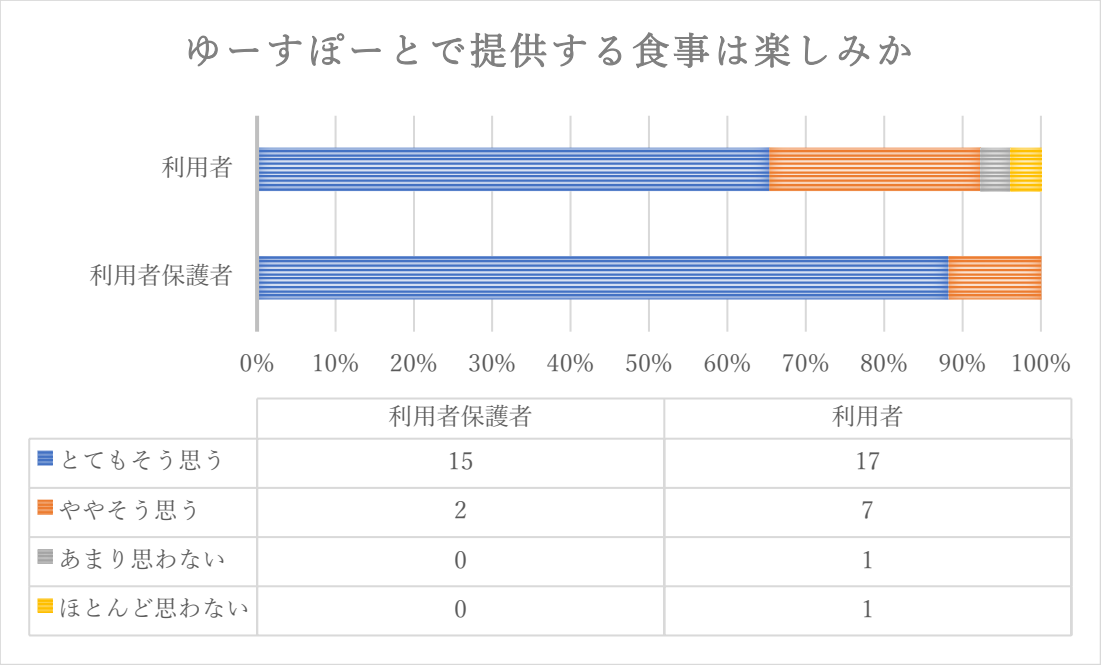
中３　友達と教えあえるのもいいと思いました。

中１　ゆーすぽーとで勉強する習慣が身について、ゆーすぽーとがやっていない日でも勉強するようになりました。1 学期の成績と比べ 3 学期は、特異な教科の良い点数を維持したまま、苦手な教科の点数も上がりました。

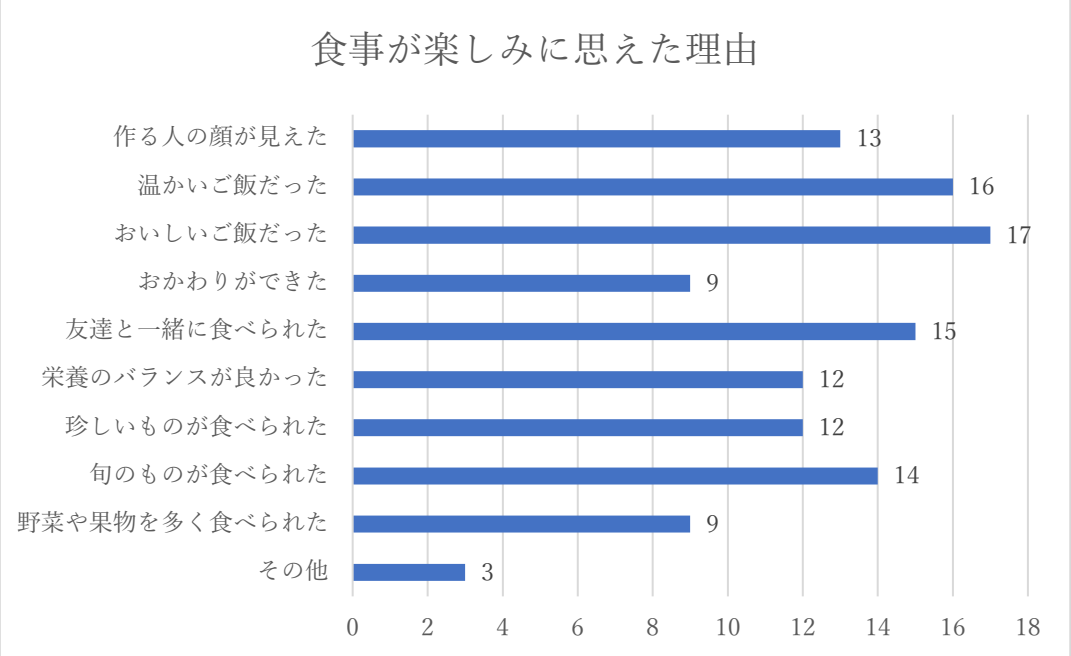
中３　先生方がわかりやすく勉強を教えてくれた。ゆーすぽーとに通い始めてから積極的に勉強するようになりました。後期入試では、教えてもらったことを思い出しながら自分の力を存分に発揮することができ、無事合格することができました。

４）居場所の魅力を増す有効なツール「食事提供」

利用者には、「ゆーすぽーと」が提供する食事に対して「毎日楽しみだったか」と質問し、その保護者には「楽しみしている様子だったか」と質問をした。それぞれ、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の４択から回答してもらった。また、利用者には「食事が楽しく思えた理由」も質問した。



	利用者保護者	利用者
とてもそう思う	15	17
ややそう思う	2	7
あまり思わない	0	1
ほとんど思わない	0	1



支援者に寄贈していただいた昔懐かしい卓袱台を囲み、「いただきます」と大きな声を揃え、会話を楽しみ、「ごちそうさまでした」と心より感謝する子どもたちの普段の食事風景からは想像できない「あまり思わない」、「ほとんど思わない」のショッキングな回答もあったが、90%以上の利用者が「そう思う」と回答している。子どもたちから聞き及んでいる食事風景を想像されて、保護者は全員が「そう思う」と評価してくれている。

子どもたちの日常的な会話から、カップ麺などのインスタント食が多い

食事、野菜や果物がほとんどない食事風景が浮かび上がってくる。そうした習慣の中でできた偏食や好き嫌いの多さが目立ち、汁物を好まず、野菜はほとんど受け付けない子どもがいる。

そんな子に、野菜の大切なことを伝えて励まし食べるように勧めていることが苦痛になってのマイナス評価かと気になる。さらに、登録してから日が浅くて、利用期間の長い家族のような雰囲気の中になじめないでいるのではないかと懸念もする。

利用者が、「食事を楽しみに思えた理由」の最上位にあげているのが、「おいしいご飯だった」、「温かいご飯だった」の選択肢だった。このことから、利用者が家庭で普段食べている食事を想像できるような気がする。そして、食事提供の必要性を痛感する。ついで、多かったのが、「友達と一緒に食べられた」であり、容易に想像つく。食事の時間は 30 分を確保しているが、その時間に収まることがなく帰りの時間を押してしまうので、毎回せっついている。「作る人の顔が見えた」も多く選択されているが、お腹を空かして通所してきた子どもは、挨拶を兼ねて、台所に直行してくる。メニューとだれが作ってくれるのかを確認してから所定の席を確保するのが日常の行動になっている。また、調理してくれるボランティアさんも一緒に食事をしてくださり子どもたちとのつながりも深くなってきている。「旬のものが食べられた」も上位で選択されている。旬のものや珍しいものを提供する際には、その食材に関する情報を積極的に話しかけるようにしてきた。しかし、食べることに夢中で、話を聞いていないように見えていたが、実際はしっかり耳を傾けていてくれたようだ。大人同士の食材などに関する会話をよく聞いていることも物語っている。

【利用者の声】

小４　ゆーすぽーとで食べるご飯は美味しいです。いろんな人たちが作ってくれるごはんをみんなと一緒に食べるのが一番楽しいです。

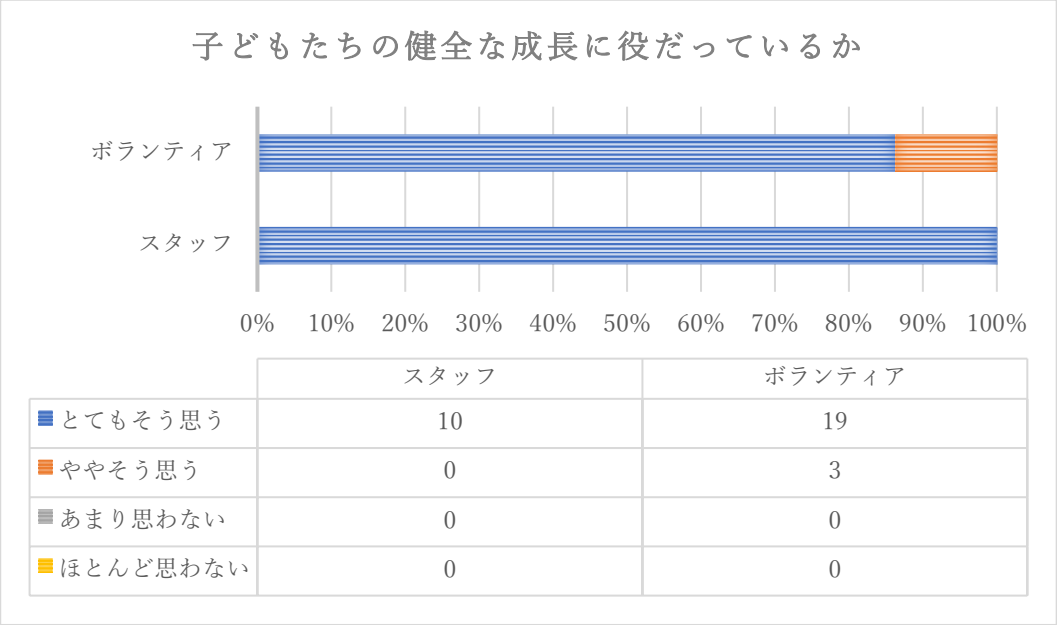
高１　ご飯をみんなと話しながら食べるのが私の中では一番楽しみです。美味しいし、みんなとワイワイして食べる機会がないから～。

中２　ゆーすぽーとで出るご飯はとても美味しくて、ゆーすぽーとに来るのが楽しみです。

中１　ゆーすぽーとのご飯はとても美味しいです。特に美味しいメニューがあって、その時はみんながたくさんおかわりをしています。

小６　ご飯が美味しかった。お腹いっぱい食べちゃった。

中１　旬のものが食べられるのでうれしいです。



	スタッフ	ボランティア
とてもそう思う	10	19
ややそう思う	0	3
あまり思わない	0	0
ほとんど思わない	0	0

ボランティアとスタッフには、「子どもたちの健全な成長に役だっているか」の設問で質問した。回答は、利用者と同じ 4 択の方法で選んでもらった。

ボランティアの皆さんとスタッフ共に、全員が「そう思う」と回答した。週 4 回の提供の自負もあり、子どもたちの健全成長に役立っていると確信している。ただ、ボランティアの方の「やや」の理由に謙虚に耳を傾けたい。

5）社会体験活動の一層の充実

「ゆーすぽーと」を利用している子どもたちは学力が低い子が多い。子どもたちとの日常会話や生い立ちをたどるとどの子も厳しい家庭環境で育って来ていて、テストなどで測れる学力である「認知的能力」を育んでくることができなかったことが容易に想像できる。また、学力を育む背景として有用な自尊心や忍耐力などの「非認知的能力」を育むのに有効であり、大変重要な様々な「経験」も貧困などの厳しい家庭環境ゆえに欠落してきていることも推し量ることができる。

そこで、今年度も可能な限りたくさんの社会体験活動を実施したいと考えていた。当初は 16 回を計画して、随時追加していくことにした。ところが、活動趣旨に賛同するボランティアや関係機関の方々から予想以上の様々な体験活動が提案されて、最終的には 31 回にもなった。

特筆すべきは高校生ボランティアたちの持ち込み企画で、利用者目線の子どもたちが喜ぶ企画が多かった。高校生たちの活躍を見ていた利用者たちは、彼らの行動にモデルを発見し、動機付けになってくれたものと思う。

高校生たちが提案してくれた体験活動

・交換留学生との交流 ・ワッフルづくり体験 ・クリスマス会　ーホットケーキ作りなどー ・東京フィルハーモニー演奏会 ・卒業を祝う会でのレク（予定）

子どもたちが「自立」する一歩として重要なことが、「食べること」、「健康への意識」などであると思い「食育」に関する体験活動を多く取り入れた。受験終了後、受験生を中心に食事づくりを任せてみたが、経験したことを活かし、デザート付きの焼きそばと、みそ汁の昼食を時間内に完成させ、利用者とスタッフに振舞ってくれた。笑顔あふれる食卓だった。残念ながら、新型コロナウイルス感染予防のために全員が経験することができなかったが、どの子も調理自慢ができたと推察される。

「去年は●●ちゃんと一緒にハンバーグを作りました。今年も 3 月に自炊体験があります。今度は誰と、どんな料理を作るか楽しみです」と綴っていた子は残念がっていたが、まだ時間はあるので今年はガマンと言い聞かせた。

食育を考慮した体験活動

・サンドイッチづくり体験 ・農業体験（2 回） 　手入れと収穫・調理は随時 ・梅干しづくり体験 ・梅ジュースづくり体験 ・ブルーベリー狩りとジャム づくり体験 ・餃子づくり体験 ・ワッフルづくり体験 ・茶道教室 ・ホットケーキづくり体験	・餅つき体験 ・雑煮会 ・焼きそばづくり体験 ・恵方巻きづくり体験 ・お好み焼き体験 ・味噌づくり体験 ・自炊体験 ・手巻き寿司づくり体験（予定）

6）日常の活動を通しての学び（非認知的能力の育成）の充実

訪問した家庭の様子や子どもたちの会話の中から想像するには、調理の手伝いや後片付け、洗濯、掃除機かけなどの家事をおそらく家ではやっていないもしくは、やる場面もない子が多いと思われる。「ゆーすぽーと」では当番や分担を決めているわけではないが、子どもたちはそれらに進んで取り組み、みんなで協力して行っている。時にはやりたいことが重なってもめていること

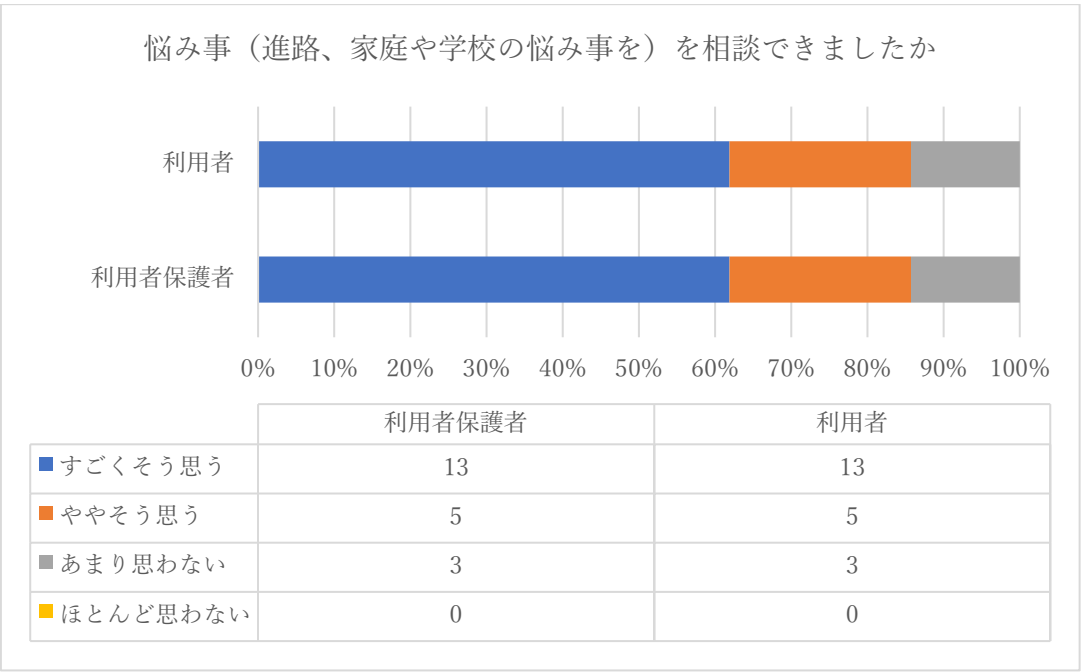
があるが、譲る子がいて収まっている。

子どもたちの中には、家庭環境のため止む無く家事を義務付けられている子もいて家事に手馴れた子もいる。そんな子のやり方を真似て頑張り、すっかり手馴れてきている子も多い。子どもたち同士のそうした生活の知恵の伝達に力強さを感じる。

宿泊こそしないが合宿のような濃い共同生活を通して、「ゆーすぽーと」の特別プログラムにないこうした日常の中から子どもたちは多くの学びを得て、逞しく成長して、自立の一歩を踏み出しているように感じる。

7）相談活動の定着

利用者には、『「ゆーすぽーと」で悩み事（進路、家庭や学校の悩み事）を相談できましたか』と質問し、保護者には、『「お子さんが、「ゆーすぽーと」で悩み事（進路、家庭や学校の悩み事）を相談できたと思うか』と質問した。それぞれ、「すごくそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の４択から回答してもらった。



	利用者保護者	利用者
すごくそう思う	13	13
ややそう思う	5	5
あまり思わない	3	3
ほとんど思わない	0	0

回答者数もそれぞれの選択肢の回答数も偶然利用者とその保護者の数が一致した。選択肢の同数は、子どもの思いが親に伝わっていることを物語っている。また、コミュニケーションがとれていることの証でもある。中学生・高校生のほぼ全員が「すごくそう思う」と回答し、小学生を合わせると 85%の子が「そう思う」を回答しているので、悩みを聞いてもらえていると感じている子が多くひとまず安心した。「あまり思わない」と回答したのは全員

が小学生である。家庭の事・学校のことなどを話したがらない子もいて難しいのだが、留意していきたい。

8）利用する子どもの保護者支援の拡充

「ゆーすぽーと」利用家庭の7割がシングルマザー世帯である。その内の数世帯が母親の病気等で生活保護を受給しているが、多くの割合で準要保護の適用を受けながら母親が懸命に働いている。しかし、ほとんどの人が非正規での就労で、低賃金や不安定な身分に置かれているため、ダブルワークや急な残業への対応などで疲弊したり苦慮したりしている。

そうした事情に配慮して、昨年度は個別ケースで突発的な事情の際に活動時間外の預かりを、その都度の依頼に応じて実施してきた。しかし、いつも申し訳なさそうにしている姿が気の毒で、今年度はあらかじめ周知しておいて、活動時間外や活動時間前の預かりを積極的に行ってきた。

勤務する会社が遠く、しかも勤務時間が不規則だったある親は、子どもの迎えが間に合わないことを気にして、いら立っていることが多く、子どもにきつい言葉であたっていることが頻繁にみられた。しかし、預かりOKを周知することによって、気持ちが大分安定してきたように思えた。1時間ほどの延長を数十回利用していたが、家庭環境の変化で現在は利用していない。

仕事の関係で、3時３０分の活動1時間前からの利用が多かった家庭もあった。

9）利用者の送迎開始

昨年度課題に挙げていた「送迎援助」を開始することができた。スタッフの人数が増えたわけではないので必要性を感じていてもなかなか腰をあげることができなかったが、ボランティアさんが参加してくれて人的に恵まれた活動日、試みにコーディネーターの自家用車を使って始めてみた。

不登校気味になっている子が、「ゆーすぽーと」なら行きたいというので母親が何としても参加させたいと願っていた。しかし、母親が車の運転をできなかったり、家族の仕事の関係があって送迎が困難な状態だったりしてあきらめていたが、迎えに行きますよと声を掛けたら大喜びしてくれた。

その後、「ゆーすぽーと」にも送迎専用車が配置され、送迎サービスの開始を保護者に周知したところ、皆さん大歓迎でしっかり利用してくれた。前述の子は、最高回数２５回利用してくれた。子どもが積極的に通っていることが、うれしかったのか父親も仕事の上りを速早めて積極的に迎えに来るようにもなった。

送迎時、運転するコーディネーターと利用者が２人きりになる機会が有効な時間にもなった。誰も周りにいないシチュエーションが子どもの心を開く

のか、家族の事、学校でのことなど色々悩みを吐き出してくれたり、素直な感情を見せたりしてくれている。

10）関係機関との連携が充実

今年度は、関係機関との連携が充実した。すでに連携している機関や専門職の方々が積極的に「ゆーすぽーと」に繋いでくれた。中でも、不登校対策教員が新規に繋げてくれた３人のスクールソーシャルワーカーさんが「ゆーすぽーと」の活動趣旨を理解してくださって、子どもの紹介や体験活動への協力、広報協力など積極的に繋がってくださった。

他にも新規で、県の機関である子どもと親のサポートセンターやスクールカウンセラー、子どもと親の相談員、支援員、フリースクール、教職員組合などとも繋がりを持つことができるようになり、利用者の情報交換ができ、多面的な理解ができるようになった。

児童数が 600 人を超える大規模校で、しかも「ゆーすぽーと」に距離的に近いことから多くのニーズが予想されていたが、昨年までは利用者が極端に少なかった。新たに着任した SSW が当該校の職員と連携して積極的にニーズを開拓して、やはり新たに着任した学校長の理解を得て、３世帯５人の子どもを「ゆーすぽーと」に繋げた。当該校の各ポジションの円滑な連携の在り方が功を奏したようだ。「ゆーすぽーと」も学校の理解を得て、保護者への働きかけなどの支援を行った。

連携した機関・専門職

	機関・専門職名	備　　考
1	東金市市民福祉部　子育て支援課	
2	東金市市民福祉部　社会福祉課	
3	東金市教育委員会　学校教育課	
4	東金市教育委員会　生涯学習課	
5	東金市総務部　財政課	
6	東金市家庭教育相談室	
7	山武郡市広域行政組合教育委員会	
8	ハートフルさんぶ・東金教室	適応指導教室
9	東金市社会福祉協議会	
10	千葉県東上総児童相談所	
11	千葉県子どもと親のサポートセンター	
12	城西国際大学	
13	植草学園大学	

14	市内幼・小・中学校	
15	関係高等学校	
16	関係市外小中学校	
17	不登校対策教員	県で配置　１名
18	スクールソーシャルワーカー（SSW）	県で配置　３名
19	スクールカウンセラー（SC）	県で配置　３名
20	子どもと親の相談員	
21	支援員	
22	フリースクールありのまま	
23	こころん	生活困窮者自立支援事業
24	ふげん塾	不登校・ひきこもり支援
25	千葉県教職員組合山武支部	
26	千葉県学校生活協同組合	
27	中核地域生活支援センター	
28	母子父子自立支援員・婦人相談員	
29	千葉県山武健康福祉センター	

【関係機関・専門職の声】

・ゆーすぽーとと連携することで、家庭に風が流れ、家庭支援だけでなく、子どもたちが本来力を発揮すべき学校環境を整える機会となったことに感謝。　～　ゆーすぽーとのように総合的に支援してくれる場が必要だと強く思った。―SSW―

・一つの機能に特化することなく、たくさんの機能を備えて地域に貢献している機関は他にはありません。苦慮されることも多々あると思いますが、これからも続けていかれることは、地域にとってはありがたいことです。たまに寄らせていただくと、子どもたちが活き活きと活動や学習に取り組んでいる姿を見ることができます。家庭や学校に居場所がない子どもにとって、安心して過ごせるいい空間になっているのだなと感じます。―不登校対策教員―

・本来なら、子ども達が安心して暮らせる家庭と学校が保証されるべきですが、現実は必ずしもそうなっていません。学校では子ども達の現状を知っても出来ることは限られており、ゆーすぽーとの存在はありがたく思っています。私としては、学習支援も大切ですが、学ぶ意欲の基となる安心できる場所としてのゆーすぽーとにも期待しております。

―子どもと親の相談員―

・子育て家庭への支援メニューが少ない東金市ではなくてはならない存在です。貧困が起因する暴力の中で育った子どもたちには、教育以前に脳幹を刺激する五感（視、聴、嗅、味、触）を取り戻すことが必須と思います。ゆーすぽーとでの食事提供は自然にそれが提供されている場であると思います。―母子父子自立支援員―

・学校や学童クラブにうまく馴染めず行き場のない児童を受け容れる場所として大変ありがたい。―東金市子育て支援課―

・複雑な家庭の事情を抱えておりお子さんたちにとって、かけがえのない居場所だと思います。ご尽力に感謝。―SSW―

・多くの小・中学校の児童生徒がお世話になっています。放課後の居場所として、また、学習支援、食事の提供、多くの社会体験活動と、多岐にわたる機能を有しており、大変ありがたく思っています。利用者の保護者から、「保護者への相談にものっていただき、不安を取り除いていただいている」と感謝の言葉も寄せられています。今後も同様に活動されて、子どもたちを救う大きな役割を担っていただき、学校を助けてください。
―東金市教育委員会　学校教育課―

・学校としても努力をしているのですが、福祉の側面まで踏み込めないご家庭もあり、子どもたちを支えるためには、貴事業を始め、さまざまな機関や団体、あるいは私的なつながりを広げて、多くの目・手で励まし、助けることが必要だと思います。貴事業に励まし助けられている子ども、ご家庭が多くいます。日々の活動ありがとうございます。　―小学校長―

・ゆーすぽーとに支援・連携して頂いているおかげで、本校児童が学校に登校し、学び続けることができています。児童にとってこの時期、しっかり学び、将来への夢や希望を持つことが、生きていくうえでの支えとなります。ゆーすぽーとに関わることで、学校の在り方についても多くを学ぶことができました。　―小学校長―

・貴機関のご支援により、現在高校で頑張っている子どもがたくさんおります。今後とも、子どもたちが社会の中で自立できますよう、ご支援よろしくお願い申し上げます。　―中学校長―

・ゆーすぽーとには大変感謝しております。「コミュニケーション力の向上」、「学びあう力」、「社会性」等については、家庭内が不安であると、子どもたちに上手く身につくものではありません。ゆーすぽーとは、そのような力を身に付ける場であるとともに、子どもたちの居場所としても大切な場であると考えております。また、保護者も自分の時間を持てたことによって、心にゆとりができて安らぐ中で、家庭内が安定してきていたように思います。本来は学校に来るべき保護者からの苦情や進路相談などにも対応していただきありがとうございました。学校の負担が軽減されたのも、「ゆーすぽーと」のおかげです。　―中学校長―

11）ボランティアの高い意識

参加人数こそ減じているが、後掲の「ボランティアの声」が物語るように、参加してくださっているボランティアさんたちの意識が大変高い。皆さんがそれぞれテーマを持って参加してくださっているように思われる。大変心強く励まされる。

一人の参加回数が増えたり、活動予定日を固定されて参加して下さったり、ボランティア活動日を早目に指定してくれるなどの協力をしてくれて、シフト組みや利用者の送迎予定などが立てやすくなってきて円滑な活動に貢献してくれている。

子どもたちへの思いも厚く、皆さんが季節や行事に合わせて楽しい企画を持ち込んで体験させてくれたり、珍しいもの、美味しいものを差し入れてくださったりしてくれている。調理ボランティアの方たちは、子ども達が喜ぶ美味しく楽しいメニューを考えて参加して下さっている。クリスマスに近い日の夕食では、献立はもちろん、全ての小物までクリスマス色で子どもたちの気分を高揚させて下さった。

スタッフがやるべき広報活動を積極的に行ってくださっているボランティアの方もいらっしゃる。日々の日常活動に追われてできずにいることを見かねたのか、何人もの新規のボランティアを活動の輪に引き込んで下さっている。

また、現役で多忙な方々が活動の趣旨を深く理解されて参加してくださったことにも励まされてきた。

【ボランティアの声】

・様々な社会体験活動や普段のゆーすぽーとでの生活から、これから生きていく中で必要な生活力や礼儀などを学ぶことが出来るのはとても良いことだと思います。ゆーすぽーとがある事によって子ども達にも保護者にも、心のゆとりが出来る大切な存在になっていると感じました。子どもた

ちがゆーすぽーとに行き、他校や他学年の子たちと交流することによって様々なコミュニケーションが生まれるのはとても魅力的に
感じました。　―高校生ボランティア―

・いろいろな事情を抱えている子どもたちの居場所になっていると思います。勉強する習慣や掃除・皿洗いなどの家事、挨拶、たくさんの世代とのコミュニケーションをとったりすることで、利用している子どもたちが将来自立できるための、大きな存在になっていると思います。度々あるイベント事は、思い出に残ることはもちろん、子どもたちのこれからの人生を豊かにする、良い経験になると思います。　―高校生ボランティア―

・以前から、生まれ育つ環境によって違う子どもたちの差に違和感を覚えていました。ゆーすぽーとの活動はとても素晴らしいと思います。そして、携わる皆さん、優しくて尊敬しています。常勤で勤めているので、あまり参加できないと思いますが、お手伝いさせていただければ嬉しいです。
―調理ボランティア―

・限られた予算と人員の中で、子供たちのために真摯に取り組まれている姿勢に、大変感動しています。これからも活発な活動を継続されることを心から応援しております。　―社会体験活動講師―

・家庭環境に恵まれない子どもたちも、ゆーすぽーとに来ると笑顔いっぱい、ワイワイおしゃべりしていて、本当にゆーすぽーとが居心地のよい場所なんだな・・。と感じます。スタッフの皆さんがハードワーク過ぎるのでは・・・ということが気になります。ご無理なさらずに。
―調理ボランティア―

・今、子ども達を取り巻く問題に関わって、東金でただひとつ、学習支援、子ども達の自立支援等を「ゆーすぽーと」で活動されていることはとても素晴らしいことと思います。日頃、スタッフの皆さんが協力して明るく活動している姿、本当にご苦労様です。普段仕事をしているため、月一回のボランティア、微力ですがこれからも続けてゆきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願い致します。　―調理ボランティア―

・子ども達一人一人の痛みや苦しみに寄り添う姿に、真の教育者としての在り方を垣間見た時、「ゆーすぽーと」という“陽だまり”のような居場所がある子ども達は幸せだな～と、しみじみ感じました。確かな信頼関係の

中の教育と食育両面からのサポートは、子ども達にとって、何よりの”栄養剤“だと思います。　―社会体験活動支援ボランティア―

・幼少期に十分な愛情を受けること、社会的経験をすることが何より大切なことと思います。海外の貧しい子どもたちを支援する活動もすばらしいことだと思いますが、ゆーすぽーとのように日本の子どもたちを支援する活動は必要だと思います。自分にできることを考えたいと思います。
―社会体験活動支援ボランティア―

・週１回なので子ども達との関りがちょっと薄いように思うので、もう１・２回、回数が増えると良いかなとも思っています。利用する子どもたちにとっては、いろんな面でよい居場所になっていると思います。異学年交流ができる場、いろんな体験ができる場としてとても良い場所、機会になっていると思われます。　―学習ボランティア―

・子ども達を見ていると、表情も良く、喜んで来ているように思えました。ここに来ればなんとかなるという拠り所がある事はとても大切な事のように思います。　―調理ボランティア―

・子ども達にとっての居場所、心の支えとしてとても大きな役割をしていると思います。たまにしか伺えませんが、私達にできる時に、できることをさせていただこうと思っております。外部の方で、このような活動の手伝いをしたいと思っている方が多いと感じました。店に貼ってある「ゆーすぽーと」のボランティア募集ポスターを見て質問される方がいます。その人たちにうまく説明できないことが残念です。こういう方の力をもっと借りられるといいのですが。・・・。
―物品提供・調理ボランティア、社会体験活動講師―

・利用者の表情が会う毎に子どもらしく明るくなっているのをとてもうれしく感じています。反面、スタッフも利用者も固定してしまって、新しい方が入りづらくなるのを心配します。スタッフの労力も片寄りがちですし。大人達が、子どもがいる日に利用者の状況を話題にすることは、努めて避けたいと思います。休みがちな子たちが気がかりです。
―調理ボランティア―

・月１回のボランティアですが、楽しく食事作りができます。他の子ども食堂がどのように食事を提供しているか、また、行事会など作っているかい

ろいろ知りたいと思います。　―調理ボランティア―

・食事作りでの参加です。旬の食材を使って工夫して、栄養価の高い食事を作り、それを喜んでたべてくれる子ども達の食事風景に喜びと充実感を味わっています。　―調理ボランティア―

・さまざまな支援を必要とする子ども達に、きめ細やかであたたかい対応をされているスタッフの皆様の活動に頭が下がります。皆様が多くのことを抱えすぎて体調を崩すことのないことを祈っています。
―物品提供ボランティア―

・ボランティアを受け入れてくださり、ありがとうございました。とても良い経験となりました。子ども達がのびのびしており、とてもよい環境だと思います。中学生ともなると、自ら準備などできていて、それはとてもすごいことだと思います。迷惑でなければ、今後もボランティアに参加したいと思っております。　―大学生ボランティア―

・子どもの貧困が問題になっている現在、ゆーすぽーとの存在意義はとても大きいと感じる。ゆーすぽーとあるいは同様な機会を利用できる子どもたちは、まだまだ少数だろうし、そうした現実に対する社会の関心も低いだろう。(自分自身も関わるまで全く知らなかった)。今後とも、手伝える範囲でゆーすぽーとの利用者へのサービスを続けていきたいと思うし、ゆーすぽーとの活動を広く知らしめていくことが大切だと思う。
―学習ボランティア―

・学び舎・ゆーすぽーとのような場所がもっと広がって欲しいと思います。住みやすい町づくりにもつながると思います。また、広がっていくことが、このような状況やこととかがあるという認識が当たり前になり、多くの人の協力が得られると思います。
―体験活動支援ボランティア―

12) 目を見張る取組み「利用者目線の高校生ボランティア」

今年度、高校生ボランティアが 7 人も参加してくれた。24 回も参加した心強い味方の活躍には目を見張り、感心しきりだった。彼女に誘われ最初は受け身の高校生ボランティアたちも次第に積極的になってきたこともうれしい事だった。他のルートからの意識の高い参加者もいて若者たちの思考・行動の現状に感心させられた。

中学3年生だとわずか2歳違いで、年齢が近い存在は、子ども達、特に中学生にとってはモデルであったり、高校あるいは高校生活の理解に役だったりして、大きな動機付けになるなど効用が大きかったと思われる。中学生が高校生を囲んで話している姿がしばしば見受けられた。

また、高校生達が積極的に体験活動の企画を持ち込んできてくれたことも特筆できる。コーディネーターや他の大人たちが考える推奨の体験活動とは違った、自分たちの子どもに近い目線で利用者が喜びそうな社会体験内容を自ら考え、準備し、進行してくれた。頼もしい助っ人たちだった。

13）支援してくださる企業の増加

今年度も多くの企業・団体などから支援していただいた。活動の幅が広がって、利用者にとって「ゆーすぽーと」利用の動機付けとなる魅力的な体験活動を計画することができた。また、金銭的な支援もいただくことができ、次の活動の幅を広げることも可能になった。

支援していただいた企業・団体　　敬称略

企業・団体名	協力内容	所在地
愛華ツーリスト	旅行的な要素を含む体験活動の際には常に計画・立案の協力、添乗サービスなどを行ってくださった。	東金市
有限会社 オートウイル	昨年度、成田空港見学の際に格安で運転手を手配してくださった。引き続き今年度は筑波山登山の際に観光バスを格安で提供してくださった。	茂原市
大里総合管理 株式会社	昨年度のアンサンブルコンサートと食事招待に引き続き、今年度は講演会に招待してくださった。	大網 白里市
直売場 しいの木	２年続いてブルーベリー狩り体験の場を提供してくださった。定期的に米や野菜を提供してくださっている。	東金市
道の駅 みのりの郷東金	本来なら、ふるさと納税返礼品は一括して購入して、受け取らなければならないのだが、事情を汲んでくださり年間を通じて、必要に応じて配達してくださっている。	東金市
株式会社 小川屋味噌店	道の駅同様、年３回ほどに分割して納入してくださっている。数種類がパックになった魚の切り身を購入しているのだが、お願いして、魚種を揃えていただいている。	東金市

林養鶏場	やはり、道の駅同様。納入時期を弾力的にしていただいている。1 月一箱 100 個を定期納入していただいている。しかも、常に 30～40 個のおまけつきで。	東金市
くすの木 いきいき食堂	筑波山登山の際にどこにも対応してもらえなかった早朝のお弁当作りに協力していただいた。できたての美味しくボリュームのある弁当がありがたかった。	東金市
ＫＫDuo	今年度の「卒業を祝う会」を、電車乗車体験を含めて千葉市にあるこのレストランに出かけて、ランチを楽しむ予定だったが、コロナウイルスのため中止せざるを得なかった。紹介者のＳＳＷ及び店主共々に活動趣旨を深く理解してくださっており、次の企画を約束している。	千葉市
株式会社 房総教材社	体験活動の際にたくさんの教材や画材などを提供してくださった。参考書や問題集なども大量に提供してくださった。	東金市
千葉県学校 生活協同組合	「ゆーすぽーと」の活動を、団体の「社会貢献活動支援補助金制度」に該当すると認めてくださって、金５万円を贈呈してくださった。	千葉市
千葉県 教職員組合 山武支部	「ゆーすぽーと」の活動の現状を把握されて、上記団体に、推薦団体として推挙してくださった。	山武市
千葉学芸高校	昨年度に引き続き、パソコン教室・茶道教室の体験活動の場と講師を提供してくださった。クリスマスカードと名前シールを数に制限なくプリントしてもらって大喜びだった。	東金市
ベーカリー粉桜	サンドイッチづくり体験で材料を提供してくださった。毎年、ハロウインの時にはハロウインクッキー、クリスマスにはパネトーネを届けてくださっている。折々に、国産材料にこだわった酵母パンも差し入れてくださっている。	東金市
東金洋菜出荷 組合 代表　今関　弘	平成 29 年の開所以来、通年でサラダ菜を提供してくださっている。ハウスの水耕栽培のために比較的極暑、極寒の気候に影響されず、常に緑物を届けて頂いている。おかげで、四季を通して食事の提供に彩を添えることができている。	東金市

14）拠点地域との関わりの芽生え

隣近所の人たちだけの限られた範囲だが、地域にわずかながら関係性が出来てきたように思う。「ゆーすぽーと」の活動が見えて、活動の内容への理解が得られたのではないかと思う。

隣のカフェのご夫婦は親切にも、帰宅途中転んで足を擦りむいた利用者の手当てをしてくださったのを後で聞いた。裏のお宅に鈴なりの梅をおねだりしたら快く提供していただけた。裏に住む「ゆーすぽーと」の大家さんは、常に気にかけてくださり、施設を使いやすいように改良してくれている。また、折々に旬の果物を差し入れてくださっている。

２．報告会等の評価

１）「学び舎・ゆーすぽーと　中間報告会」アンケート集計

日　時：令和元年 12 月 14 日（土）　13：30～16：30
場　所：東金市商工会議所会館 4 階　中ホール
参加者：34 名（内、アンケート回答者 30 名）

Ⅰあなたのことを教えてください。

	男性	女性
性別	10	20

	20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	無回答
年代	0	0	1	4	6	19	0

	0～4 年	5～9 年	10～14 年	15～19 年	20 年以上	無回答
職業等経験年数	11	1	2	0	6	10

	県・市町村	教育	福祉	その他	無回答
職種	5	3	8	7	7

Ⅱ　今回の内容はいかがでしたか？

１　米山さんの基調講演

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
19	9	1		1

＜理由＞

・子どもの貧困について、意識を高めることが出来た。仕事的に自己肯定感や学習意欲を高めることを重視しているが子どもの貧困状況に着目することが必要であると感じた。ビデオの中で箱を開けた時の子どもたちの反応が印象的でした。ありがとうございました。

・子どもとそれを取り巻く情泡についてよくわかりました。

・フードバンクの必要性が良く分かりました。自分でも食品ロスを出していると思います。今後、活動を進めることが重大です。当たり前の生活ができない子どもが多いのに驚きを感じました。利用者の声には強く感じるところがありました。

・フードバンク活動と貧困がつながっているのはとてもいいと思ったので、東金でもその流れをうまく利用できる団体が欲しい。どの程度、フードバンク千葉を利用できているのか知りたい。

・フードバンクの仕事をあまり知らずに話を聞きましたが、貧困家庭への支援など大切な仕事だと知りました。

・フードバンクこども支援プロジェクトの活動概要がよくわかりました。お話が具体的であり、大変参考になりました。

・フードバンクの活動は社会に大きな貢献をしていると思った。米山さんの話から、食べ物だけでなく、たくさんの人の真心を届けている素晴らしい活動だと感じました。

・愛は身近なところから始まるという言葉が言葉で終わらない一歩が、人のお腹だけではなく、人の心を育てることを感じました。目の前にいる子どもたちに向き合いたいと思います。

・子ども達の現状に涙が出ました。子ども達が食べ物を心配しないで暮らせる世の中になって欲しいと思いました。

・出来ることからスタートした米山さんのように、私も自分ができることから考えてみたいと思いました。

・今、問題となっている食品ロス循環が上手くいくといいと思います。子どもの貧困の状態驚くばかりでした。

・まだ貧困の子どもが見えていません。学校などとの連携が必要なのでしょうか。

・日本の食品ロスの問題や日本の貧困について貧困の格差やひとり親家庭の現状を知るきっかけになりました。スライドやビデオの中で箱の中を見ながら「お宝！」と叫ぶ子供の姿に心が痛みました。フードバンク山梨の活動や、様々な支援について知ることができてよかったです。

・千葉では縮小傾向にあるフードバンクが、大規模に行われ続けていることに驚きました。本来はますます必要になる事業だと思っています。

・初めて深く聞くことでした。
・経済的格差が日本でも進んでいること、子ども達の経験する機会を奪っていることがよくわかりました。
・学校と連携して夏、冬休みの支援にたどり着いたのは素晴らしいと思いました。
・食品ロスが今よく言われていますが、あまりにも格差があることに気づかされ食生活をもっと考えなおしたいと思いました。

2　学び舎・ゆーすぽーと中間報告

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
20	7	0	0	3

＜理由＞
・具体的な報告で、とても参考になりました。
・具体的に活動内容が理解できた。今後、私も参加したいと思えた。
・いつも大変お世話になっています。本校の子どもたちが厳しい状況の中で、登校できているのは皆さんのおかげです。今後も連携していきたいと思います。よろしくお願いします。
・ゆーすぽーとの全体像を知る事ができ参考になりました。
・子ども達の学び舎で楽しく過ごしている姿が思い浮かびました。活動、行動に結果・成果が素晴らしいことだと思いました。
・社会体験でハイキングに行った時の話を聞いたら、子どもたちはやはり外に行って活動（遊び等）したいのだろうなあと思いました。
・これからもいろんなところで協力させていただきたいと思います。
・活動している内容が良く分かった。
・勉強だけではなく、多くの行事を行っていることがわかりました。
・ゆーすぽーとの多機能性がすごいと思いました。育った子ども達がサポート側に回る環境がいいですね。
・夢や希望がどのような環境にいても持つことが出来るわけではないと感じています。子ども達がゆーすぽーとさんの中の関わり、見守られ、希望の芽が育つのだと感じています。お世話になっている子供たちの将来に私も夢を見ます。子どもを中心にという事がどこの場でも大切だと感じます。
・良く知らなかった成り立ちが理解できました。写真の子ども達楽しそうだな思いました。
・子供たちの成長が感じられてよかった。

・大網白里市にも藤田先生のような存在、場所を見つけることが大事だと思いました。
・関係機関の情報共有、提供、連携が必要だと感じました。また、貧困と虐待の関係も深い為早期に発見することが必要だと思いました。
・少しでもお手伝いができればと思いました。
・このような素晴らしい取り組みをしていることは知りませんでした。ありがとうございました。
・開設の背景や活動内容、目指す形、活動の様子等詳しく知ることができました。子ども達を取り巻く様々な生活環境に応じた細かな支援を実感しました。子ども達の自立支援、将来への自信につながる活動素晴らしいと感じています。
・多岐にわたる活動に驚きました。東金市にこのような場所があることがうらやましいです。
・どのような子ども達をどのように支援されているか概要がわかってよかったです。
・県内他市で生困事業の学習支援をやっているのですが、まるで異なる手法にカルチャーショックを受けました。正直うらやましいです。
・普通にできる事ができない貧困というとらえ方を知りました。ゆーすぽーとの多くの社会体験活動の源がそこにあると直結していることが確認できました。素晴らしい活動だと思いました。野菜をお届けしたいと思います。

Ⅲ　今回の報告会に参加されて、実際の現状等を知りどう感じましたか。また、今後子どもの貧困問題を解決していくにあたりどのようなことが必要だと思いましたか。

・地域（学校）ベースで多様な形態で黄色信号の子ども世帯、老人世帯を中心に支える仕組みが必要かと思います。そのためにも、まずは市行政・社協等がより現実に目を向けた施業を本気で考えてほしいです。
・子どもの姿からは見とれない貧困の存在を知り、それを見抜き、支援していくことの必要性を感じた。不幸な連鎖を断ち切るために学校としてやれることをしっかりやっていきたい。特に受容感や自己肯定感を高め、学習意欲を向上させることに重点を置き、取り組みたい。職員にも周知します。
・地道な活動ではあると思いますが、長く続けていく必要があると思います。また、成果等についても行政に働きかけていくことが大切だと思います。支援いたします。
・子どもの貧困格差が世界的にワースト８と驚いた。以前は近所の人で面倒を

見ていた気がする。活動を理解する人を増やすことが賛同から参加のポイントだと思いました。
・26 日に貧困対策大綱が始まる為、県との交渉を県議や元高校の先生達と参加します。多くの仲間も関心を持っていけるように現状を整えたいと思います。
・発掘が大切だと思いました。まだ、まだ受け入れられない子ども達をどうしていくかが課題だと思いました。
・現実な生活になかなか変えることはできません。少しでも自分の居場所、そして美味しい食事、楽しい行事を行い豊かな心を持てる子どもが一人でも増えたらと思います。
・様々な家庭環境があるという事を改めて感じました。民間の活動の充実も大切ですが、行政面の整備もやはり必要に思います。
・マンパワー・過剰なものを不足している人・場へまわす。かなりあるはず。
・教育行政では不登校の増加が課題として挙がりますが、子どもの貧困問題に学校がかかわることは出来ないかと考えます。フードバンクと学校の連携が今日ありましたが、貧困問題に手が入ることで、希望をもって不登校の改善にもつながるかと（そればかりではありませんが）思っています。藤田先生の温かい思いが、子どもを育てていると感じています。学校に温かい思いが広がるように SSW として活動しています。
・ボランティア回数、ちと増やそうと思いました。
・地域の中での関りから気づきつながりの大切さを感じました。自分にも何かできる事があるかもしれません。気づいてあげることが大切だと思います。
・一人一人の子ども家庭に寄り添った支援がもっと必要だと思いました。
・生き抜く力を身に着けた人づくりを目指してより多くの人との関わりが大切だと思います。
・広く問題を認知していただくことが必要だと思いました。
・先日は筑波山登山へ参加させて頂いてありがとうございました。子ども達の無邪気さや、面倒を見る高校生を見ていて、自分の方が癒されました。いろいろな社会体験活動をされていて素晴らしいと思います。自分にできる事は何か、まだはっきりしませんが、子ども達の生きる力を育む、キャリア教育活動ができたら、と思っています。今日の話を聞いて、その気持ちが強まりました。ありがとうございました。
・ゆーすぽーとのような包括的な支援が拡大していけたらと思います。また、連携を考えるうえで壁になる、個人情報の取り扱いについて柔軟な対応が望まれると思います。
・賛同から参加への輪を広げたいと思いました。

３．今後に向けた課題

１）中学生の学習時間の確保

「ゆーすぽーと」では家庭の事情が許される子には、たくさんの経験が得られる学校での部活動を推奨している。部活でレギュラーに選ばれなくても活動を続けるように励ましている。しかし、部活動の活動時間と「ゆーすぽーと」の開設時間とがほぼ同時間帯のため、通所して来られる時間が遅くなり、学習時間の確保が難しい。４人の利用者が部活動に所属していたが、活動のハイシーズンには食事直前に通所してくる状態だった。週 1 日の部活動休止日にだけ、かろうじて学習時間が確保できている状態だった。食事ぎりぎりの為に遠慮する子もいたが「食べるだけでもいいからおいで」と声をかけてきた。

部活動を引退する時期は７月末で、それからの受験勉強ではなかなか学力の向上は望めない。そこで、部活動をやっている子にも、早い段階に意識付けをさせたり、学習の習慣を定着させたり、学習時間を確保するために夕方からの開設日も設けることを考えている。

２）利用者の固定化と新規利用者のためらい

利用者が固定するほどよく利用してくれることはうれしい事なのだが、あるボランティアが、「メンバーが固定してしまって新しい方が入りづらくなるのを心配しています」と指摘しているような場面がある。食事の際、長期に頻回利用している利用者たちの中に家族のような雰囲気が醸し出されていて、新しく参加してきた利用者には、その場になじむには壁が高いように感じるときがある。特に中学生にその傾向が強いように感じる。

食事の提供が居場所（学習支援など）の利用のネックになり、利用を控えているケースがあると思われる節がある。突然利用が途絶えたり、食事を摂らずに帰宅したがったりする利用者が見受けられたからである。

そこで、食事提供から学習支援に結びつける従来の手法から、学習支援から食事提供への発想の転換も必要かと考える。現在利用している子ども達も、「ゆーすぽーと」に通所していることを友達に「塾」通っていると話しているように、「学習支援」がハードルが低いので、１）の課題で触れたように、食事なしの「夕方からの学習支援」の必要性を感じている。

３）利用条件に該当する対象の子どもや家庭への周知

年度末に登録した利用者の作文である。「私にっとって、ゆーすぽーとは、私に希望を与えてくれた場所です。私は、前期の高校入試で合格することができませんでした。後期はどこの高校を受験するか、どこの高校なら自分の

将来につながる３年間を過ごせるのか家族で話し合っていましたが、自分の学力ではあまり行ける所がありませんでした。そんな時、私の母が『ゆーすぽーとに行って勉強頑張ってみない？』と私にすすめてくれました。」

子どもが公立高校前期試験で不合格になって、不安になった母親が市役所の相談窓口を訪れ、「ゆーすぽーと」を紹介されて結びついた利用者だった。学習支援を通して把握した彼女の学力は高く、志望高校の合格ラインには問題ないと思えた。最後まで伴走し、精神的に支えていくことが大事だと思い、彼女の求めるニーズに添って支援した。結果、無事合格できたが、もう少し早く繋がっていたら、第一希望の高校に入学できるような支援ができたのではと残念な気持ちを抱いた。

そして、利用対象の条件に該当する子や家庭への周知の重要性を痛感した。周知の方法として１）、2）でも述べた、「夕方からの学習会」を「無料塾」として、案内することが有効ではないかと考える。

４）学校との連携強化

関係機関や専門職を対象にアンケートを実施して、「ゆーすぽーと」との繋がりの度合いや存在意義を尋ねた結果、どちらの設問に対しても、多くの関係機関・専門職の方々から肯定的評価をいただいた。しかし、その中で少し気がかりな点があり、早急に改善しなければならない課題だと認識した。どちらの設問にも児童生徒が「ゆーすぽーと」を利用している子が在籍している小・中学校からの回答に低い評価が多かったように思う。そして、学校によりかなりの温度差があったようにも感じた。もちろん、意義もつながりも「なし」とは回答していない。

不登校気味だったり、気になる行動をとっていたり、保護者からのクレームが多いなどの児童・生徒で、学校全体で共通理解され観察対象になっている「ゆーすぽーと」利用者が在籍する学校からの評価は高いが、学校生活で目だった問題行動もなく普通に過ごしている児童・生徒が在籍する学校からの評価が低いように受け取れた。実は、普通に学校生活を送り、問題行動が露呈していない子どもの家庭もたくさんの問題を抱えている。

そんな意味で、情報の共有など関係の強化が重要視され、学校に「ゆーすぽーと」の活動趣旨等の理解を深めていただく必要がある。学校に連絡を取りたいことがたくさんあるのだが、学校がある通常日は、「ゆーすぽーと」の活動が終了する時間には、学校の退勤時間が過ぎていることが多く、そのままになってしまったケースも多い。学校の長期休業中は対応して頂けるが、連絡を取りたい職員の不在などが多く、先送りになってしまう。

今後は、もう少し学校への訪問回数を増やし、積極的に広報、情報の共有

化を図り、児童・生徒が利用している該当校には、必ず最高の評価を頂けるように努力したい。

5）スタッフで課題・情報の共有化

アンケートの自由記述欄で、「中心となっているスタッフが少なく、指示を受けて行動するスタッフが多い印象があり、中心的スタッフの負担が大きいように思う」と、指摘された方がいた。他にも同じような内容の記述が複数あった。

課題や情報が共有されていない証左であり、早急に対応しなければならない課題である。機能が拡充されてきて、やらなければならないことが膨らんできていて、少数のスタッフでやり切れる分量ではなくなってきている。

スタッフが日替わり勤務の為、都度の報告や依頼になっており、時間差が生じて報告内容に差が出たり、ひどいときには忘れてしまうことも間々あったりする。他に仕事を抱えているスタッフもいて難しいが、次年度以降必ずそうした時間の確保をして、思いや課題・情報が共有されるようにしていきたい。そして、スタッフ全員がより一層意識を高め、子ども達を支えるチームとして、さらに熟成を重ねられるよう努めていきたい。

6）活動の広域化

近隣の自治体の「社会を明るくする運動実施委員会」より、「ゆーすぽーと」の活動を話して欲しいと講演依頼があった。広報活動の活発化を課題にしているので即決で受けた。2 月初めの講演当日たくさんの人たちが来場してくれた。会の代表でもある市長をはじめ、市議会議員も参加してくれた。会の事務局が福祉部局であったため職員もたくさん見えられていた。

講演終了後、その社会福祉課のスタッフから矢継ぎ早の質問が繰り出され、会場手配などの協力をするので「当市でも開設して欲しい」と訴えられた。次年度の活動の目途が付いたら具体的に話しましょうと約して帰ったが、「ゆーすぽーと」の機能の拡がりの必要性を強く感じた

また、講演を聞いてくれた人の中に企業人も参加されていて、協力の申し出もあった。広い地域で活動する事による協力の輪の拡がりも実感できた。

7）アウトリーチと人的体制の強化

アウトリーチは、今後ますます増加していくことが見込まれる。しかし、その提供にあたっては、経験とスキル、子どもとその保護者との信頼関係を日々築いてなければ、提供していくことは難しい。現状のスタッフ体制では、なかなか希望に沿った支援の質・量が提供できない。

ただ、問題や支援ニーズは待ったなしで発生するため、専門的な人材の確

保はもちろんであるが、補完する仕組みや人の養成・確保を検討していかなければならいと考えている。

8）支援者への活動報告

また、課題に残してしまったのが、支援者、特に「ゆーすぽーと」に来所していただいていない物品提供をしてくださっている方々への報告である。年２回（今年度は新型コロナウイルスの感染予防に配慮して年度末の報告会は中止措置をとったため１回だった）の報告会にはご案内を差し上げているが、多忙で参加いただけていない方が多い。

次年度は必ず子ども達の声を添えて、報告書をお届けしたい。

第３章　新たなニーズ

１）実践を通じてみえてきたこと

３年間の取り組みを通じ感じることは、生活困窮世帯や子育てが困難な家庭の子どもに対して、特に子どもを中心に据えた多機能で包括的な支援の必要性である。児童養護施設は、そのような機能を持ち、質・量ともに拡充が求められているものの課題も多い。量的側面では、小舎制やサテライト的な展開も一部実施されているが、設置数の少なさから住み慣れた地域や仲の良い友達等の環境から切り離されてしまう場合も多い。そのため、子どもや親を家庭（世帯）として包括的に伴奏する制度上の困難さ、衣食住といった日々の生活上の即時性や柔軟性を伴う直接的な生活支援と相談援助との連動の課題など、多機能で包括的な支援をする機能が、十分に発揮されてないと感じている。

また、生活困窮者自立支援法や児童福祉法等をみても、当法人の取り組みを丸ごと事業化できるものではないため、現状ある制度を組み合わせて実施するか、自己資金を確保するためのファンドレイジングによって自立するほかない状況である。

しかし、実際は、いずれも簡単に実施できるものではないため、独立行政法人福祉医療機構の助成を３年間受けながら、実践と成果、必要性の啓発を実施してきた。

ただ、一市町村の一部での実践と成果では、その必要性を十分に伝えきれないため、ニーズと実践の関心の高い協力者がいる他市町村での実践も行い、その意義や役割、必要性を訴え、地域の理解を啓発するとともに、現行ある制度の柔軟な対応を提言したいと考えている。

２）次年度の取り組み

これまで同様、子育てが困難な状況にある家庭の子どもや困窮世帯の子どもの家庭を対象に、子ども一人ひとりが、夢や希望を持ち、生き抜く力を身につけることや、貧困や不安定な家庭環境の連鎖を断ち切るための直接支援、環境づくりをすることを念頭に取り組みを深めていきたいと考えている。

特に、より複雑に絡む複合的な課題を抱える世帯を支えるための子ども多機能型支援拠点の深化とその実践の紹介啓発を進めるとともに、３年間で培ったノウハウの一つである学習支援機能と食事支援機能を他地域に出張サービスとして展開し、その地域の専門職と市民を巻き込み、新たな子どもの支援の場づくりを行っていきたいと考えている。

このことが、今後共感者や協力機関・団体を増やし、これまでの活動事業とこれからの取り組みを支えるサポーターづくりにつながると考えている。

終章　まとめ

当法人は、2017 年度～2019 年度の３か年にわたり、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮状態にある家庭の子どもや子育てが困難な家庭の子どもを中心に「学習支援、社会体験、居場所づくり、食事提供、相談支援、アウトリーチ、送迎支援、保護的支援」など多機能な支援を、出会う子どもやその家庭にあわせて、時機を見極め、適切なステージで必要な支援を実施してきた。

実際取り組む中で、子どもたちの表情が明るくなること、言葉数が増えること、物事へ取り組む意欲や関心が広がっていくこと、しっかりと進学ができたこと等、多くの成果が見えた。支援にあたる私たちも、子どもの支援を軸に、福祉や子ども、教育、地域の人・団体等が、一緒に課題を共有し、考え・取り組むつながりを作ることができた。

一方で、支援を求める子どもと家庭が多くあることに驚くとともに、そうしたニーズに応えるだけの受け皿づくりを、一定のエリア内で、個人情報を保ちつつ、限られた人材と財源等で進めることの難しさを痛感している。また、多くのニーズに応えていく中で、人数が一定以上となると、個々のニーズに応えにくくなる状況や集団の中で子ども同士の関係性が難しくなり、子どもの居場所としての機能が、一部の子どもには機能しにくくなる状況も実感した。

また、別冊にもまとめた、ファミリーサポートを行っている家庭については、包括的な支援が求められる中で、子どもの今望む暮らしを中心に据えて、子ども本人と家族、教育委員会、学校、福祉事務所、市のこども課等関係機関の連携や協働していく調整の役割の一翼を担えていることは、大きな成果であると感じている。

こうした取り組みは、ある意味ボランタリーなものである。しかし、時に制度や仕組み、組織等の隙間を柔軟かつ迅速に埋められるのは、ボランティアだからこそかもしれないとも実感している。

一方で、過去の報告書でも示しているように、こうした取り組みを維持・継続をしていくためには、なんらかの財源や位置づけが必要であると考えている。

私たちが支援を通じて出会った子ども達やその保護者・家族の状況は、その人達固有のものでも、東金特有のものではなく、どの地域でも日常に起きていること、また誰しもの隣合わせにあるものであるため、他地域へ広げるためには、現行制度の見直し又は隙間を埋める仕組みづくりが必要である。

今後に向けて、当法人が取り組むべきは、３年間の実践をより深化させていくと同時に、これまでの実践を他の地域にも展開し、子どもとその家庭の支援を通じて多様な仲間を増やすとともに、その実践の意義や役割、必要性を訴え、カタチにしていくことが助成を受けたものの役割だと考える。

参考資料

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

子どもを地域で包括的に支援するアウトリーチ型多機能型拠点づくり事業

学び舎・ゆーすぽーと

中間報告会

「学び舎・ゆーすぽーと」は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の社会福祉振興助成事業を受け、
2017年度から実施している事業です。
地域に拠点と専門の職員を配置し、「相談支援、居場所、学習支援、体験支援、食事支援、送迎」等の多機能支援を行い、
現状の問題からの脱却や子どもが自律できる力を育むことを目的に実施しています。

参加費 無料
事前申込必要

日時 2019年 12/14（土） 13:30～16:30

場所 東金商工会議所会館 4階中ホール（千葉県東金市東岩崎1-5）

定員 60名

対象 子どもの育成・地域支援活動に携わるボランティア・市民活動、教育関係者、児童養護等の関係者、
子どもの貧困・生活困窮者支援に関心のある方、自治体関係者

1 基調講演

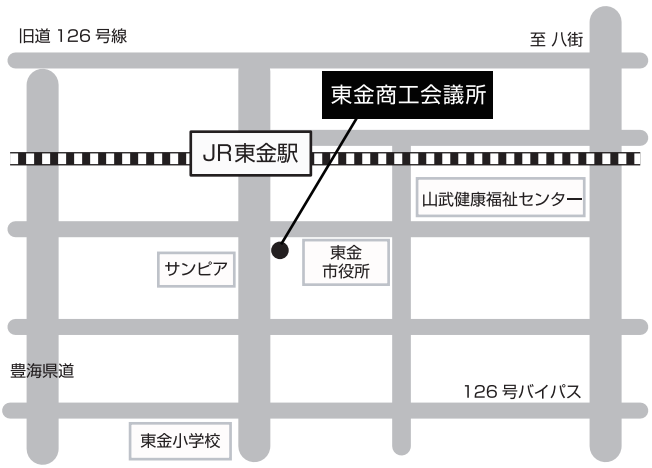
「子ども食堂・学習支援・居場所・フードバンク等、地域で子どもを支えるとは・・・」

講師 米山 けい子 氏

認定NPO法人フードバンク山梨 理事長
全国フードバンク推進協議会 代表
「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー実行委員会 相談役

2 中間報告

- 学び舎・ゆーすぽーと
- サテライト（キッズふくおか）



参加申込書 ※下記の参加申込書に記入の上、FAXにてお申込み下さい。なお、電話でのお申込みもお待ちしております。（事前申込要）

参加者氏名 1		所属	
参加者氏名 2		所属	

●主催 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 東金市東金425-2 Tel:0475-53-3630
FAX 0475-53-3631

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

子どもを地域で包括的に支援するアウトリーチ型多機能拠点づくり事業

学び舎・ゆーすぽーと
活動報告会

2020年 3/5(木) 13:30～16:20

参加費 無料 事前申込必要

「学び舎・ゆーすぽーと」は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の
社会福祉振興助成事業の助成を受け、2017年度から実施している事業です。
地域に拠点と専門の職員を配置し、「相談支援、居場所、学習支援、体験学習、食事提供、送迎」等の
多機能支援を行い、現状の問題からの脱却や子どもが自立できる力を育むことを目的に実施しています。

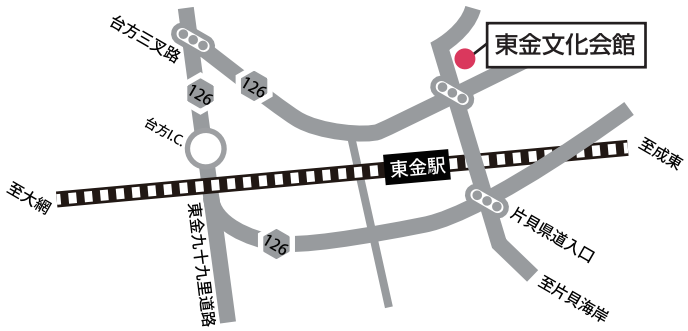
- 開会 13：30 ～ 13：40
- **基調講演** 13：40 ～ 15：10 ※質疑応答含む

「子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて ～キッズドアの取り組みから～」

講師 渡辺 由美子氏

特定非営利活動法人キッズドア 理事長
内閣府 子供の貧困対策に関する有識者会議 構成員。
厚生労働省 社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員。
全国子どもの貧困学習支援団体協議会副代表幹事。

- 休憩 15：10 ～ 15：15
- **活動報告** 15：15 ～ 16：15 ※質疑応答含む
  学び舎・ゆーすぽーと
- 閉会 16：15 ～ 16：20



場所 東金文化会館 会議室2
（東金市八坂台1丁目2107-3 TEL.0475-55-6211）

定員 60名

対象 子どもの育成・地域支援活動に携わるボランティア・市民活動関係者、教育関係者、児童養護等の関係者、
子どもの貧困・生活困窮者支援に関心のある方、自治体関係者

参加申込書 ※下記の参加申込書に記入の上、FAXにてお申込み下さい。なお、電話でのお申込みもお待ちしております。（事前申込要）

参加者氏名 1		所属	
参加者氏名 2		所属	

●主催 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 東金市東金425-2 Tel:0475-53-3630
FAX 0475-53-3631

フードバンク活動から見える子どもの貧困

2019年　12月　14日

米山　けい子
認定ＮＰＯ法人フードバンク山梨　理事長
全国フードバンク推進協議会　　代表理事

1. フードバンク山梨の活動
2. 食品ロス
3. アメリカのフードバンク
4. 日本の貧困
5. 子どもの貧困
6. フードバンクこども支援プロジェクト
7. 学校現場から見える子どもの貧困
8. 乳幼児応援プロジェクト
9. 全国フードバンク推進協議会の取り組み
10. 利用者の声

フードバンク山梨の活動

1．食品ロス削減（食べられるのにも関わらず廃棄される食品の活用）
企業や市民から食べられるのにも関わらず捨てられてしまう食品の寄贈
これまでの取扱い総重量：770トン

2．食のセーフティネット事業
月2回、120世帯へ行政と連携をした食料支援を年間約2500世帯へ実施

3．フードバンクこども支援プロジェクト
学校、行政と連携をし、夏休み・冬休みに食料支援・学習支援・楽しいイベントの実施
延べ8548人の子どもを支援

4．乳幼児応援プロジェクト
年2回、乳幼児のいる世帯へミルク・おむつ・食品の無料配布や、歯科・健康相談や法律相談、親子で楽しめるイベントを実施　　3回の実施で65世帯、204人の親子を支援

5．学習支援「えんぴつひろば」
フードバンクこども支援プロジェクトで応援している子どもたちへ学習のサポート
延べ1457人の子どもへ支援

6．福祉施設・団体との連携
児童養護施設や障がい者施設、支援団体、子ども食堂などに食品を提供
現在56団体と連携

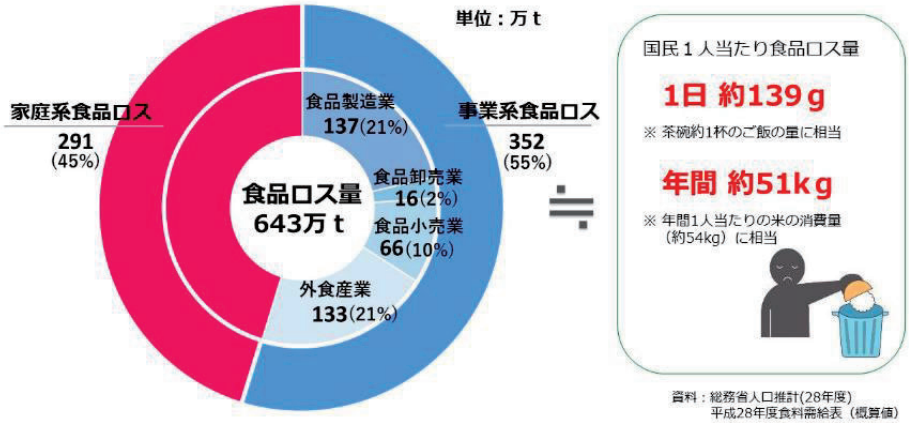
7．市民のフードバンク活動への参加促進
①食料支援の箱詰め作業　②学習サポート、昼食作り　③イベントへのお手伝い
などのボランティア　　年間1500人のボランティア参加

認定NPO法人 フードバンク山梨

2.食品ロス

認定NPO法人 フードバンク山梨

食品ロスの現状



※農林水産省ホームページより

認定NPO法人 フードバンク山梨

寄贈される食品の例

外箱の破損

販売期限切れ・返品

防災品

フードドライブ（一般家庭）

フードバンクとSDGｓとの関わり

フードバンクに関係する目標

SDGs（持続的な開発目標）とは・・・

誰一人取り残さないをテーマに地球に住む全ての人が今よりもより暮らしやすい社会を実現するため、2030年までに経済・社会・環境など様々な課題に、国連に加盟している全ての国が取り組むと決められた**世界共通の目標**

日本政府は、SDGs達成に資する優れた取組を行っている企業・団体等をSDGs推進本部として表彰している

ジャパンＳＤＧｓアワード

「食品ロス削減推進法」

基本方針等

・政府は、食品ロスの削減の推進に関する基本方針を策定（閣議決定）
・都道府県・市町村は、基本方針を踏まえ、食品ロス削減推進計画を策定

基本的施策

①消費者、事業者等に対する教育・学習の振興、知識の普及・啓発等
※必要量に応じた食品の販売・購入、外食で食べきれなくなった食品の持帰り等、消費者と事業者との連携協力による食品ロスの削減の重要性についての理解を深めるための啓発を含む
②食品関連事業者等の取組に対する支援
③食品ロスの削減に関し顕著な功績がある者に対する表彰
④食品ロスの実態調査、食品ロスの効果的な削減方法等に関する調査研究
⑤食品ロスの削減についての先進的な取組等の情報の収集・提供
⑥フードバンク活動の支援、フードバンク活動のための食品の提供等に伴って生ずる責任の在り方に関する調査・検討

食品ロス削減推進会議

内閣府に、関係大臣及び有識者を構成員とし、基本方針の案の作成等を行う食品ロス削減推進会議
（会長：内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全））を設置

施行期日：公布日から起算して６月を超えない範囲内において政令で定める日

関係省庁の大臣も出席する食品ロス削減推進会議

内閣府特命担当大臣や農林水産大臣、環境大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣に加え、
学識者や食品企業など、様々なセクターの専門家20人で構成

写真：2019年11月25日「第1回食品ロス削減推進会議」

認定NPO法人 フードバンク山梨

3.アメリカのフードバンク

認定NPO法人 フードバンク山梨

アメリカのフードバンクの歴史

・1967 年に活動開始
50年の歴史があり、203団体ものフードバンク団体が設立

・フードバンクから食料支援を受けている困窮者は全米で
年間約**3700**万人
その内**1400**万人（38%）が子どもである

出所：http://www.foodbankforwestchester.org/about- hunger/hunger-in-america

・企業、個人からの寄付、行政からの助成金が主な収入源

認定NPO法人 フードバンク山梨

シカゴのフードバンク

総工費25億円のオフィス
１万人以上の市民からの寄付により建設

写真提供　「フードバンクという挑戦」著者　大原悦子氏

認定NPO法人 フードバンク山梨

食品を集める取り組み、政府からの支援

アメリカ政府がフードバンクをサポート
現物の食品寄贈が約２０億円分、現金支援が約２億円

農作物価格安定政策により買い上げられた作物は、
フードバンクに寄贈される仕組みがある

認定NPO法人 フードバンク山梨

アメリカのフードドライブ

郵便局の全面的な協力

・「スタンプアウトハンガー」イベントを開催
・全米の郵便配達人が２３万人参加し、郵便物とともに市民から
３万３千トンの食品を回収

認定NPO法人 フードバンク山梨

大統領がフードバンクでボランティア

オバマ前大統領

ブッシュ前大統領

認定NPO法人 フードバンク山梨

4. 日本の貧困

認定NPO法人 フードバンク山梨

困窮世帯への食料支援のきっかけ

広がる生活苦 悲痛SOS

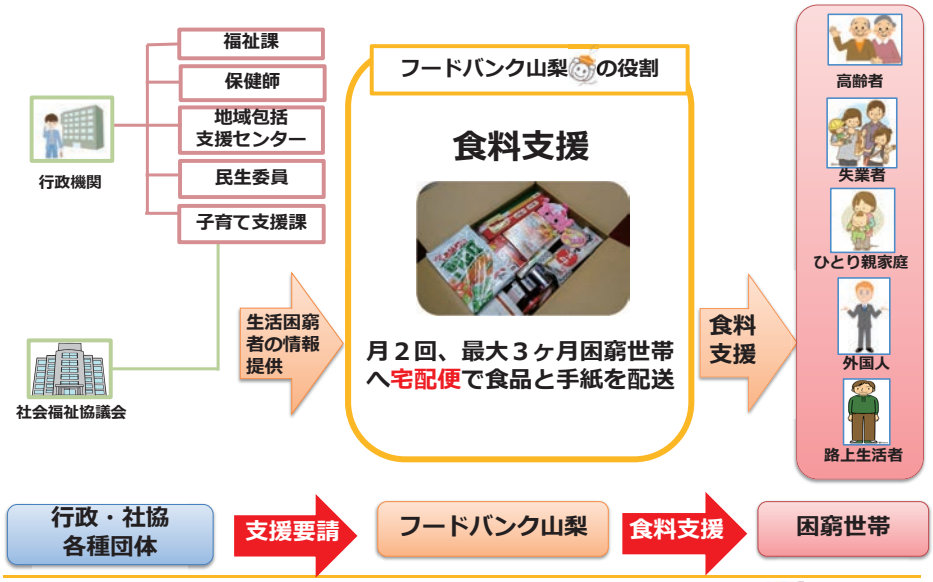
フードバンク 県内NPO法人 活動2ヵ月

夫が失業…一家4人おかゆでしのぐ、頼る所なし

供給量不足、

山梨日日新聞（二〇〇九年十二月一〇日）

食のセーフティネット事業の仕組み



行政・社協
各種団体 → 支援要請 → フードバンク山梨 → 食料支援 → 困窮世帯

認定NPO法人 フードバンク山梨

世帯に合わせた食品の箱詰め

2018年度はのべ2478世帯へに約21トンの食品を発送

・毎月2回、ボランティアと共に食品を梱包し、配送
・個人別ファイルの家族構成にあわせて食品箱詰めを実施

認定NPO法人 フードバンク山梨

お渡しする食品の例

世帯によってお送りする食品は異なり、１つ１つ心を込めて箱詰めを実施

お菓子が沢山入った家族用の箱

乳児のためのミルクや離乳食が入った箱

箱の重さ：１～２人世帯は平均７kg、３人以上の世帯は１２kg

認定NPO法人 フードバンク山梨

5. 子どもの貧困

海外の子どもの貧困

アフリカ　マリ訪問

世界の中の日本

3 総合3 12版▲ 2016年(平成28年)4月14日 木曜日 亨月

朝日新聞

子ども貧困格差 日本ワースト8

先進41カ国で34位 ユニセフ報告

最貧困層の所得、標準の4割

最貧困層の子どもは、標準的な子どもと比べてどれくらい厳しい状況にあるのか。その格差を分析したところ、日本は先進41カ国中34位で、悪い方から8番目だった。国連児童基金（ユニセフ）が報告書をまとめ、14日発表する。日本について分析し、国際比較したのは初めて。

子どものいる世帯の所得分布（推計値）をもとに、下から10%目と真ん中との所得格差が大きいほど、子どもの貧困の深刻度が高いとして、格差の小さい順に、欧州連合（EU）または経済協力開発機構（OECD）に加盟する先進41カ国を順位付けした。

上位の北欧諸国では、最貧困層の子どもの所得は、標準的な子どもの6割ほどだった。日本では最貧困層の子どもは、標準的な子どもの4割に満たない。

日本語版の解説を担当した首都大学東京子ども・若者貧困研究センター長の阿部彩さんの分析によると、1985年から2012年にかけ、格差は拡大している。真ん中の所得が約177万円から211万円に上がったのに対し、最貧困層の所得は90万円から84万円に下がったため。

阿部さんは「貧困が広がっているだけでなく、深刻度も高い現状が明らかになった。日本は平等社会だと幻想を抱いていると、さほど深刻に思えないかもしれないが、幻想を早く捨て、貧困と格差に対処する覚悟が必要だ」と話している。

各国の所得は、13年の調査データに基づく推計。日本の所得は、厚生労働省の13年国民生活基礎調査による12年の数値に基づく。

報告書は、所得、教育、健康、生活満足度の四つから分析した。（田中陽子）

■子ども貧困格差（小さい順）

1	ノルウェー
2	アイスランド
3	フィンランド
4	デンマーク
5	チェコ
：	：
34	日本
：	：
37	イスラエル
38	ギリシャ
39	メキシコ
40	ブルガリア
41	ルーマニア

世界の中の日本

日本の子どもの貧困率は13.9%、7人に1人（280万人以上）の子どもが生活困窮状況にある

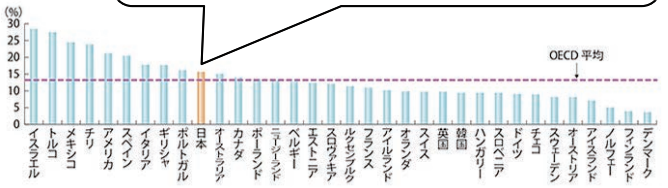
子どもの貧困格差
ユニセフ（2017）

1	アイスランド
2	ノルウェー
3	デンマーク
4	フィンランド
5	キプロス
：	：
32	日本
35	米国
37	チリ
38	ルーマニア
39	イスラエル
40	ブルガリア
41	メキシコ

子どもの貧困格差は、ワースト10

子どもの相対的貧困はOECD加盟国34か国中10番目に高く、OECD平均を上回っている

※相対的貧困とは、親子2人世帯の場合、月額14万円以下で暮らしている世帯



出典：内閣府「子供・若者白書（2016年度版）」

相対的剥奪指標

3つ以上チェックがつかない場合は生活困窮世帯とみなす大田区の貧困を測定する指標

項目

- 海水浴に行く
- 博物館・科学館・美術館などに行く
- キャンプやバーベキューに行く
- スポーツ観戦や劇場にいく
- 毎月お小遣いを渡す
- 毎年新しい洋服・靴を買う
- 習い事に通わせる
- クリスマスのプレゼントをあげる
- １年に１回程度家族旅行にいく
- 子どもの年齢にあった本がある
- 子供用のスポーツ用品・おもちゃがある
- 子どもが自宅で宿題をすることができる場所がある

等

おおた子どもの生活応援プラン　参照
https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/press/release28/20161202/files/172_20161202gaiyo.pdf

食品を送った方からの返信ハガキ

品物が届きました。当日私は前日から続く偏頭痛で伏せっていました。孫は朝から玄関にハンコを用意して待っていました。
ここに書くのは恥ずかしいのですが、ここ数年ほんとに大変な思いをしてました。２年前、１日に豆腐１丁しか食べさせることが出来ない時がありました。体の大きな孫は空腹で眠れずに夜中にフト気付くと台所でボーッと立ちすくんでいました。その姿は、今でも忘れる事が出来ません。今皆さまにこうして
助けていただいて
本当に感謝しています。

（祖母と孫の二人暮らし）

日本人はインドのことよりも、

日本の中で貧しい人々への配慮を

優先して考えるべきです。

愛はまず手近なところから始まります。

～マザーテレサのことば～

全国初！

6. フードバンクこども支援プロジェクト

2019年 夏　フードバンクこども支援プロジェクト実績

フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	**637**世帯
母子世帯割合	**502**世帯（全体の**79**%）
18才以下の子どもの人数	**1342**人
連携学校数	**90**校
学校からの申請件数	**572**世帯（全体の**90**%）
延べボランティア参加者数	**425**名
協賛企業・団体数	**177**企業・団体

認定NPO法人 フードバンク山梨

フードバンクこども支援プロジェクト

子ども達に笑顔になってほしいという思いと、自分たちの気持ちを込めてやるようにしていました。

約400人の
世代を超えた
ボランティア参加

～スタートイベント～

認定NPO法人 フードバンク山梨

フードバンクこども支援プロジェクト

- 地域の課題を地域で解決する取り組み
- ボランティア体験をすることで貧困・食品ロス・地域の課題について考え、行動する場づくり

～スタートイベント～

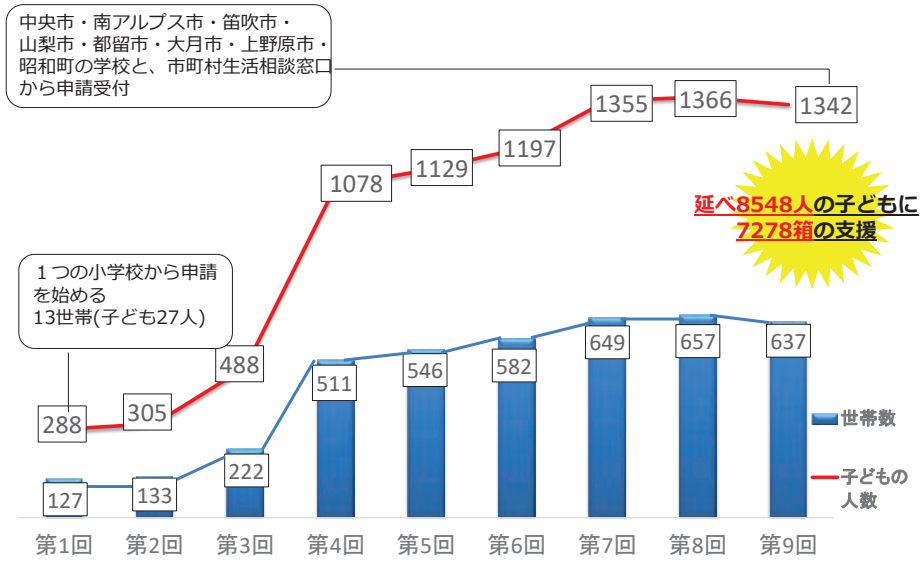
認定NPO法人 フードバンク山梨

お渡しする食品の例

箱の重さ　約１2kg
お米6キロ、調味料、インスタント食品、日用品の他、子どもが喜ぶお菓子等

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用世帯数推移　2015年～2019年夏



認定NPO法人 フードバンク山梨

山梨県内8市町と「子どもの貧困対策連携協定」を締結

市・教育委員会・フードバンク山梨

南アルプス市
2017年5月　22校

中央市
2016年5月　8校

笛吹市
2016年12月　19校

山梨市
2017年6月　11校

都留市
2017年6月　11校

大月市
2017年7月　7校

上野原市
2018年6月　8校

昭和町
2019年5月　4校

認定NPO法人 フードバンク山梨

楽しい機会を創出する取り組み

バーベキューや自然散策
（公益財団法人と連携）

バスツアー
（企業と連携）

ピエロによるマジックショー

ヴァンフォーレ甲府の試合に
無料招待

認定NPO法人 フードバンク山梨

市民参加のフードドライブ

一般家庭の食品を寄付し、寄付された食品を福祉施設や困窮世帯に提供する活動

- **市民同士が助け合う共助の関係を築くことにつながる**
- **寄付者自身が食品ロスや貧困問題を考える機会になり、市民のフードバンクに対する認知度向上にも貢献できる**

認定NPO法人 フードバンク山梨

フードドライブ集荷拠点

市役所・社協

- 中央市社会福祉協議会
- 南アルプス市社会福祉協議会
- 笛吹市役所生活援護課
- 山梨市社会福祉協議会
- 都留市社会福祉協議会
- 上野原市社会福祉協議会
- 大月市社会福祉協議会
- 北杜市社会福祉協議会
- 韮崎市社会福祉協議会
- 昭和町社会福祉協議会
- 市川三郷町社会福祉協議会
- 富士川町社会福祉協議会
- 身延町社会福祉協議会
- 南部町社会福祉協議会
- 早川町社会福祉協議会
- 富士河口湖町社会福祉協議会
- フードバンク山梨百々・甲府事務所

スクールフードドライブ

- 甲府昭和高等学校
- 増穂小学校
- 峡南高等学校
- 山梨学院短期大学
- 甲府支援学校
- 甲陵中学校・高等学校
- 塩山高等学校
- 甲府東高等学校
- 身延山大学
- 富士北稜高等学校
- 甲府城西高等学校
- 巨摩高等学校
- 共立高等看護学院
- 身延山高等学校
- わかば支援学校
- 山梨学院高等学校
- 甲府西高等学校
- げんき夢こども園
- 山梨英和大学
- 日川高等学校
- ろう学校
- かえで支援学校
- 山梨英和中学校
- 高等学校
- 白根高等学校
- 農林高等学校
- 中央高等学校
- 玉穂中学校

2018年冬　市役所・社協18拠点、学校他27カ所

認定NPO法人 フードバンク山梨

スクールフードドライブ（教育機関でのフードドライブ活動）

高等学校PTA連合会連携協定締結

甲府昭和高等学校

共立看護学校

甲府東高等学校

日川高等学校

甲陵中学校・高等学校

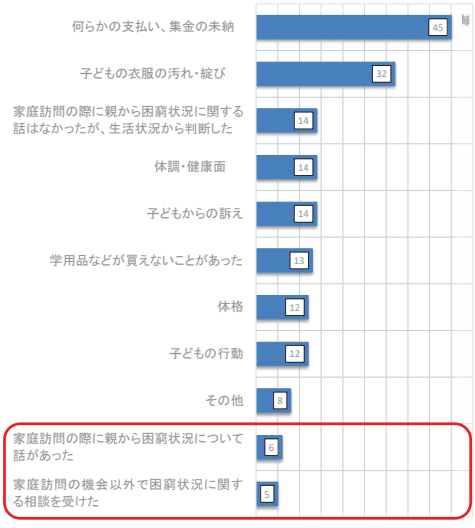
2018年冬　27校が参加

認定NPO法人 フードバンク山梨

7. 学校現場から見える子どもの貧困

認定NPO法人 フードバンク山梨

2016年教員へのアンケート調査



日新聞　2017年(平成29年)2月12日(日)　山梨　28

「子ども貧困」5割痛感

小中学校教員アンケ　学習意欲に影響も

対象教員数	回収数	回収率
212	153	72.2%

認定NPO法人 フードバンク山梨

2016年教員へのアンケート調査の記述より

運動靴がボロボロで、何年も使っているようであった。体育祭も近いので、他のはあるかと聞いたら「これしかない」と言っていた。

身体測定で、体重が増えていないまたは、低下している。

身体のよごれ、髪がからまり、ボサボサになっている。むし歯が多く、放置されている。（治療しない）

弟妹にごはんを食べさせるため、自分はあまり食べない。

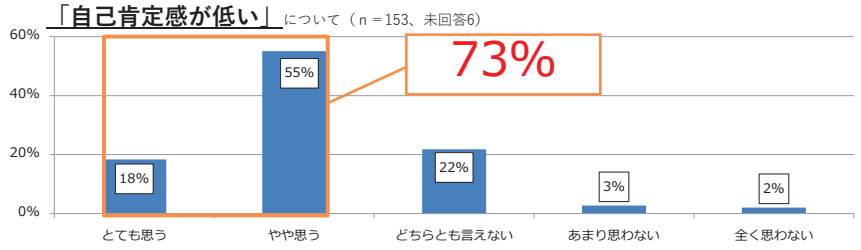
部活動の大会時、お弁当を持って来なければならない日の連絡を電話で話したところ、給料日前でお金がなく、つくれないので“欠席させる”という連絡があった。

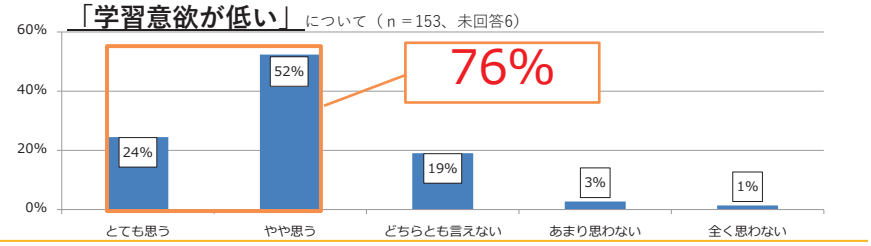
4月にはそろえることができず、少しずつ学用品をそろえている。

認定NPO法人 フードバンク山梨

貧困が子どもに与える影響

一般的に，貧困世帯（と思われる）子どもは，それ以外の子どもと比べて，以下の項目が当てはまると思いますか。





認定NPO法人 フードバンク山梨

学習支援（えんぴつひろば）

- 毎週土曜日・日曜日に教員OBや学生が学習支援・昼食・居場所を提供
- 子どものべ1457人が参加

認定NPO法人 フードバンク山梨

8. 乳幼児応援プロジェクト

2016年　利用者へのアンケート調査

山梨日日新聞　2017年（平成29年）6月9日　金曜日

県内NPO調査

経済的困窮 早い時期から深刻

出産、幼児期が3割

生活困窮世帯に食料支援をしている認定NPO法人「フードバンク山梨」が8日発表したアンケート結果によると、支援対象の世帯が経済的に苦しいと感じるようになった時期は「第1子出産前」から「第1子が幼児のころ」にかけてが全体の3割に上った。

同法人は、子どもの貧困に周囲が気付く時期は進学後が多いとし、「調査を通じて母親の出産前や直後から、深刻な状況に置かれているが子どもが少なくない実態が分かった」と指摘。今後、幼稚園や保育園と連携し、支援の輪の拡大を図るとしている。

アンケートは昨年12月下旬、同法人が食料支援をした県内の511世帯を対象とし、171世帯から回答を得た。母子世帯が最多の125世帯（73・1%）を占め、両親がいる世帯が39世帯（22・8%）、父子世帯が6世帯（3・5%）などだった。

経済的に苦しいと感じるようになった時期は「第1子出産前」「第1子出産直後」「第1子が幼児のころ」を合わせると31・6%に上った。子どもの乳幼児期に、ミルクやおむつが不足した経験は、「あった」「ときどきあった」「まれにあった」が計41・5%だった。

経済的に苦しくなったきっかけ（複数回答）は「離婚」が32・7%で最多。「借金」(23・4%)、「転職」「リストラや失業」（ともに18・7%）など。母子世帯の年収は0～300万円未満で計89・6%を占めた。

また、子どもの出生から食料支援を受けるまでの経験として「自殺をしたいと思った」とした人は22・2%に上った。

同法人の米山けい子理事長は「予想以上に、子どもが小さいうちから困窮している世帯が多かった」と説明。同法人は現在、中央市や笛吹市などと協定を結び、小中学校を通して食料支援の希望者を募っているが、今後は保育園や幼稚園との連携を検討する考えを示した。〈渡辺真紗美〉

経済的に苦しいと感じるようになった時期（%）

時期	%
第1子出産前	9.9
第1子出産直後	8.2
第1子幼児	13.5
第1子小学低学年	19.3
第1子小学高学年	11.7
第1子中学生	8.8
第1子高校以上	2.3
その他	24.0
無回答	2.3

経済的に生活が苦しくなったきっかけ
※回答の上位6項目を抜粋、複数回答%

きっかけ	%
離婚	32.7
借金	23.4
転職	18.7
リストラや失業	18.7
複数の子どもの養育	15.8
自分の病気	15.2

●経済的に苦しいと感じるようになった時期は「乳幼児期から」という回答が31.6%

●オムツやミルクが不足した経験「あった」と答えたのは41.5%

●「自殺したいと思った」と答えたのは22.2%

保育園アンケート調査の記述欄から

衣類がカビている。サイズのあっていないものを着ている。
着替えていない（何日も）

食べることに執着することが多く、床に落ちている
(他の子が落としたもの)
ものまで食べようとしていた。

500円前後の集金を
「月末まで待ってほしい」
と言われる。

朝食を食べておらず、外へ遊びに行ったが、フラフラと部屋の方へ歩いて戻ってきて、テラスに倒れ込んだ。

お風呂に入っていない。虫歯が多い。病気やケガの手当てができていない。

保育料が引き落としする日に残高がないのか、毎月されず、後日園に保育料を持ってきて支払う

乳幼児応援プロジェクト

乳幼児のいる世帯にミルクやおむつ、食品などを届ける
イベントを開催

認定NPO法人 フードバンク山梨

フードバンクすくすくベビーフェスタ

ミルク・おむつ配布と医師会、弁護士会、歯科衛生士会等との連携で相談支援

フードバンク山梨

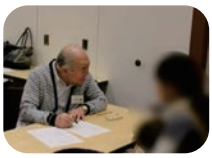
ヒアリング
食品、ミルク、おむつ配布
アンケート調査

子どもの遊び場

ちびっこキャラバン
バルーンアート

健診と相談

法律相談
家計相談
子育て相談
歯科相談
健康相談
歯科検診



医師による健康相談

法律相談

歯科検診

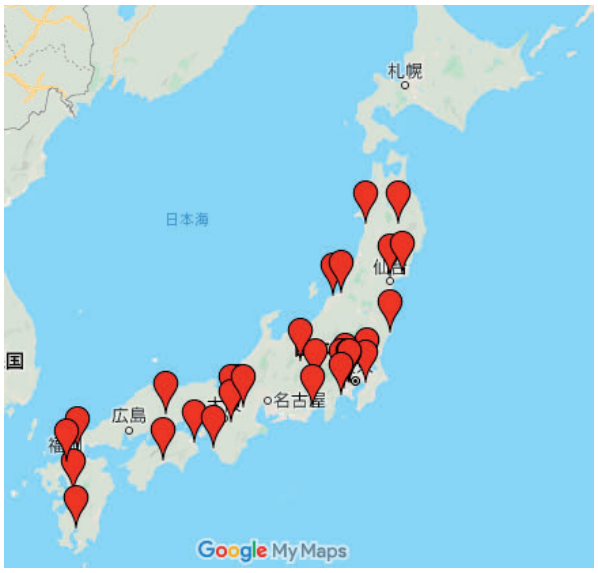
認定NPO法人 フードバンク山梨

9. 全国フードバンク推進協議会の取り組み

認定NPO法人 フードバンク山梨

全国フードバンク推進協議会　加盟団体

フードバンクあきた（秋田県秋田市）
フードバンク岩手（岩手県盛岡市）
ふうどばんく東北AGAIN（宮城県富谷市）
ＮＰＯ法人ザ・ピープル
（フードバンクいわき・福島県いわき市）
フードバンクいしのまき（宮城県石巻市）
フードバンク茨城（茨城県牛久市）
フードバンクネット西埼玉（埼玉県所沢市）
フードバンクちば（千葉県稲毛区）
フードバンク狛江（東京都狛江市）
フードバンクみたか（東京都三鷹市）
フードバンクTAMA（東京都日野市）
フードバンク八王子えがお（東京都八王子市）
フードバンクひらつか（神奈川県平塚市）
NPO法人Ｗｉｓｈ（神奈川県相模原市）
フードバンク調布（東京都調布市）
フードバンクにいがた（新潟県新潟市）
フードバンク山梨（山梨県南アルプス市）
NPOホットライン信州（長野県松本市）
ＰＯＰＯＬＯ（静岡県静岡市）
フードバンクしばた（新潟県新発田市）
フードバンク滋賀（滋賀県草津市）
セカンドハーベスト京都（京都府京都市）
フードバンク和歌山（和歌山県和歌山市）
フードバンク奈良（奈良県生駒郡）
フードバンクびわ湖（滋賀県甲賀市）
フードバンク高知（高知県高知市）
順正デリシャスフードキッズクラブ
（学校法人順正学園・岡山県高梁市）
フードバンクとくしま（徳島県徳島市）
フードバンク北九州（福岡県北九州市）
社会福祉法人南苑会熊本藤富保育園
（フードバンク熊本）
NPO法人Joyステーション（鹿児島県霧島市）
フードバンク福岡（福岡県福岡市）
フードバンク奄美（鹿児島県奄美市）

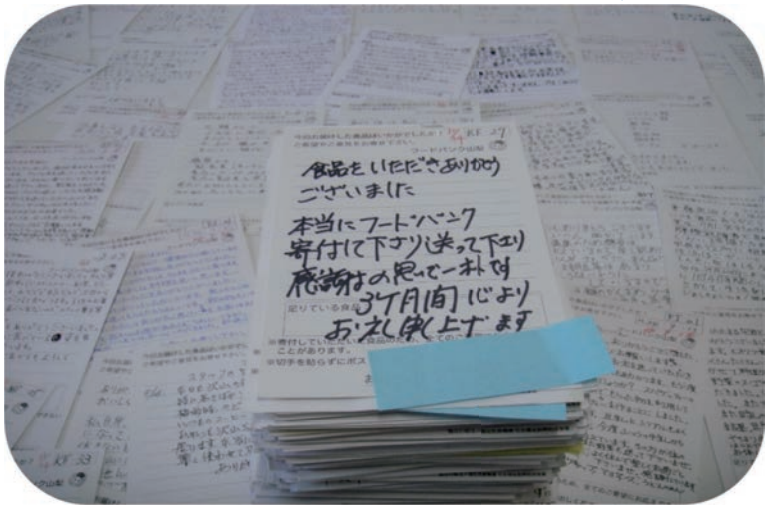


2015年11月13日設立時11団体、2019年11月現在**33団体**

認定NPO法人 フードバンク山梨

10. 利用者の声

5000通以上



認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声①

私は今月お米を買わなくてすみました。牛乳や玉子、納豆、チーズ、お肉などのいつももっと多めに食べさせてやりたかったものにお金をまわす事ができました。

それでも5000円以上の出費をおさえる事ができ、有難くて涙がでます。

２年以上穴の空いた靴をはいている孫になんとか靴をと考えています。

皆様には感謝してもしきれません。柔軟な対応をしてくださいまして本当にありがとうございました。

（祖母と孫の二人暮らし）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声②

新聞やテレビでフードバンク山梨の活動を拝見させていただきました。

手元に届くまでの間、沢山の方の心、時間、お手数が関わっていることを改めて実感しました。

子どもたちと箱を開ける時のワクワクした気持ち、
中身を見た時の子ども達の笑顔を嬉しく見つめています。

ギフト券は文房具など必要時に使わせて頂いています。

（子ども2人の家庭）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声③

クリスマスの夜にフードバンクさんからの荷物が届き、子ども達はサンタさんから来たんだと、とても喜んでいました。

こども券も大事に使わせていただき、楽しいクリスマスを送れました。本当に有難うございました。

子ども達をお店に連れていき、新しい靴を買いました。すごく嬉しそうでした。

（母子家庭　子ども３人）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声④

この度は、食糧支援をしていただき、本当にありがとうございました。
荷物が届き中を見て感激しました。
子供もとってもいい笑顔で喜んでいました。

フードバンクの車でフードバンクのジャンバーを着た人が配達してくれるものと思っていたのですが、郵便配達でご近所に知られる事もなく、少しホッとしました。

いろいろとご配慮していただき、感謝いたします。

なんとか今の苦境を乗り越え頑張っていこうと思います。

（母子家庭　子ども１人）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声⑤

いつも届くのが楽しみです。あけた時にいつもにこにこしてしまいます。

私も人を助ける仕事や人の役にたつ仕事にしょうらいつきたいです。

フードバンクのみなさん、いつも、いつも届けていただき本当に、本当にありがとうございます。

（１２才長女より）
（父子家庭　子ども2人）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声⑥

いつもありがとうございます。

今回も子供と一緒に段ボールを開けました。

最初に目に飛び込んできたのは

「まいにちが きみにとって たのしくありますように」

のメッセージカードでした。目頭が熱くなり涙があふれてきました。

中々食品が集まらないという新聞記事を見たので、
今回は難しいのかな･･･っと思っていましたが、
たくさんの食品が届いたので本当にうれしく思いました。

いつも感謝しています。
ありがとうございました。

（母子家庭　子ども２人）

認定NPO法人 フードバンク山梨

利用者の声⑦

皆様へ　援助を頂きありがとうございます。

子供２人を育てながら、仕事をしていて不安がいっぱいの中、暖かいお手紙と食品を頂き、涙が止まりません。

常に手紙を持ち歩き、心が詰まった時に目を通すと励みになります。

一人ではないのだと・・・・・。

（母子家庭　子ども２人）

認定NPO法人 フードバンク山梨

母親とこどもが一緒に箱を開ける様子

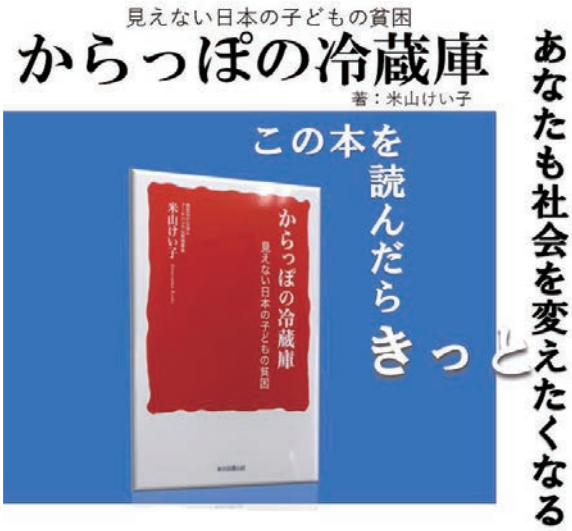
認定NPO法人 フードバンク山梨

賛同から参加へ

皆様のご協力をお願いします

認定NPO法人 フードバンク山梨

10周年記念「からっぽの冷蔵庫」刊行いたしました



金額：１１００円

フードバンク山梨で
お買い求めいただけます。

※販売利益は全てフードバンク活動に利用します。
※この本は朝日新聞厚生文化事業団の助成により作成されました。

認定NPO法人 フードバンク山梨

２０１９年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業
「子どもを地域で包括的に支援する
アウトリーチ型多機能拠点づくり事業」報告書

発行日　2020 年３月 31 日
発行者　特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金４２１番地
Tel:0475-53-3630／Fax:0475-53-3631

※無断コピー及び転載を禁じます。コピー・転載・引用等される
際には、必ずご連絡いただきますようお願いいたします。